

「八幡史学館」資料 第8シリーズ 平成25年

番号	表題	内容	実施日	講師	備考
		平成25年度八幡公民館主催事業一覧表			
1	「八幡史学館」第1回講座		平成25年7月9日	山岸弘明	
◎		プロローグは「八幡名所100選」から 八幡史学館名所100選チーム、市川本店文書を解説、八幡小学校設立伺い、八幡名所100選、街道を歩く(房総往還=読売新聞)			
2	「八幡史学館」第2回講座		平成25年8月27日	山岸弘明	
◎		午前=八幡の起源、飯香岡八幡宮 創建神話の時代(産土神)、岩清水八幡宮時代、市原八幡宮時代、飯香岡八幡宮時代(室町中期～) 八幡の地名は八幡宮に由来、八幡宮縁起と由緒本記、源氏の氏神として発展、飯香岡八幡宮の移動由緒関係資料 午後=飯香岡八幡宮現地巡見(境内、昇殿参拝、宝蔵庫見学) 正面参道周辺のみどころ、夫婦いちょう周辺のみどころ、社殿外観、			
3	「八幡史学館」第3回講座		平成25年9月24日		
◎		八幡あれこれ「海と子供のこの八幡」 八幡五所浦の特徴、海面の全面放棄、海と四季、舟遊び、紗魚つり、石蟹取り、海髪採り、かれいとり、つつっほ、ぼさ、かいぼり せん、海ほおづき、要約 八幡の歳時記「歳時記を通して知る八幡」 八幡宮、子安講、卯の日まつり、初午、浅間神社と富士信仰、臨海まつり、お釈迦さまと閻魔さま、盆踊り、田植え、さなぶり、 年中行事、八幡地区の行事、ひぼとき、ひな祭り、端午の節句、幟旗に鍾馗様		佐倉東雄	
◎				石井 勇	
4	「八幡史学館」第4回講座 (資料欠落)		平成25年10月29日	山岸弘明	
◎		八幡の五大力船～明治維新时期戸長文書を中心に			

5	「八幡史学館」第5回講座（資料欠落）		平成25年11月7日	山岸弘明	
	◎	国分寺地区現地研修			
6	市原市市制施行50周年記念事業(主催八幡公民館運営委員会、主管八幡史学館)				
		記念講演会「上総国府について」	平成25年11月23日	田所 真	175名参加
		むかし映写会「戦前の八幡」 資料欠落	平成25年11月23日	八幡史学館チーム	
		お茶のもてなし 資料欠落	平成25年11月23日	八幡史学館チーム	
		「市原地区「のあゆみ」展示会 資料欠落	平成25年11月23日	八幡史学館チーム	
		八幡宿駅市民ギャラリーで「市原地区のあゆみ展」を開催	平成25年11月24日	八幡史学館チーム	
7	辰巳公民館主催事業「歴史散歩」				
		①横浜開港ものがたり～それはペリーではじまった	平成25年8月30日	山岸弘明	
		②横浜に開国と文明開化を訪ねる(バス研修＝現地研修む	平成25年9月28日	山岸弘明	

平成25年度 八幡公民館 主催事業一覧

☆募集のお知らせは、広報いちほら15日
☆申し込みは、18日朝8:30より窓口または(4)にて受付開始

☆内容・期日は、変更になる場合があります。

平成25年 3月15日 現在

受付日	No	講座名	回数	講師名 内容	時間 対象・定員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
3/18	1	子育てすくすく(前期)	5	野城和子、洞厚子、お話しボランティア、保険医療協会、山口律子 親同士のお話し合い仲間づくりを目指す。	10:00~12:30 幼児と保護者・20組	講話 15月	野外活動 20月	読み聞かせ 24月	歯の健康 25月	ママサークル 19月								子育てについての様々な事柄を学びながら、親同士の交流を深め、支えあえる仲間づくりを目指します。 	
	2	スクエアダンス	4	杉山和子 ダンスの基礎を学び、簡単なステップを踏んで楽しく踊る。	13:30~15:30 一般成人・30名	16 23 30 火 火 火	7 火				みんなで、軽快にステップを踏んで、楽しく踊りましょう。健康維持に役立ちますよ。								
	3	エコバック	2	川井満智子 クラフトテープを使ってバッグを作り、リサイクルへの関心を高める。	9:30~11:30 一般成人・20名	17 24 水 水													
	4	陶芸教室	7	根本正男 土に親しみながら、陶芸の基礎技術を身に付け、作品を作る。	13:30~16:00 一般成人・15名	19 金	24 金	21 金	12 26 金 金	9 23 金 金									作品は、公民館の文化祭で展示します。 
	5	野菜作り体験	6	仲村マチ子 野菜作りの基礎を学びながら、収穫の喜びを味わい関心を高める。	9:00~11:00 家族など・15組			4 土	8 土	13 土	3 31 土 土								家族や友達と一緒に参加しましょう。 
	6	ステキな出会い(春)	2	体験活動や食事を楽しみながら、異性との交流を深める。	12:00~15:00 独身者・男女15名ずつ				19 日	2 日									夢が広がる新しい出会いの場に参加しませんか？
直接	7	お話し広場	20	お話しボランティア 絵本の読み聞かせを通じて、子どもの豊かな感性を育む。	10:00~10:40 幼児と小学生と親	6 20 土 土	18 土	1 15 土 土	6 20 土 土		7 21 土 土	5 19 土 土	2 16 土 土	7 21 土 土	18 土	1 15 土 土	1 15 土 土		
4/18	8	さわやか春の歌	1	高角八重子 春の歌や青春の歌をみんなで楽しく歌い、気分のリフレッシュを図る。	9:30~11:30 一般成人・40名		8 水												
	9	幸せごはん	1	南原真子 家族で食卓を囲める料理を作り、温かい家庭づくりに寄与する。	18:00~20:00 一般成人・20名		11 土				手作りの料理で、家族団らんを楽しみませんか？ 								
	10	お元気体操	3	地域包括支援センターたつみ 介護予防の情報を得て、身体と気持ちの若返りを図る。	9:30~11:30 60歳以上・35名			ボディアクティビティ 13月	3月	1月									
	11	彩サロン	4	中村允、島海哲子、南原真子 学習を通じてゆとりと誇りを持ち、より良い生活や社会貢献を目指す。	13:30~15:00 一般成人・30名	抽選		寄せ植え 21火	バス 22土	男女参画 23火	料理 20火								バス研修では、国立劇場で歌舞伎を鑑賞します。
5/18	12	男の漬物教室	1	木村みどり 手軽にできる漬物作りを体験し、家庭でも挑戦しようとする意欲を養う。	9:30~12:00 一般成人・20名		29 水												
	13	英語で遊ぼう	4	金丸豊穂 ゲームを通じて英語に慣れ親しむ。羽田空港で外国人と国際交流を図る。	9:30~11:00 小学3年までと保護者 10組	抽選				7 14 21 日 日 日	バス 2金								外国人と触れ合い、英会話の楽しさを体験を通じて学びます。
	14	八幡史学館	5	山岸弘明 地域の歴史を振り返り、その背景を学ぶことで地域への理解と愛着を深める。	9:30~11:30 一般成人・50名					9 火	27 火	24 火	29 火	7 木					
6/18	15	スマホ教室	1	KDDI スマホの基本的な操作方法を学び、日々の生活に活かす。	10:00~12:00 60歳程度・24名					24 水									KDDIのインストラクターによるシニア向けスマートフォンの使い方を学びます。
	16	夏休みのポスター	2	ポスターの描き方の基礎を学び、夏休みの課題であるポスターに挑戦する。	9:30~11:30 小学生・10名					27 28 土 日									夏休みの宿題のポスターを公民館で描いてみましょう。
	17	伝統文化に親しむ	1	篠田希代枝、大野由美 伝統文化の体験を通じて、日本古来の文化に興味関心をもつ。	9:30~11:30 小・中学生・10名						1 木								茶道や踊りの体験を通して、日本の文化を学びます。
	18	ヒップホップ	6	レイブダンススタジオ 簡単なビップホップを練習し、仲間と共に文化祭での発表を目指す。	18:00~20:00 小・中学生・20名						7 21 水 水	4 18 水 水	文化祭 2 6 水 日						簡単なビップホップダンスをみんなで楽しく踊りましょう。文化祭で発表します。
7/18	19	パソコン初級教室	2	USB4 ワードの基本操作を学び、ワードの活用法を知る。(初心者)	9:30~11:30 一般成人・20名						ワードで案内文やちらしを作ります。 6 8 火 木								
	20	一日図書館員	1	漆 浩子 図書館司書の仕事を体験し、図書館やそこで働く人への理解を深める。	9:00~12:00 小学4~6年・6名						5 月								キャリア教育として、図書館司書の仕事を体験します。
	21	ヨーガ教室	4	浜 賢太郎 ゆったりとした動作と呼吸で、心と体の活性と健康増進を図る。	18:00~20:00 一般成人・25名						28 水	11 25 水 水	9 水						

平成25年度 八幡公民館 主催事業一覧表

★募集のお知らせは、広報いち、
★申し込みは、18日朝8:30より

(84)にて受付開始

★内容・期日は、変更になる場合があります。

平成25年 3月15日 現在

受付日	No	講座名	回数	講師名 内容	時間 対象・定員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
8/18	22	55歳以上 家読	3	徳永隆憲 読書や読み聞かせを多角的に学び、家での読書を勧める人材を育てる。	9:30~11:30 一般成人・28名 抽選						読み方 12月 木	バス 17月 木	実践 14月 木					
	23	子育てすくすく(後期)	5	千葉友の会、西尾咲恵子 秋葉寛子、保健センター、労働局 親同士の支え合う仲間づくりを目指す。	10:00~12:30 幼児と保護者・20組							食育 30月 月	リトミック 21月 月	体操 25月 月	病氣予防 16月 月	就活 27月 月		
9/18	24	さわやか秋の歌	1	両角八重子 みんなで楽しく歌うことで、気分をリフレッシュし活力を高める。	9:30~11:30 一般成人・40名							16月 水						
	25	ステキな出会い(秋)	2	体験活動や食事を楽しみながら、異性と交流を深める。	12:00~15:00 独身者・男女15名ずつ								27日	食事会 10日				
10/18	26	ペン習字	2	南館記代子 年賀状作成に向けて、筆ペンで整った文字を書く。	9:30~11:30 一般成人・15名													
	27	手作りソーセージ	1	タンノンバーム西野 ソーセージ作りを体験し、作る楽しさ、食品を大切に作る気持ちを育てる。	9:30~12:00 小学生と保護者・15組													
	28	健康料理	1	千葉県栄養士会 健康に良い食材を知り、その効能をいかす料理をつくる。	9:30~12:00 一般成人・20名													
	29	素敵なリース	1	新崎鏡登 ブリザードフラワーでクリスマスリースを作る。	9:30~11:30 一般成人・15名													
11/18	30	いきいき八幡塾	4	長谷川弘、西谷美津子、本吉正幸、八幡消防署 暮らしと地域の課題を学び、日々の生活に活かす。	13:30~15:00 一般成人・34名 抽選													
	31	正月料理	1	南堀薫子 手軽にできるおせち料理の作り方を学びレパートリーを増やす。	9:30~12:00 一般成人・20名													
	32	書き初め教室	2	鍋島恵美子 県の書き初め展の課題を練習し、文字や字配りの上達を目指す。	9:30~11:30 小学3~6年・20名													
	33	正月の生け花	1	斎藤恭子 正月を迎える心構えを学び、正月用の生け花を生ける。	9:30~11:30 一般成人・30名													
12/18	34	園芸プロの技	1	農業センター プロから果樹の剪定を学び、その技術を生活に活かす。	9:30~11:30 一般成人・20名													
	35	更級日記	2	宮本敬一 市原市にゆかりのある更級日記を学び、古典文学に親しみをもち、自分で着付けをする。	9:30~11:30 一般成人・40名													
1/18	36	着付け教室	3	北崎文枝 日本の民族衣装である和服に関心をもち、自分で着付けをする。	13:00~15:00 一般成人・15名													
	37	親子パン作り教室	1	二階堂ゆうみ 塩種入りのパンを親子で楽しく作り、手作りの楽しさを味わう。	9:30~12:00 小学生と保護者・10組													
	38	初級シニア卓球	3	寺屋崇文 卓球の練習を通じて仲間とのコミュニケーションを図り、健康を増進させる。	13:30~15:30 60歳以上・20名													
	39	パソコン中級教室	2	USB84 エクセルの基本操作を学び、エクセルの活用法を知る。	9:30~11:30 一般成人・20名													
2/18	40	太巻き寿司	1	上田悦子 郷土料理である祭り寿司の作り方を学び、習得した技を生活に活かす。	13:00~15:30 一般成人・16名													
募集なし	41	福寿大学	6	労災病院 県消費者センター 様々な学習を通じて親睦を図り、健康で生き甲斐のある生活を目指す。	13:30~15:30 シニア会員・100名													

八幡史学館

H.25.8.27



講師：山岸 弘明氏

「八幡の起源・飯香岡八幡宮」

- ・八幡の地名の由来
- ・飯香岡八幡宮現地巡見



午前の講義

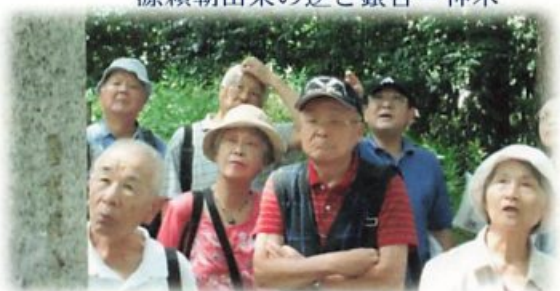


「やわた」の地名は飯香岡八幡宮に由来。

源頼朝由来の逆さ銀杏＝神木



参道大鳥居＝明神型、権現鳥居



石井氏の碑文解説



水盤舎と手水石



放生池＝放生祭と称し八幡宮最大の神事となる



社殿内部見学

講義・現地巡見とお疲れ様でした。八幡の文化財をまた1つ知ることができました。



平成 25 年度八幡公民館主催事業「八幡史学館」第 1 回
プロローグは「八幡名所 100 選」から

平成 25—7—9

山岸弘明

次回以降のスケジュール

第 2 回 = 8 月 27 日 (火曜日) 9 時 30 分 ~ 14 時 00 分

午前 * 八幡の起源 = 飯香岡八幡宮

午後 * 飯香岡八幡宮現地巡見(境内、昇殿参拝、宝蔵庫見学)

昼食持参

第 3 回 = 9 月 24 日 (火曜日) 9 時 30 分 ~ 11 時 40 分

八幡あれこれ (客員講師 * 佐倉東雄)

八幡の歳時記 (客員講師 * 石井 勇)

第 4 回 = 10 月 29 日 (火曜日) 9 時 30 分 ~ 11 時 30 分

八幡の五大力船 * 明治維新时期戸長文書を中心に

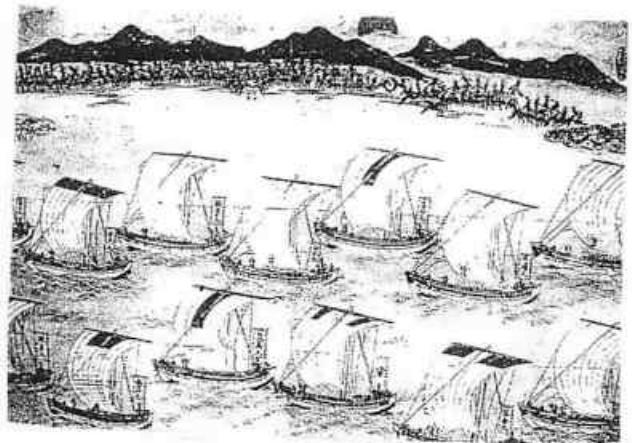
第 5 回 = 11 月 7 日 (木曜日) 9 時 15 分 ~ 16 時 30 分

国分寺地区現地巡見(上総国分尼寺、僧寺俯瞰、稲荷台古墳、古代道、埋蔵文化財センター)

変遷することありキテ



飯香岡八幡宮



五大力船



飯香岡八幡宮



国分尼寺

「八幡史学館名所100選チーム」——みなさんも参加しませんか

1) チームの趣旨と目的

- ①八幡地区の郷土史研究
- ②「八幡名所100選」の選定
- ③「八幡史学館」の運営、協力
- ④その他郷土の歴史文化の発展に資すること

姉妹グループ「市原市の古文書研究会」と連携、郷土史料の掘り起し、解説、公刊を行なっている

2) 最近1年間の主な活動

- ①『石造物にみる「八幡郷土史」市原市八幡の石造物研究』=昨年10月1刷、本年1月2刷発行、在庫ゼロ。中央、八幡図書館などで閲覧ください
- ②『八幡名所100選』=去年12月選定、同名資料作成。八幡公民館ロビー展示、配布中
- ③『市原市大厩、大厩御堂、十二天神社地藏菩薩等石造物群、付；無動山延命寺の石造物、調査記録書』=本年5月完成
- ④『やわたむかし写真館』（八幡公民館ロビー）=本年4月リニューアルオープン
- ⑤南総郷土文化研究会所蔵大型絵図面4枚の縮小版作成=本年4月完成、希望者コピー可能
- ⑥菊間・若宮八幡宮旧神官文書の整理、リストと解説=去年12月完成
- ⑦八幡・市川本店文書の整理、リストと解説=実施中
- ⑧その他月1回の定例打ち合わせ会、飯香岡八幡宮池回り清掃、拓本技術集団による調査活動など
- ⑨八幡公民館創立65周年展示会協力予定

むらかがみ

ごだいきせん

じかたもんじょ

「村鑑明細帳」や「五大力船」など地方文書が続々——市川本店文書を解説

①市川本店

*飯香岡八幡宮旧社家=明治維新まで続いた世襲神職の家筋

*江戸後期創業の醤油醸造所（戦後まで続いた）

*明治維新以後八幡宿戸長と八幡町長を輩出した八幡屈指の旧家
母屋と内庭、店帳場、蔵、門などは江戸後期建築の現存

②同店が所蔵されている文書類（帳面500点、一紙もの数万点）

*明治初期八幡宿戸長文書

*江戸中後期、明治初期旧八幡村関係文書

*江戸後期、明治期醤油など醸造、酒酢等販売した家族経営の吉田屋文書

*江戸時代、飯香岡八幡宮社家関係文書ほか

③市の古文書調査=昭和50年代、市史編纂にともなう資料調査に協力したが、調査チームは明治期文書に関心がなく調査はごく一部だけにとどまったという。

④今回同店の全面ご協力により保存全文書を調査させていただいた。

現在整理、リスト化と解説作業中、「市原の古文書研究」などで順次発表させていただく予定。

⑤当講座では、第4回に「五大力船」関係資料をご紹介します。

名主から戸長へ——明治維新で変革する地方政治

①戸長（こちょう）=明治初期、町村制度施行以前に町村に置いて行政事務をつかさどった吏員。
江戸時代の名主、後の町村長に相当する。

②江戸時代の村々には領主から任命された名主、組頭と、村人たちから選ばれた百姓代といった村役人が置かれていた。彼らは領主の末端管理者として命令伝達や年貢徴収を行なう一方、村を代表して他領との交渉や村の維持、運営にあたった。

③八幡村は8人の領主と八幡宮領による相給で所領ごとに村役人が置かれた。名主間の連絡調整や人馬継ぎ立て、本陣業務、組合村親郷業務、灌漑用水の管理などは名主たちが年番交代で勤めた。

④明治元年7月、徳川宗家家達の駿府移封にともない幕府領と旗本領は没収され、上総房州知県事柴山文平支配下となった。上総に入った芝山ははじめの一か月間八幡村に仮役所をおいた。

- ⑤明治元年8月菊間藩が成立し八幡村は菊間藩領となる。名主は1人に統合され肝入り名主が藩の割元を兼ねた。
- ⑥明治4年7月「廃藩置県」で藩領は菊間県となる。地方行政は藩政時代を継承したといえる。
- ⑦明治4年11月、上総11県と安房4県、宮谷県の一部が合併して木更津県となる。太政官による地方行政区画の「大小区」移行にともない明治5年3月木更津県が50区197画に分けられ市原郡は第32区から37区、八幡は第33区4画に編入された。名主などの村役人が廃止され画ごとに戸長が置かれ、4月に戸長、副戸長選挙が行なわれた。整理途中の断片的資料だが明治5年9月、6年1月の戸長は松田嘉一郎、明治6年5月は松田と川上勘一郎の2人制になっている。
- ⑧明治6年7月、木更津県と印旛県が合併して千葉県が発足、16大区114小区に分けられ、市原郡は第5大区で八幡は2小区となった。区長は官選で扱い所(区役所)は明治7年鶴舞、明治10年は八幡宿になった。小区の戸長も改めて民選され、このころ村名を念願の八幡宿と改称した。
- ⑨市川家の当主甚太郎は千葉県成立、大小区改変にともなう戸長選挙に当選、明治7年7月戸長の官選で退任している。役所を「戸長役場」といったが独立した建物はなく戸長の自宅が当てられた。
- ⑩明治11年「郡村町村編成法」により戸長は再び民選となる。しかし旧名主が選ばれるケースが多く、また「自由民権運動」に参加する者も出るなど政府にとって不都合が多かった。
- ⑪明治18年忠実な戸長確保のため再び官選とし、明治22年の「町村制」で町村長と成った。
- ⑫町村制では機械的に区分された「大小区制」が廃止され元の町村名が復活した。増える事務量への効率的行政運営のために町村合併は避けて通れない。第1次町村合併が始まる。八幡宿は五所金杉村、山木村と合併して八幡町となり役場を八幡においた。明治24年の戸数は677、人口3761、船数は143であった。試行錯誤を繰り返した地方制度は近代化への歩みの中で確実に変化していった。
- ⑬「市川本店戸長文書」は千葉県成立当初の地方行政を物語る「第一級地方文書」といえる。調査解説を通じて八幡の「郷土史」解明に繋げることができるのではないか、と期待している。

*市川本店「戸長文書」の主要所蔵文書

天明7年八幡村村鑑明細帳、江戸後期各領、明治初頭八幡村年貢割付、皆済関係資料、壬申戸籍、戸籍総計関係資料、地租改正、地券関係資料、徴兵関係資料、五大力船出帆関係資料、八幡小学校創立関係資料、村田川架橋関係資料、その他村政関係資料など



明治10年の大小区



村鑑明細帳の一部

八幡小学校創立関係資料、市川本店戸長文書、八幡宿年貢割付、皆済関係資料、壬申戸籍、戸籍総計関係資料、地租改正、地券関係資料、徴兵関係資料、五大力船出帆関係資料、八幡小学校創立関係資料、村田川架橋関係資料、その他村政関係資料など

八幡小学校創立関係資料

市原郡八幡小学校
五所小学校沿革誌
第一巻



五大力船関係資料

①木更津県権令あて八幡小学校仮伺い書

仮小学校伺い書

第三十三区四画 市原郡八幡宿

八幡宿 戸数何百戸、人員何百人
仮小学校位置 第三十三区四画八幡宿何番地所
圓頓寺自宅か借家
建坪何、内畳何

句読教員 圓頓寺住職
習字師、算術兼 白川日装
生徒六歳より十二歳に至る者何百人

集金何々商
右校費用款
仮小学校所 借家賃一か月何程半円くらいか
教員二人、三人くらい相当か
月給一月七両から十兩に至る適宜にすべし
俵一人 一か月一兩くらいか
器械、書籍の備金 右は有志鑿寄付金が戸別割り、
人数割り差し出ししたきこと
薪炭茶油紙墨費入費 一円より以上か
仮小学校積み金 五円より七円くらいまでか
ただし開校の初月は学校付属の小道具に買入れ
置きたく候こと

右何円、一か月十八円より二十円くらい、集金は
適宜に計算のこと 毎月出帳のこと

右は今般至急御達しにつき仮小学校設立方書面の
とおり目的仕り、この段伺い奉り候、もつとも追
々小学校新築の営繕料、書買い入れ入手、当学校
保護のため貯蓄金の条件は先般御布達に相成り候
小学校建立の御規則に照準し、勉勵商議の上、申
上げべく候。以上

第三十三区四画
明治六年三月 市原郡八幡宿

戸長 川上勘次郎
同 松田嘉一郎
木更津県権令柴原和殿
審面のおり相違これなく候につき奥印致し差し
上げ奉り候なり

市原郡学区取締 宛矢信一郎

②千葉県令あて 八幡小学校設立伺い書

小学校設立伺い書

第五大区二小区

上総国市原郡 八幡宿

第二十二中学区内
第九十三番、第九十四番、第九十五番連区
八幡小学校
百一番地所 圓頓寺
坪数七十四坪、畳数八十四畳
戸数四百六十九戸
人員二千八十四人
生徒六歳より十二歳に至る者
百四十五人内、男九十三人、女五十三人

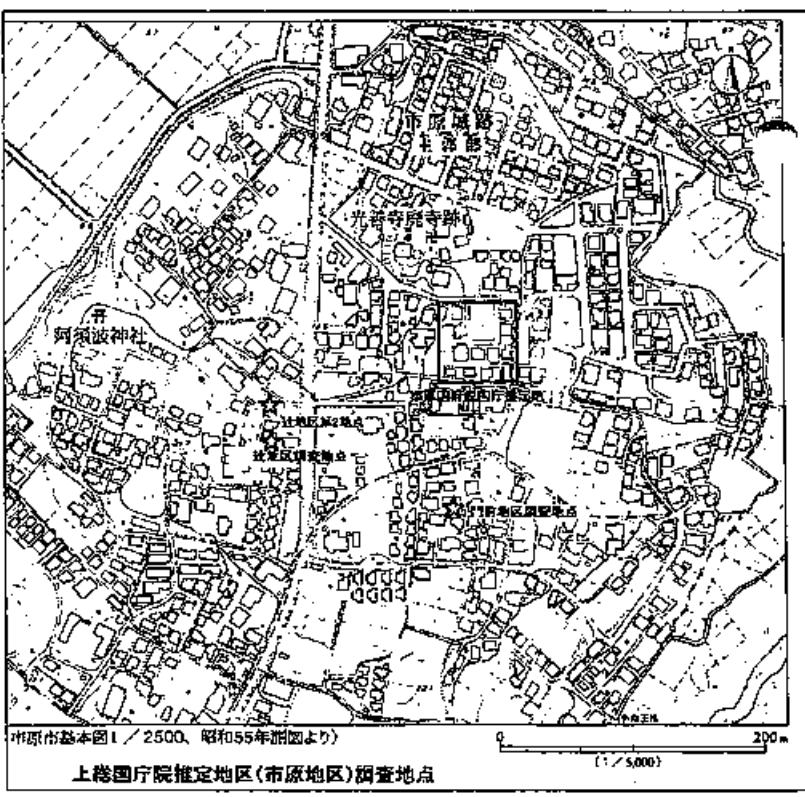
一句読教員 白川日装
一習字教員 百瀬伴次郎
一算術教員 永野算平
右校費用款
一 句読教員院一人、一か月給料 金五四
一 習字教員一人、一か月給料 金四四
一 算術教員一人、一か月給料 金三四
一 書籍、器械買入れ備金、一か月分 金二四
一 薪炭茶油筆紙墨、一か月分 金二四
一 新當画工積み金、一か月分 金半円
一 役夫給料、一か月分 金一円半
一 合計金二十五円

右は御達しにつき差し向き小学校設立方法書面の
とおり目途相立候段、伺い奉り候、もつとも追っ
て学校建築の儀は御規則に據照し、区内協心互
いに奮勵商議の上申上げ奉るべく候なり。

第五大区二小区
上総国市原郡八幡宿
明治六年十一月

副戸長 丸長治郎
副戸長 川上新平
副戸長 加藤久平
副戸長 村田市平
副戸長 中島口太郎
副戸長 市川平吉
副戸長 山下堅吉
戸長 市川甚太郎(印)

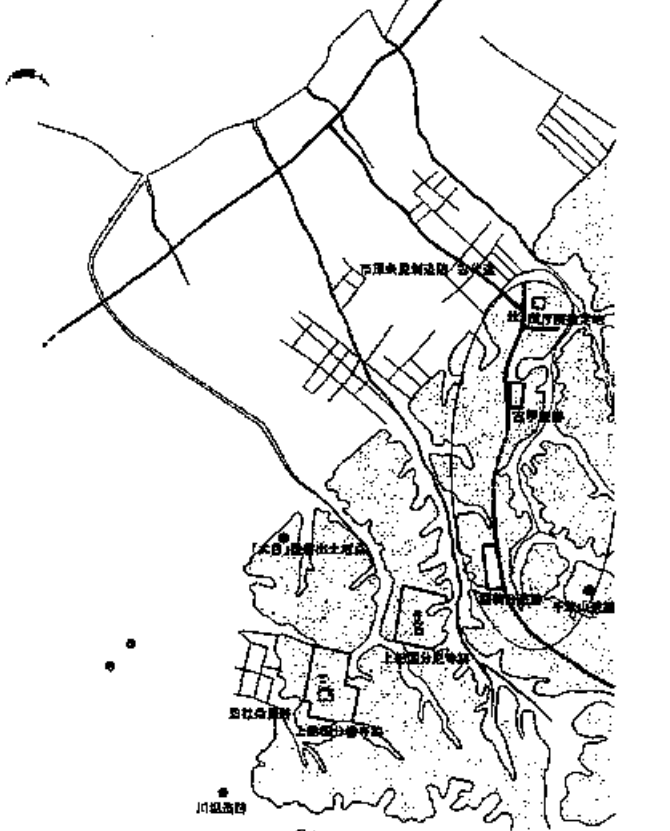
千葉県令柴原和殿



上総国府推定地区(市原地区)調査地点
中京市基本図1 / 2500、昭和55年調査より
1/5,000

上総国府推定地

市原地区 市原郡八幡宿



川島高野

明治7年「学制」を發布——円頓寺で八幡小学校が誕生

- ①「文明開化」の明治4年、政府は文部省を設けて学校制度の整備にあたり、翌5年に「学制」を發布した。理念を示した「太政官布告」では、学問は身を立てる財本であるとする実学主義を説いた。これを受けて各地に小学校が設置された。
 - *学事奨励に関する仰せ出だされ書＝一般の人民必ず邑（村）に不学の戸なく、家に不学の人なからしめんことを期す
 - *学制方針は下等小学校4年、上等小学校4年の義務教育であったが明治7年の就学率は男子40%、女子15%にとどまった
- ②学区は大学区、中学区、小学区に整然と分けられ、八幡は第22中学区、第193、194、195小学区、五所は第196小学区とされた。五所学校は明治6年7月1日、同村明照院（満蔵寺に合併廃寺）において開校、八幡学校もおよそ1年遅れた明治7年4月26日八幡宿円頓寺において開校した。
- ③市川本店戸長文書に八幡小学校設立当時の竖帳や文書多数が保存されている。
 - 仮小学校伺書、小学校設立伺書、学校設立出銭連名帳、学校出納、学校入費判取り帳、教授料受取り、学校器械費、学校書籍器械簿、万控帳など
- ④木更津県権令柴原和あて八幡小学校仮伺い書＝明治6-3、戸長川上勘次郎、松田嘉一郎
千葉県令柴原和あて八幡小学校設立伺い書＝明治7-11、戸長市川甚太郎、副戸長7名
正副戸長と円頓寺住職の白川日装を中心に準備が進められた
- ⑤八幡小学校の変遷
 - 明治7年4月～同年9月　＝八幡円頓寺
 - 〃　7年9月～9年4月　＝八幡称念寺
 - 〃　9年4月～昭和43年＝現在八幡宿駅前ロータリー一帯
 - 昭和42年6月～　　＝現在地
- ⑥八幡小学校創立関係参考資料
 - 『八幡小学校、五所小学校、沿革誌第一号、創立より明治九年に至る、市原郡八幡小学校』
 - 師道先訓の学ぶ碑＝昭和60年　以上同校所蔵
 - 『石造物にみる「八幡郷土史」市原市八幡の石造物研究』（八幡小学校、五所小学校沿革誌第1号の原文掲載）＝平成24年、八幡史学館名所100選チーム八幡の石造物研究会

歴史マップ片手にぶらり、意外と知らない町の歴史を歩こう——「やわた名所100選」

- ①八幡公民館エリアの歴史資料が完成
 - 「八幡史学館名所100選チーム」が選んだ「町の歴史」
 - 八幡地区＝飯香岡八幡宮境内11、八幡北部18、八幡南部10、五所12番
 - 菊間地区＝29番
 - 市原地区＝22番
 - 合計＝102番
- ②菊間地区＝エリアでもっとも古い歴史を持つ地区。菊麻国造(くくまのくにのみやつこ)古墳が台地上に広がり明治維新の一時期水野忠敬(ただのり)が菊間藩5万石城下を構えた。
- ③市原地区＝上総国府ロマンの里。国府が置かれた菅原孝標(たかすえ)の女(むすめ)「更級日記」のふるさと。
- ④八幡地区＝「八幡さまの町」として発展、江戸時代は大名行列が通り、五大力船が拠点とした。水陸交通の要衝として発展、昭和期は潮干狩りやのり養殖で賑わった。
- ④読売新聞4月13日付け＝街道を行く、房総往還②幻の上総国府、国府の存在物語る神事
別掲参照。登場する山越国臣氏は平成23年講座で、平沢牧人氏と田所真氏には本年度講座の現地巡見で一部をご案内いただくことになっています
- ⑤上総国府をさぐる——東国国府の現状から(千葉県文化財保護協会講演会田所真氏資料)
別掲参照

ちば

レジャー



房総往還②

幻の上総国府

(市原市)

千葉市の南を流れる村田川を越えようと、かつての上総国に入る。房総往還は国道16号がバイパス化されて東京湾岸沿いに移ると、県道24号千葉鴨川線と名を変え、市原市八幡や同市五井の市街地を抜けていく。

まず立ち寄ったのが、JR八幡宿駅近くにしたすみ、駅名の由来でもある飯香岡八幡宮だ。中秋名月(旧暦8月15日)の大祭には「柳橋」という珍しい神事が行われる。八幡宮から約2キロ離れた市原地区の氏子によって長年伝承されてきたもので、神が宿るという柳の小枝と青竹で組んだ橋を担ぎ、同地区から2日間かけて神前に運ぶ。けれどもなぜ、八幡宮から離れた地区の氏子が受け継いできたのか。その謎を同神事保存会員の山越国臣さん(62)が教えてくれた。



柳橋を担ぎ飯香岡八幡宮へ向かう白装束の氏子ら(山越国臣さん提供)

国府の存在 物語る神事

区にあったからです」。同地区に八幡宮の原社ともされる市原八幡神社があるのもその裏付けだろう。

八幡宮の縁起には、「一説には」と断りながらもその起源を759年に全国に建てられた国府八幡宮の一つとしている。柳宣の平沢牧人さん(37)も「柳橋が国府と本宮の関係を物語る神事である」と言い聞かしている。

市原には8世紀半ばに国分寺と国分尼寺が置かれ、それより一世紀以上前の645年には、大化の改新の一環として国府も置かれた。文字通り、上総の中心地だった。しかし、所在地がほぼ判明している下総(市川市国府台周辺)、安房(南房総市府中周辺)と違い、上総国府はその位置が不確かな「幻の国府」なのだ。

市原市埋蔵文化財調査センターの田所真所長(55)によると、位置については市内の「村上」「郡本」



「市原」「能満」と4地区の説があるという。そのうち、柳橋神事を行う氏子が住む市原地区では、「光善寺魔寺」の土中から国分寺の時代よりも古い瓦が大量に出土し、その近くの住宅地からは2010年、直径1メートルの柱が立っていたとみられる古代の掘立柱穴が見つかった。さらに昨年9月には柳橋神事が通る道に沿って幅約6メートルの古代道が発掘され、国府候補地として田所所長も「かなり有力だ」と説明する。

山越さんは地域活性化プランナー「市原里づくりの会」を結成し、こうした古里の文化や伝統を広く市民に知らせる活動もしている。「地元民ですら柳橋が何なのか分からない。かわっている古い市民が若い人や移住者に興味深く伝えていければいい」と話す。

飯香岡八幡宮を訪ねる旅が、思いもかけず上総国府探索の道へ導いてくれた。

交通の要衝だった証し

房総往還はJR五井駅近くの市原市五井で、木更津方面への道と山間部の城下町・久留里(君津市)に向かう道とに分かれる。商店街にある変形交差点には以前、石の道標「写真」が立っていた。しかし、10年ほど前、ダンブカーに衝突されて砕けてしまった。現在は修復され市原市埋蔵文化財調査セ



ンターの前庭に置かれている。その道標は、千葉方面から見ると右側面に「たかくら道」「きよ津津ミチ」「房州道」と3行の文字が刻まれている。左側面には仏像らしき像と「江戸道」の文字が彫られている。裏面には「久留里ミチ」と「文化四年(1807年)」の文字。

右側面の文字はすべて木更津方面を指し、「たかくら」は高蔵(高倉)観音で知られる木更津市矢那の高蔵寺のこと。当時から参詣者が多かったと考えられる。左に曲がると久留里に向かい、南から来た人には江戸に至る道であることを知らせている。この場所が交通の要衝だったことがうかがえる。

小藩家老、維新の悲哀

若い時分でも「清水次郎長」の名は聞かされたことがあ
らう。江戸末期、豊前国清水の「豊前清水次郎長」に生
まれ、東海道を歩いた博識な大藩士。明治期に原
世人から定家派、数々の社会問題をなしたことで知ら
れられている。この次郎長を主人公にした人情が、東
海道を舞台にした研究書は、近年見られぬ。そんな
研究書を書いたのは、清水次郎長を研究する第一人者
と評される小藩の歴史家であり、研究家でもある。【田中
信隆】

博識な「清水次郎長」は、清水次郎長を研究する第一人者
と評される小藩の歴史家であり、研究家でもある。【田中
信隆】

清水次郎長を「真人間」にした人物市原に眠る



房総半島を探索する
ちばみなと研究所
設立趣旨

毎日新聞千葉支局に設立された
仮想シンクタンク「ちばみなと研
究所」は、県内の毎日記者が研究
員を兼ね、房総半島の謎や不思議
に迫ります。想像力が時とついで
な結論を導くとしてもどうかご容
赦を。テーマ提案や情報提供も歡
迎します。あて先は〒260-0028
千葉県中央区千葉港7の3毎日新
聞千葉支局内「ちばみなと研究
所」。電子メールはchiba@mai
nichi.co.jp

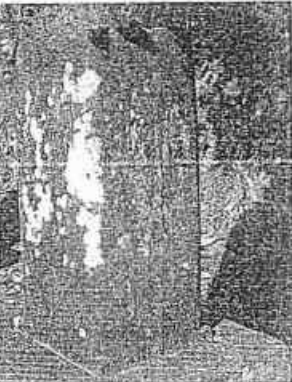
◇名コンビは4カ月間◇
清水次郎長が「探察役」に抜
きされた経緯は、「次郎長を知る
会」の中心メンバー、田口英剛
氏の著書「伏谷如水伝」に詳しい。
それによると次郎長は如水から呼
び出しを受けた際、女房おちよう
に「罪多い身だ。二度とお前の顔
をみることはできないだろう」と
別れを告げて出頭した。如水は次
郎長の予想に反し、「乱世に果して
武士の名をかたり、悪事を働く
者が横行している。街道筋の探察
役として、これまでの所業を改め、
御奉公に務めよ」と命じた。次郎
長が「自分は卑しい無頼の徒だ」と
固辞すると、如水は過去の罪状を
書きに読み上げさせた。次郎長は
「恐れ入りました」と、役目を
引き受けることに同意。幕方も許
された。同意によると2人の関係
は、如水が差配役として兼任した
慶応4年4月8日から浜松へ戻る
同年7月2日までの、わずか4カ
月間だったという。



遺跡があった場所に立つ塚原さん。藩の歴史を積極的に調べてきた

清水次郎長を「真人間」にした人物市原に眠る

清水次郎長を「真人間」にした人物市原に眠る



清水次郎長を「真人間」にした人物市原に眠る

【県内青果市場】(10/27)

東京都	1000
千葉県	1000
埼玉県	1000
茨城県	1000
栃木県	1000
群馬県	1000
山梨県	1000
長野県	1000
新潟県	1000
富山県	1000
石川県	1000
福井県	1000
岐阜県	1000
静岡県	1000
愛知県	1000
三重県	1000
滋賀県	1000
京都府	1000
大阪府	1000
兵庫県	1000
和歌山県	1000
奈良県	1000
徳島県	1000
香川県	1000
高松県	1000
愛媛県	1000
高知県	1000
福岡県	1000
佐賀県	1000
長門県	1000
大分県	1000
熊本県	1000
鹿児島県	1000
沖縄県	1000

研究所長の感想

田中 信隆

清水次郎長を「真人間」にした人物市原に眠る

清水次郎長を「真人間」にした人物市原に眠る

平成 25 年度八幡公民館主催事業「八幡史学館」第 2 回

八幡の起源、飯香岡八幡宮

平成 25—8—27 山岸弘明

きょうのスケジュール

9時30分～11時00分	教室講座
11時00分～12時00分	昼食休憩（調理室を用意しています）
12時10分	飯香岡八幡宮正面入り口集合
12時10分～13時00分	境内巡見
13時00分～13時30分	昇殿参拝と内部説明（平沢牧人禰宜）
13時30分～14時00分	宝蔵庫見学



飯香岡八幡宮



折橋神事

トピックス 市原市市制 50 周年記念事業『市原市の昭和』刊行

- ①市原市の市制 50 周年認定事業＝いき出版社
編集委員＝山岸弘明、大岩勝男、佐倉東雄、佐野彪ほか
- ②懐かしいオリジナル写真 600 点を厳選紹介
主体は八幡＝およそ 200 点が八幡の写真。八幡海岸、八幡八幡宮、戦前、戦後の八幡、家庭写真
写真提供＝市、市川本店、八幡公民館、魚惣、皆川清、織田自転車店、青木くに、北嶋勝代ほか
- ③9 月下旬発売。9990 円。取り扱い＝市内主要書店。市立中央、八幡公民館等寄贈予定
- ④DVD 本誌掲載分、八幡地区収集分保存版作成、全面複製はできません

トピックス 市制 50 周年、八幡公民館創立 65 周年企画

- ①主催＝八幡公民館運営委員会、主管＝八幡史学館名所 100 選チーム
- ②10 月 5 日(土曜)、6 日(日曜)＝八幡公民館連絡協議会「文化祭」と同時開催
1 階ロビー＝「戦前の八幡、むかし映写会」、郷土の人物*、やわた名所 100 選*
2 階ロビー＝八幡公民館ゆかりの山口達画伯の世界*、市原地区のあゆみ*、昭和の市原*
体育館＝初代八幡公民館正面 3 分の 2 縮小再現、写真にみる八幡公民館のあゆみ*
飯香岡八幡宮未公開「大絵馬」3 点の現物公開、所蔵全絵馬写真展
展示作品＝難風の中を突き進む五大力船(明治 36 年、作者不明、願主浜本町五大力船船主)

1) 八幡宮縁起と由緒本記 * 創設神話、産土神時代

①飯香岡の地名は日本武尊の故事に由来するが、飯香岡八幡宮の社名の初見は元禄 10 年の『上総総社飯香岡八幡宮由緒本記』で、それより早い室町時代書、寛文 8 年校定『市東庄八幡宮縁起』は市東庄の鎮守として記され、総社や日本武尊伝説にふれていない。室町時代から江戸時代にかけてきわめて重要な由緒伝記の変更が行なわれたと考えられる。

* 総社=平安時代、数社の祭神を一か所にまとめた神社

②『市東庄八幡宮縁起』ははじめ祭神の八幡大神が応神天皇の権化であることを記し、その誕生から生涯、神として崇められたいわれを記し、白鳳年間天武天皇の勅願で八幡に八幡宮を、その東方に若宮八幡宮を勧請したこと、天平年間行基が全国巡行の途中立ち寄ったとき八幡麻呂があらわれ、村人たちが「柳楯」で立ち覆い麦食を接待、この時郡本八幡宮、市原八幡宮が勧請され、揚柳寺神主院が柳楯を司ることになったこと。300 年後、夜ごと八幡の海中から光あり、村人が小船でこぎ進むと船玉命の神面が浮かんでいた。天空から声あり「汝らが昔宇佐宮へ参詣した折、奪った面なり、いま縁あって漂着した、この地の大神の宮前に掲げよ」。八幡宮の創建神話と柳楯神事にかかわる記述として興味深い。

③『上総総社飯香岡八幡宮由緒本記』は「古語伝記」を底本に書き直したとするが出典は明確でない。はじめ御影山に産土神の社があり日本武尊によって地名が改まった。白鳳 4 年天武天皇の勅願によって勅使が派遣され、飯香岡の地に勧請し、宮殿を創建した。以後神功皇后の三韓征伐、八幡大神誕生などの神話時代が詳しく綴られている。

* 産土神=生まれた土地の守り神のこと。氏神(氏の神)、鎮守の神(その土地の神)も現在は同意

* 市原の古文書研究会で市川本店版の解説を行なったが和製漢文や祝詞文が難解で公開できていない

④一方『市原市史』や『上総国府推定地歴史地理学的調査報告書』などは創建を不詳とし、はじめ国府近くで市原郷一帯の産土神として成立して国守の崇敬をあつめたこと、平安末期ころは岩清水八幡宮別宮であったこと、鎌倉時代は市原庄八幡宮で朝武の尊敬が篤かったことなどを記している。

⑤飯香岡八幡宮を市原八幡宮の後身とした根拠は、飯香岡社が上総の「一國総社」を自称し、国府推定地の市原台地と「柳楯神事」で繋がることなどによる。

本宮の縁起は飯香岡にあり、創祀せられた年代は正史には分るでないが、神社縁起によれば此の地は以前御影山と称し六所御影神社が鎮座し、後に皇祖一國一社の八幡宮が勧請されたと云う。一説に天平至天平三年全国放生の地に勧請されたる八幡宮の一つとも云われ、又岩清水八幡宮伝説三年の縁起に御影山にありとある。市原御影宮が本宮と云われている。勸請は皇祖守聖王を始め民間に由縁を有し、千賀、北倉、足利、船川等の武門武將の崇敬篤く又鎮座御影山、海上守聖、安原子等との神として広く庶民の信仰をあつめ、世川家等は社御五十五石を奉給し十万石の格式を賜り明治に至った。

● 由緒沿革

八幡神は広縁神とし申し、この二神の神を祀り奉る。八幡神の傍には古く改元天皇廿一年(五七一年)二月初卯の日に皇祖國宇依の磐石の池の辺に始めて神明の御を現わし給いしより此を御影山の祭神に於いても神人勸進の所敷する地となり、即ち平安朝末京都江戸の各時代を経て皇祖、武家の御影神を勧請に御影山の御影をもあわせて全国的に流布せられるに至り総数約十一万の神社八幡神社は共に四方余社を数するに至った。

左殿 息長帯御命
中殿 譽田別命
右殿 玉依姫命

左相殿 日足仲本命
右相殿 足仲本命
神代 天田經津彦命
神代 天田經津彦命



国府 飯香岡八幡宮の栞

千葉市原市八幡鎮座

Table with multiple columns and rows of text, likely a list of shrine records or deity names.

神社明細帳

Table with multiple columns and rows of text, likely a list of shrine records or deity names.

Table with multiple columns and rows of text, likely a list of shrine records or deity names.

中央

2) 源氏の氏神として発展 * 市原八幡宮と飯香岡八幡宮

- ①由緒本記による中世の幕明けは、治承4年源氏再興に立ち上った源頼朝が八幡を通過したことに始まる。頼朝は主従7騎で到着、源氏の氏神である八幡宮に戦勝祈願を行なったところ、千葉亮常胤らの軍勢が続々と集まった。源平の戦いは頼朝が勝利、飯香岡社に上総8荘11郡のうち150町歩を寄進、本殿を建立したとしている。
- *後世天正18年の社領は八幡郷、惣社、菊間、山木、五井、府中(能満)、五所で、旧市原町全域に及んでいる。上総の政治、文化、交通の中心地であり、国府との強い関係を窺わせている
- ②飯香岡社は中世以降源氏を中心とした武家の信仰が厚く、室町幕府3代將軍足利義満はみこし4基、8代義政は社殿を新造営したとされる。
- *日本の神社の由緒は年号を古くしたり権力者とむすびつけたものが多いので注意が必要である。寄進みこしは室町中期建造と鑑定されたが義満とかかわるのかどうか、頼朝、義政の社殿建造についてもこれまでのところ史実として実証されていない。社伝と史実は文字どおり「車の両輪」であり、両立させながら飯香岡八幡宮の歴史を後世に伝承する必要がある
- ③飯香岡八幡宮の前身と考えられる市原八幡宮は壮大な社殿規模を誇ったことが京都醍醐寺所蔵文書などでわかる。応永4年の細川頼之奉書は上総国内に一国規模での造営課役が課せられたことを、また応安8年資料は社殿規模を伝えている。

3) 飯香岡八幡宮の移動

- ①現在の発幡宮本殿の建築年代は昭和42年から43年にかけて行なわれた「調査修理工事」の結果、中世15世紀、室町中期の長祿、文明改修期と特定された。その前身地はかつて上総国府近く市原台地上と考えられるが不明。市原八幡宮説が有力で若宮の八幡神社説もある。
- ②市原八幡宮は上総国府の有力候補地市原にあり、前身とされる市原八幡宮を名乗っていること、氏子がすべて飯香岡氏子となっていること、柳楯の神事が五所、八幡への巡行に先立ち立ち寄っていること。このことは飯香岡八幡宮との歴史的な関係を示しているといえる。
- ③このほか飯香岡八幡宮には元八幡宮を称する小社や石塚を旧地とする伝承が残されている。前身地の特定は市原の中世史上きわめて重要なテーマだが解明されていない。
- ④また、現在の八幡宮本殿が室町中期建造と特定されたとはいえ、現在地にそれ以前の旧社が存在した可能性すべてが否定されたとはいえない。境内のどこかに由緒本記のいう建久4年、頼朝寄進の本殿が発見されても不思議はないだろう。

*発掘調査で現本殿地盤40cmから礎石群が発見されたが関係する遺物が検出されなかった

正徳治承四庚子年八月 右兵衛佐源頼朝御共其主
 率三百余騎上石橋山に御陣平備然處平家一
 族本能平太景親後野五良景曾我太良祐信松原平
 三景時等押寄奉院及合取合源頼朝御勝利矣殿北
 辰依五位右木四良高麗王の孫代を並漸々土肥の稻
 山の伏木より高平陸に賜土御元難平道助右七騎不
 真鶴崎より茶松を永安房國赤若松堀其面々小若
 大行頼朝御肥肥次良實平同其夫良遠早足主藤九良
 盛長新開の治良武土屋三良宗遠國崎三良宗義
 從七騎を上総國守主八幡郷飯分國小判者源然亦
 當社 八幡大神宮寄附家代源家之守護神御座空由
 五頼朝頼朝清久御信仰被為五御初其趣願文曰

由緒本記の頼朝通過



市原八幡宮の社殿国役

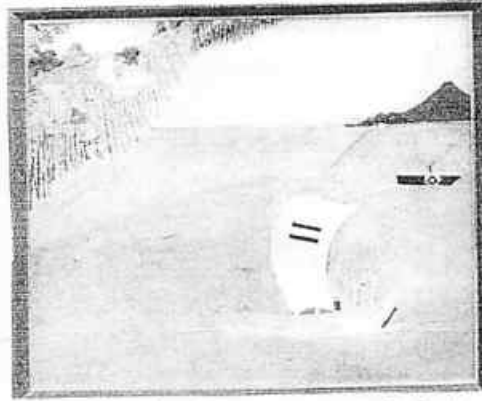
源頼朝の決起ルート

任進
 上総郡市原八幡宮國府社役事
 國府分
 御寶殿一宇三間 一國平均課役
 御神寶座一宇三間 鳥野郡 龜北郡
 左右六所各一宇各三間
 一所山邊南郡 山邊北郡
 一所射野郡 武射北郡
 御寶殿三基 一國平均課役
 内總額三十六間 同前
 正額鳥居 同前
 中門一宇三間 玉楯 井坂
 刑部郡 佐長郡 長南郡 長北郡 埴生郡
 已上五郡課課役
 左右月殿一宇各五間
 府東郡、出西郡
 大門一宇 山田郡 雲東郡 舟子尾保
 雲行三味堂一宇三間四間 五箇郡課別
 (中略)
 右任進之狀如件
 應安八年一月十日

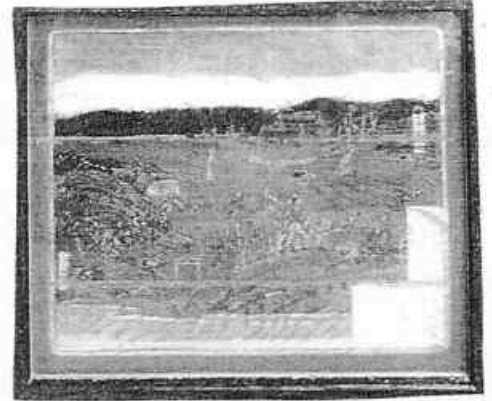
(不明) 八幡神 若宮神五 高 (鳥野) 高 (花野)



飯ヶ中ノ宮や道も五六カ所



八幡海岸五六カ所と熱気船



上総多年八幡神社

飯香岡八幡宮由緒関係資料

①飯香岡八幡宮所蔵文書（一部千葉県文書館、市川本店文書）

- 上総国市原郡市東庄八幡宮御縁起（寛文8年校定＝八幡宮別当、神主ほか）
- 上総総社飯香岡八幡宮由緒本記（元禄10年＝山下左兵衛介写し）
- 上総総社飯香岡八幡宮由緒本記（〃、元文3年写し＝〃、同姓源庸盛再写し）市川本店所蔵
- 飯香岡八幡宮御伝記、古語伝にいう（宝暦12年＝無記社蔵）
- 上総国市原郡八幡郷飯香岡八幡宮御勸請起（江戸後期＝無記社蔵）
- 神亀元甲子年秋九月十五日、市原村光善寺薬師如来縁起（文治2年＝府中积蔵院文書写し）
- 上総国市原郡市東庄、八幡郷御宮略縁起（天保6年版摺り＝神主市川伊賀、別当若宮寺）
- 宝暦十二年後留記写し（天保12年＝無記社蔵）
- 上、覚え、神社由来など取り調べ差し出し帳（明治3年＝神主市川三郎→菊間御藩御役所）
- 八幡宿八幡宮御記録写し（年号無記明治か＝無記社蔵）
- 千葉県神社明細帳（明治15年＝千葉県庁台帳）千葉県文書館所蔵
- 飯香岡八幡宮御神徳略記（大正13年＝社務所）
- 国府総社飯香岡八幡宮の栞（昭和後期＝飯香岡八幡宮）

②主要文献、研究資料＝

- 伴信友全集、神名帳考証土代附考、第19上総国式外旧社、八幡宮（1977＝黒川春樹、図書刊行会）
- 市原市史各編（昭和55年ほか＝市原市教育委員会）
- 市原郡誌（大正5年＝市原郡教育会）
- 重要文化財飯香岡八幡宮本殿修理工事報告書（1968＝本殿修理委員会）
- 上総国府推定地歴史地理学的調査報告書（1999＝市教育委員会）
- 市原の柳楯神事（昭和58年＝飯香岡八幡宮、宮司市川教生）
- 房総の祭、柳楯神事（昭和40年＝今井福治郎）
- 市原地方史研究（昭和41年ほか＝市教育委員会ほか）
 - 飯香岡八幡宮随想（第1号＝市川教生）
 - 柳楯神事について（〃＝森操）
 - 中世における飯香岡八幡宮（第9号＝寺田広）
 - 飯香岡八幡宮の戦国期文書（第15号＝栗野俊之）
 - 飯香岡八幡宮天保10年亥年一件について（第13号＝水谷安昌）
 - 八幡神社修理工事に關する覚え書（第19号＝瀧本平八）
- 市原市歴史と文化財シリーズ⑨八幡地区の遺跡と文化財、飯香岡八幡宮とその周辺（平成16年＝瀧本平八）
- 神道大系 神社編（安房、上総、下総、常陸）飯香岡八幡宮（1999＝神道大系編纂会）
- 市原の古文書研究第3、4、5集（平成17年ほか＝市原の古文書研究会）
- 石造物にみる「八幡郷土史」、市原市八幡の石造物研究（平成22年＝八幡史学館名所100選チーム）

上総国市原郡市東庄(庄)八幡宮御縁起

上総国市原郡市東庄(庄)八幡宮御縁起
奈惟八幡女神者人皇十六代應神天皇之御也...

中略

中略
(傳言列傳)
神芝山 靈應寺

春祈

春祈
天下太平の志を
萬民快樂者也

上総国市原郡市東庄(庄)八幡宮御縁起

上総国市原郡市東庄(庄)八幡宮御縁起
恭惟(うやうやしくおもひに)、八幡太神(おおかみ)は人皇十六(十五)代應神天皇の權化なり...

中略

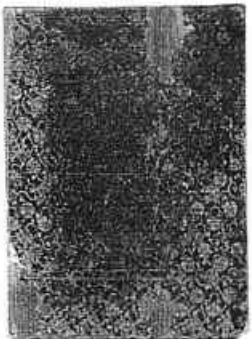
中略
(傳言列傳)
神芝山 靈應寺

春祈

春祈
天下泰平、国土安穩
萬民快樂を祈り奉るものなり

上総国市原郡市東庄八幡宮御縁起

上総国市原郡市東庄八幡宮御縁起
失せ給えり。土人恭敬(きょうけい)し乃(すなわち)またここに勧請(かんじょう)し奉り、抵(接)待に妻の餉(かかれい)を供す...



飯香岡八幡宮現地巡見

1) 正面参道周辺のみどころ

①正面参道前集合

②海も神領＝海面幅二百間、戌の方見通し汐干し櫃(カイ)立て除地(慶長 18 年、総検地書き上げ) 二の鳥居、汐ごり場、むかしはみこしが2の鳥居を回った。

*神領南北 200 間、海辺まで北の方 76 間、南の方 55 間半。1 間は 6 尺 5 寸。海面は干潮時にカイが立つ範囲、現在埋め立て先端の三井造船まで、およそ 4 km

③昔は八幡運河(前方 100m)の先は海。埋め立て前は海水浴場、潮干狩り場として人気があった。

④国府総社碑＝一国一社の国府八幡宮。国府に付属する惣社で創設神話を伝える。

⑤正面参道大鳥居＝天正 18 年図にあり建立は創建に遡るといえる。明神型、両部鳥居(権現鳥居)

*左台石＝鳥居再建、天保十二辛丑年秋七月朔日。世話人、観音町、浜本町、仲町、片町、南町、南新田、五所村(人名省略)。右台石＝石の願主、南町丸屋伊兵衛。神額＝八幡宮、上り龍、下り龍、天保 7 年神道長ト部良房筆。

⑥江戸商人寄進とうろう＝明和元年 8 月当社祈願成就により御影石灯籠一对寄進(宝暦 12 年後留記)

*奉納、本所三つ目、伊勢屋善治良、年号は風化判読不能。

⑦放生池＝放生池の由来

*神社案内看板＝放生とは殺生をやめて作善のため捕らえた生類を河、海、山、野に放つことで、(奈良朝時代、隼人の乱犠牲者慰霊安鎮のため)宇佐八幡宮にて放生が行なわれ、その後全国の八幡宮にても国司臨検のもと、8 月 15 日すなわち仲秋名月の日に行なわれるようになり、放生祭と称して八幡宮最大の神事となった。

すがすがし この砂浜や いにしへの みたまなごめし あとにやあらん

⑧清見の滝歌会碑＝明治後期の歌会

戦前までひょうたん池といわれ町の人たちの憩いの場であった。池回りの散策や夕涼み、家族連れでお弁当を開く姿もみられた。

*名所 100 選チームでは毎月第 3 火曜日朝、池回り清掃を行なっています

⑨参道階段＝往古社地は丘地ではじめ御影山、のち飯香岡を称した。

⑩江戸中期石とうろう 2 基＝八幡の有力商家寄進。常政は吉原を 3 日 3 晩貸しきったといわれる。

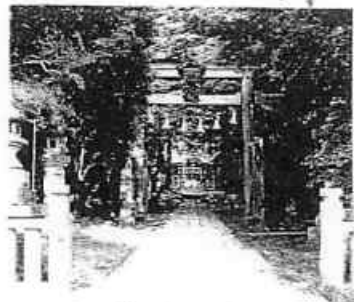
*右側のとうろう＝奉寄進、八幡宮、御宝前、石灯籠、生国是和州宇智郡、住处上総国八幡村、杉井甚七郎、内、徳兵衛、為現世安穩、後生善所なり、承応四乙未暦 二月吉日

*左側のとうろう＝奉寄進、石灯籠一基、元禄四年辛未九月二十五日 杉井三左衛門常政

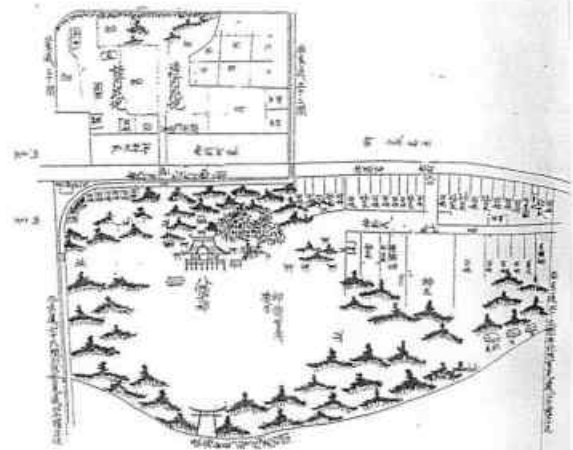
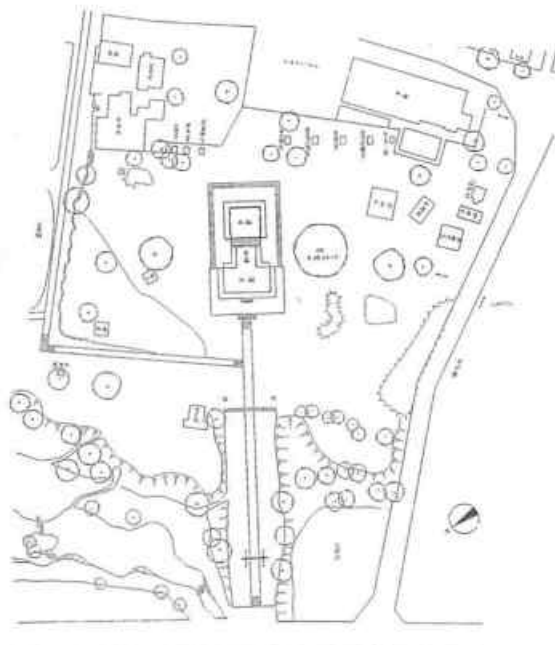
⑪水盤舎と手水石＝水舎ははじめ拝殿前、拝殿右、左側をへてほぼ旧地に戻った。水鉢は市内最古、



むかし八幡宮岸



一の鳥居



明治維新時、八幡宮

県内でも2番目に古い。大型で石質、彫刻とも優れる。全身を水垢離する古式で、正面にみごとな丸型龍紋を刻んでいる。

*棟札=慶応寅二年八月、神主、両行司、大工棟梁など

*手水石=御宝前、神主伊賀守、上総国市原郡八幡住各十三人、梅田猪太郎(ほか省略=名主クラス) 寛文二壬寅曆九月吉日

⑫あうんこま犬=大正はじめにはじまった海苔養殖が成功し、漁業組合の中心になりつつあった。あうん獅子像=大正4年、5年、6年海苔業者、八幡五所漁業組合

⑬漁業組合解散記念碑=八幡海岸埋め立て記念碑

*正面碑文=明治35年12月宮吉長五郎氏外9人の発起により八幡五所浦漁業組合が設立され、爾来組合員はよくその伝統を継承して漁業の振興発展に努力し、ついに組合員779名共有漁業権、面積16万坪、その生産額は海苔、魚介を主として年間1億数千万円を誇るに至ったが、昭和32年10月郷土の発展のため県の提唱した京葉工業地帯、市原地区造成に協力、全漁場の埋め立てに同意し、ここに父祖伝来の漁業権を放棄することとなり、組合もまた58年にわたる伝統と歴史を閉じ、昭和34年7月31日をもって解散することとなった。

⑭川上南洞銅像=地区教育の父

*裏面銘文=先生、いみは規矩、川上氏にして、資性は温厚、学は和漢を兼ね、徳は郷曲(きょうきよく)を蓋(おおい)、今聖人の号あり、平生公私のことに尽力し、褒章を受けるもの数十次、官その功を録し、従六位勲七等に叙す。昭和9年1月28日をもって没す。よわい七十有四。

*南洞川上規矩先生銅像正面銘文

南洞先生の銅像は昭和11年11月南総中等学校校庭に建設されたのであるが、大東亜戦争中供出された。同校は戦時中廃校となり、終戦後市原地方事務所庁舎となり、昭和25年に再建されたのである。その後市原一高八幡分校が設置され校庭が狭溢となったので南総中等学校の発祥地である飯香岡八幡宮の境内に移転したのである。

⑮菅野儀作の像=地区教育の父

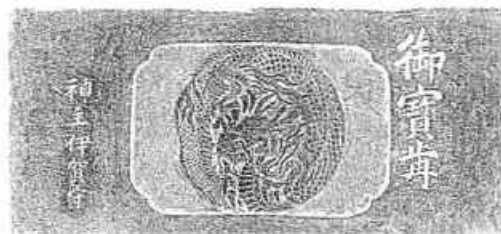
*正面銘文=明治40年6月1日八幡町生まれ、昭和22年4月無投票で公選初代町長に当選し、以後県議会議員五期、参議院議員三期と連続当選し、35年の永きにわたり県政、国政に尽瘁した。とくに第二次世界大戦で荒廃した郷土の復興と発展に心血を注ぎ、京葉臨海工業地帯造成、新東京国際空港建設の二大事業を軸に産業、交通、教育、環境、福祉などあらゆる施策を通じ近代化を強力に推進、千葉県発展の基礎を築いた。

⑯さかさいちょう=神木

伝承によれば、治承4年鎌倉をめざす源頼朝が当社に立ち寄り、いちょうの枝を逆さに植えて「もし活着することがあれば源氏の勝利間違いなし」と戦勝を祈願した。



本殿断面図



←手水石



江戸中期石



漁業組合



放生地



川上南洞像

2) 社殿右側、夫婦いちよう周辺のみどころ

①夫婦いちよう＝飯香岡八幡宮を象徴する神木。千葉県指定天然記念物

* 県市教育委員会史蹟表示板＝本樹は八幡宮勸請の際、勅使桜町中納言季満卿御手植えの記念樹と伝えられている。飯香岡八幡宮は子育て八幡と呼ばれように安産子育ての神として崇敬され、このいちようも2本の巨幹が根本より分岐するところから夫婦いちようと名付けられ安産子育てのシンボルとして信仰がある。樹高おのおの17m、16m、目通し幹囲約11mである。

②勅使季満歌碑＝こは往古白鳳4年、この国にこの神社をはじめて建てられし時、季満卿勅使に渡らせたまひ、自ら銀杏樹を植えて詠ませたまひし歌なり。

君がため きょう植えそえし ちちのきに いく世経んとも 神宿るらん

③佐々木高行歌碑＝神がきに 千歳を契る ちちの木の かげをたのまぬ 人なかりけり

④みかげ山歌碑＝御影山 神のめでにし 飯香岡 むかしをかけて 世に匂いけり

⑤直木賞作家・立野信之文学碑＝立野は五井の平田生まれで南総学校に学んだ。散策の地、八幡宮境内は「初恋の森」でもあった。碑は自叙伝「流れ」の一節を刻み、寄り添うように初恋の人のモデル青木ふじら3姉妹が寄贈した記念碑が立つ。

* 正面碑文＝ある日、初夏の爽やかな日だった。高志はいつも帰る汽車に乗り遅れたので、仕方なく、次の列車までの2時間を過ごすために海岸べりの神社の境内に出掛けた。

⑥日清戦争凱旋碑＝明治二十七、八年役、凱旋碑、農商務大臣正二位勳一等子爵 榎本武揚てん

3) 社殿外観

①飯香岡八幡宮本殿碑＝重要文化財指定記念碑

②飯香岡八幡宮社殿＝権現造り。拝殿、幣殿、本殿が一例に並ぶ

* 県市教育委員会史蹟表示板＝重要文化財・本殿一棟、千葉県有形文化財・拝殿一棟

社殿によりば白鳳4年に創立されたといわれ、上総国分寺付近に鎮守され国守の崇敬もあつたとされています。菅田別命を祀り、関東における八幡信仰の聖地として千葉氏をはじめ一般庶民の畏敬を集めて今日に至っています。

本殿は正面3間、側面2間の身舎に入母屋造りの屋根がのり、その正面3間に梁間1間通りの向拝が付き周囲に回り縁をめぐらされています形式的には和様を主体とする神社建築です。

拝殿は正面5間、側面3間、屋根は本殿と同じく入母屋造りで正面中央に千鳥破風を付け、三花懸魚(げぎょ)を下げ、向拝中央は軒唐破風となっています。造立年代は棟札や各部の様式手法から元禄4年ころであることが確認されています。

飯香岡八幡宮本殿 MAP P49-A-4
 座標 八幡1057-1
 見学 自由
 問合せ 0438-23-9853 (教育委員会)

武運長久の神住まう荘厳な社



「一國一社の国府八幡宮」と呼ばれる由緒ある古社で、創建は白鳳年間と伝えられています。正面3間・側面2間の長丹塗や銅葺きの屋根が印象的な入母屋造。太い木組や組物・彫刻・面取角柱などの部材は力強く緻密で、室町時代末期の特色を示しています。境内の神社建築においても重要文化財に指定されているのは、佐原市にある香取神宮本殿と本社のみです。かつては前面に遼瀋の海が広がり、潮干狩りや海水浴客で賑わったものですが、昭和30年代後半からの埋立によって今の姿となっています。



飯香岡八幡宮拝殿 MAP P49-A-4
 座標 八幡1057-1
 見学 自由
 問合せ 0438-23-9853 (教育委員会)



光圀・北斎・勝海舟、様々な人々カウ申に向かいあった空間

正面5間、側面3間の身舎に梁間3間の向拝が付き、本殿と同様に純丹塗の建物です。弊殿によって本殿と接続される、いわゆる権現造の形式を取っています。屋根は銅板葺の入母屋造で、正面に唐破風および千鳥破風が付いています。細い木組、彩色された海斗釘

飯香岡八幡宮の夫婦銀杏 MAP P49-A-4
 座標 八幡1057-1
 見学 自由
 問合せ 0438-23-9853 (教育委員会)

北斎の漫画にも登場する樹齢1300年超の大銀杏

社伝によると、天武4年(675)3月、八幡宮勸請の際に、勅使桜町中納言季満卿によって植えられた記念樹であると伝えられています。地上2.8mのところから二股に分かれて相対しているため、この夫婦銀杏の名がつけられました。葛飾北斎の漫画にも登場するなど、その存在は江戸時代から広く知られていました。太さは目通り約11m、高さは各々16mと17mを測ります。



海と子供の頃の遊び

平成25年9月24日
語り手 佐倉東雄
主催 市立八幡公民館



八幡五所浦の風景

1 八幡五所浦の特徴

- ・平坦な砂浜である。岩場は一つもない。
- ・潮の満ち干きは暦との関係があり、一定はしていないが、一里先まで引くと昔から言われてきた。いわゆる遠浅の海であった。
- ・江戸時代から昭和の初めまで浜本町（はもと）に五大力船の貿易港があり、江戸（東京）との水運業が、かつての市原郡内で最も盛んであった。
- ・明治以前は、塩田業も盛んであった。
- ・明治に入り、石を他から運び某かの岩場を造り、牡蠣の養殖に取り組んだが、成功をみなかった。
- ・その後、海苔の養殖、あさりの養殖、潮干狩り、簀立、鵜縄漁等を営んできた。拾い海苔や大巻を抜かすことも出来ない。
- ・八幡五所浦にとって、村田川河口が在ったことも見逃せない。
- ・蛤や馬鹿貝（あおやぎ）沖に生息していたので、大巻で捕った。

2 海面の全面放棄

- ・八幡五所漁業協同組合員が漁業権の放棄を県と取り交わしたのは、昭和32年10月23日。これは漁業補償協定の妥結も併せてのことである。
- ・放棄には何事にしても反対賛成が付き物だが、ともかく千葉県下（内湾）で初の放棄となった。
- ・昭和35年10月5日、飯香岡八幡宮の境内に漁業組合の解散並びに先の漁業権の放棄とを記念する碑がが建立された。

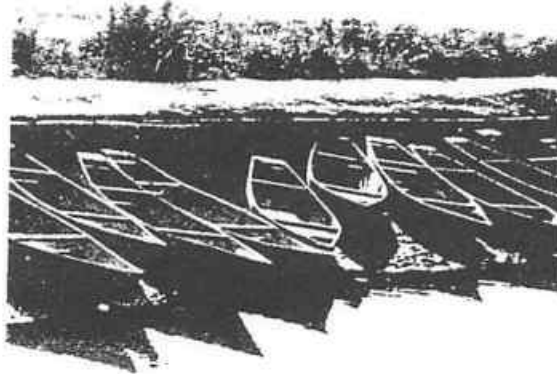
- ・現在ある神楽殿は、漁業権の解散および58年に互る組合の解散を記念するものである。

海と四季

- ・四季を通して遊んだ訳ではなく、当然ながら夏が中心である。大よそパンツだけで過ごした。

舟遊び

- ・潮があり、家の海苔採り舟が空いているときは、時々遊び仲間と滞から舟を出した。櫂（かい）は使わず、気が利いた竹を櫂替わりにした。櫂が間違っ流されたりすると、大変なことになるからである。値の張るものであった。家にはおおよそ内緒であった。



海苔舟と滞

- ・竹（櫂）の使い方、舟の操り方は遊びの中で覚えた。
- ・舟から海中に飛び込んで泳いだりした。泳ぎも自然に覚えた。
- ・沖には出なかった。岸からどの辺までが危なくないか、深さなども仲間同士で覚えていった。これらは親から教えてもらうのではなく、遊びの中から自然に身に付けていった。
- ・滞に戻ってきて、杭に綱で舟を繋ぐときの綱の結びき方も自然に覚えた。

沙魚つり

- ・万能と餌箱を持って、沙魚（はぜ）を釣るための餌である沙蚕（ごかい）を取りに行った。沙蚕は浅蜆のいるような砂地には生息しておらず、滞の泥状のようなおり、万能で掘り起こし、餌箱に入れた。幾らでもいた。
- ・観音町の幼稚園横町の私たちは、観音町の滞に掛かっている橋の上から糸を垂れた。飛び込んで遊ぶこともあった。
- ・釣る道具は、細い竹か或いは安い竹竿。重りは鉛の板を使う仲間もいた。釣り糸に浮きを取り付けるのも、自転車のチューブであった。
- ・沙魚の入れ物は、バケツのようなものであったが、滞の土手に生えている篠竹に沙魚のエラの部分を通し、入れ物に変えた。お金などかけるものではなかった。
- ・干潮の際、潮溜まりが出来る所があり、そこに石があると、そーと両手で包み込むと沙魚が捕れた。棒杭があれば、その下の回りに沙魚がいた。や

はり両手で包み込むようにして捕まえた。滞では潮が干いたとき沙魚は瀬戸物の割れた中などにおり、やはり手探りで捕まえた。

- ・今日、時期がくると他県からわざわざ来られて「はげ」を村田川や圃埋塚の前の滞（観音町の滞）などで釣り糸を垂れている人を多く見かけるが、恐ろしいまでの服装、しかもものものしい道具をも持参している。私にしてみれば馬鹿な格好である。
- ・釣った沙魚は、煮て食べもしたが、乾燥させ、軽く焼いてから寒露煮にした。昆布を巻いたりもした。保存食としたのである。
- ・余談だが、昨年バスを仕立てて沙魚釣りと称し、村田川に釣り糸を垂れていた。観光会社の企画であった。
- ・地元では、大人も子供も沙魚を釣ることはない。汚れ切った川や滞を見れば一目瞭然である。それから色々なゴミの投げ捨てである。

石蟹取り

※ワタリガニ科ののカニ。本州中部以南の岩礁や内湾にふつうに見られる。

甲は暗緑色で前縁に十八のとげがならぶ。はさみは濃紫で大きい。肉は美味であるが、量は少ない。『日本国語大辞典』（小学館）より。

- ・石蟹は干潮になったとき捕りにいった。干潮になっても全体が平均に干くのではなく、所々に窪みが出る。これを潮溜まりと言っていたが、潮溜まりには藻が生えていた。この藻の中にいるところを素手で捕まえ、バケツに入れて帰ってくるのである。茹でて家族の者と食うのだが、左右の爪の肉は先が固くて尖っているものでついて出した。あとは甲羅を剥がしバリバリと食べた。当然肉は掘り出すほど無いのであるから。二つに割り、バリバリ食べた。
- ・夕食の際、味噌汁の出しとして入れた。これがなかなかの味であった。
- ・渡蟹は夜になってから、大人たちがカンテラを付け舟で沖に出て海面に浮いているところを網で掬い上げた。子供の遊びではなかった。

海髪採り

- ・海髪を採って海岸の土手や家の庭で乾燥させ、屑屋へ売りに行った。干してしまうと軽くなるので、かなり拾い集めた。そのお金でキャンデーを買ったが、一回でせいぜい一本買えるぐらいであった。キャンデーは一本五円であった。大きくなって聞いた話であるが、乾燥された海髪は寒天のもとになったという。

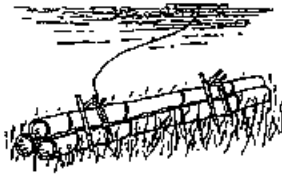
鰯捕り

- ・干潮の際に出来た潮溜まりにいたことがあった。静かに潮溜まりの中を歩いていると鰯を踏むことがあった。これも手で捕まえた。石蟹にしても沙魚にしても鰯にしてもわざわざ潮溜まりに行き、捕まえることはなかった。遊びの中でそのような体験をして成長していったと言ってよい。

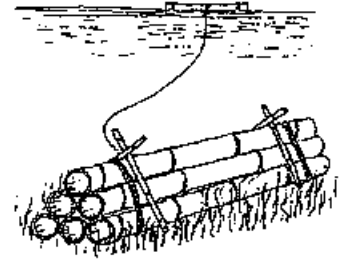
つつっほ（ぼっぼ）

- ・適当な太さの真竹を一メートル位に切り、内側の節を全て取り除き、空洞とした。
- ・私たち子供は、三本位を結わき一束とし、沼や川の縁に沈めた。滞にも沈

めた。沈めたところが分かるように細い竹などを挿しておいた。川や沼は流されないように岸の所の樺などに縛り付けた。



つつっぼ



- ・翌日、網とバケツをもって引き上げにいった。そーっと引き上げて片方に直ぐ網をあてがった。つつっぼは斜めにした。一方から獲物を網に入れるためである。鰻が主であった。

※家業にしている人もいた。その人達は何か所にも沈めていた。

ぼさ

- ・細い竹を束にしたり、葉の付いたほだ木を束ねたりして、海水の出入りする沼や池に沈めた。
- ・翌日、網とバケツを持って引き上げに行った。そーと持ち上げ網を下にして揺すった。かいよん（鰻の子供）、小海老、沙魚、小魚等が網に落ちた。

換掘（かいぼり）……放言ではけっぼりと言った。

- ・沼の水を汲み上げたり、川を塞き止め、塞き止めた部分の水を掻き出して魚などを捕まえた。
- ・子供にはとても出来る作業ではないので、田圃の水路を塞き止めてバケツで汲み出した。どじょうなどが捕れた。
- ・観音町の海のそばに「おじさんの池」と言われていた池があり、消防団がエンジン付きのポンプで換掘をし、捕れた魚を煮たり焼いたりしてにぎやかに一杯やっていたのを今でも覚えている。

筥（せん）細い竹を筒状に編んだもので魚を捕る道具。口が細くなっており、底は塞がっている。一般に「ど」と称していた。放言である。

- ・これは海では使えない。細い流れに仕掛けた。子供達には高くて買えず、持っている家は少なかった。どじょうを専門に捕る人がいて、多くの場所に仕掛けていた。生活の為である。

海ほおずき（数種の巻貝の角質の卵囊。アカニシ、ナガニシ、パイなど）

- ・卵囊を取り除き、中を空洞にし、口の中で吹き鳴らして遊んだ。
- ・なぎなた状をしていた。

3 要約

ともかく私たちの子供の頃は、夏は海と共に育ったのである。沼や池や川と共に育ったのである。遊びの中からさまざまなことを知恵として育んで来たと言っても過言ではない。遊びだけではない。海苔の簀も縁台の上で編んだのである。家の仕事もしたのである。風呂の水汲み、風呂を燃すのもやった。今のようにゲーム機など全く無い良き時代であった。

歳時記を通して知る八幡

日本人の生活に密着し、心の柱として、信仰と風習が根づいている中、次第に失われつつある八幡の歳時記を思い起こし後世に受け継いで行かなくては成らないと思います。

八幡宮 春例大祭時に宝蔵庫の一般公開 13時から
 八幡宮 大祓式6月、12月(罪・穢れを祓い清める式) 茅の輪くぐり。
 八幡宮 秋例大祭時に神事を継承している 放生池

子安講・子安様

このはな(や)め

子安観音、子安地藏、子安稲荷、浅間神社御神体(木花開耶姫)と同一視されている。
 東日本には、月の19日に集まり、子安様信仰する子安講が今でもある。
 八幡では、茶飲み会に変わりつつある。(掛け軸に木花開耶姫が赤子を抱く)
 お題目は 南無子安の観音是音・・・ (各家庭に持ち回り)

卯の日祭(う) 2月3日 八幡宮の神徳顕現の日を祝う祭 各町会で祝った。

初午(はつ) 2月最初の午の日 お稲荷様

みりつかみ

さて、稲荷様にはなぜ狐がつきものなのか。一説によれば、御饑津神に由来する。狐は「つけ」というが、御饑津神を「三狐神」とかいして、狐をの使いと考えるようになったのである。
 油揚げで包んだ酢飯を稲荷と呼ぶのは、狐が油揚げを好むことに由来する。(臨)

2月最初の午の日に祝う。市原市(八幡観音町、菊間出途地区)で祭事のみ行われている。
 以前は宴会も行われた。

浅間神社と(富士信仰) (八幡敬愛講 富士講)

富士山を信仰をする講社。信徒は夏季に白衣を着用して、鈴を振り六根清浄を唱えながら登山した。
 江戸時代に角行(かぎ)という修験者が、身録(み)になりその後、富士信仰が盛んに行われた。
 市原市内にも多くの富士塚が造られ市内最大である。

行事月並 1月、5月、9月月並祭。7月に山開き、浅間神社齊行(旧暦6/) 本年は、7月8日
 浜本町毎月月並を実施している。(富士閉山祭前に御破いを行っている)

7月富士登山前に無事帰還を祈り神事を行っている。現在は登山は5合目までバスで小峰嶽神社参拝
 北口本宮浅間神社参拝している。

8月26日浅間神社火祭り(閉山祭) 神輿渡御と火祭り、浅間神社参道と町内に(大松明)が奉納され
 点火され浅間神社火祭りが終わる。

臨海祭り 臨海企業と各町会の親睦のため。5月の第4周の日曜日行われている。

体育祭 市原地区 石塚・八幡・五所・市原・若宮・菊間小学校区と市民が集う。

お釈迦様 誕生日 4/8称念寺 甘茶をお釈迦様に掛けて祝う。 んは

閻魔様 無量寺 4/8無量寺 甘茶をお釈迦様に掛けて祝う。 8/16閻魔様掛け軸。

盆踊り 7月に八幡運動公園で実施

称念寺 ご開帳。称念寺 8/20 除夜の鐘付き。

消防操法大会 市原地区町会の消防団が競う大会。(夜警・各地区)

田植、田お越し、代掻き(し 峠) 荒代、中代、植代、田植

早苗饗(さな 幼) 田植を終えた祝い「さのぼり(早上がり)」の転。季節夏(臨)

結い(えーっこ) 親戚あるいは隣同士で、田植えなど忙しい時期お互いに手伝い合うこと。

年中行事

		八幡地区の行事	
1月	初詣・初日の出	初詣・鎮火祭	1月14日 お飾り炊き・火難防止を祈る祭
2月	節分	2月 3日	節分祭・卯の日祭・2月初の午の初午の日祭
3月	雛祭り	3月 3日	3月15日春季大祭(30町で菖蒲・柳)
4月	(衣替え)		お釈迦様の誕生日に甘茶を頭からかけ祝う。 4/8無量寺・称念寺
5月	端午の節句	5月 5日	男の節句に初孫の成長を祝う行事
6月	大祓式	6月30日	罪・穢れを祓い清める(茅の輪くぐり)
7月	七夕・お盆	7月 7日	旧暦6月1日浅間神社例祭 富士信仰(富士講) 7/8
8月	お盆		8月15日・8月16日 無量寺 閻魔様
9月	菊の節句	9月13日	旧暦8月15日十五夜 秋季大祭、神輿渡御。 次の週の日曜日
10月	(神無月)		
11月	七五三詣で	11月15日	七五三 紐解き(ひぼとき)
12月	大祓式・大掃除		大祓式 神棚に神社で年神様の御札を購入、しめ飾りで準備。 富士講 新年を迎えるため、清掃後しめ飾りで準備。

ひぼとき 紐解き 七五三(市原)

幼児がそれまでの付帯(おび)をやめ、初めて帯を用いる祝いの儀式。男児は5歳から9歳。女児7歳の11月の吉日(15日)選んで行う、紐解きの祝い。

各家庭の祝い

※ 雛祭り 初孫の成長を祝い。雛人形を飾り、桜餅、白酒・桃の花飾り祝った。長女の家では親戚近所を招き祝った。

端午の節句

※ 端午の節句 庭先さに幟旗や鯉のぼりを立てて男子の成長を祝う。邪気を払うため、菖蒲や蓬(よもぎ)を軒先に吊るす。粽(ちまき)柏餅(かしわもち)を食べる。(幟旗・ぬりだ) 鍾馗(しょうず)の幟旗と鯉の滝登り2本と鯉のぼりを立てた。菖蒲は風呂に入れると病にかからないといわれている。

※ 幟旗に鍾馗(しょうず)様、

唐の玄宗の夢の中に、終南山の人で、進士試験に落第して自殺した鍾馗が夢の中にきて魔を祓い病を癒したと故事から。(五月人形に作ります)

※ 12月その年に生まれた女の子は羽子板・男の子は破魔矢縁起ものとして送る女の子の実家より嫁ぎ先に送る。

全国の神様が出雲大社に集う月であったが、恵比寿様だけ出雲に赴かない、そこで「留守神」とされた。商家では、商売繁盛を願って、留守役の恵比寿様を祀りする。

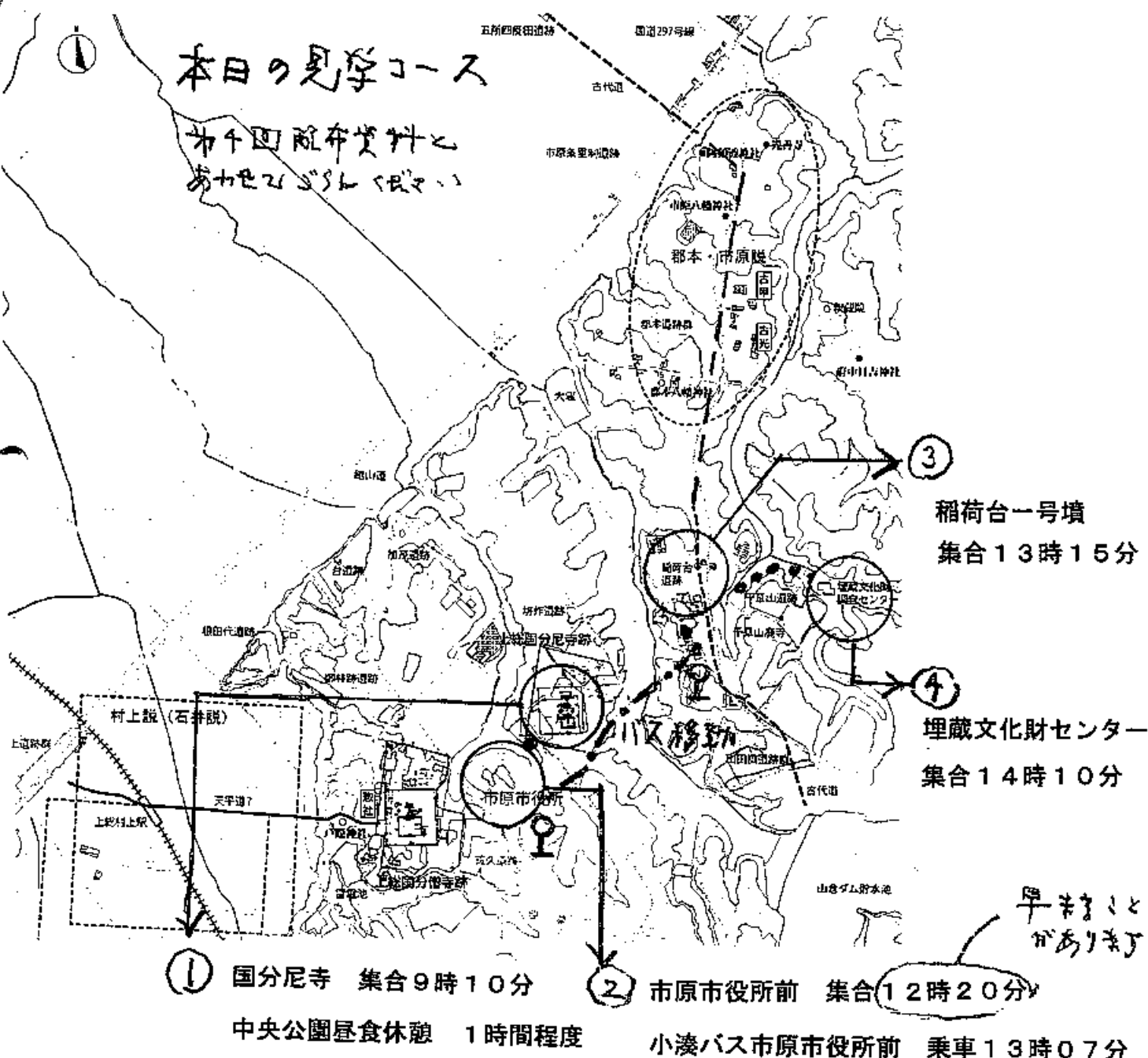
平成25年度八幡公民館主催事業「八幡史学館」第5回

国分寺地区現地研修

平成25-11-7 山岸弘明

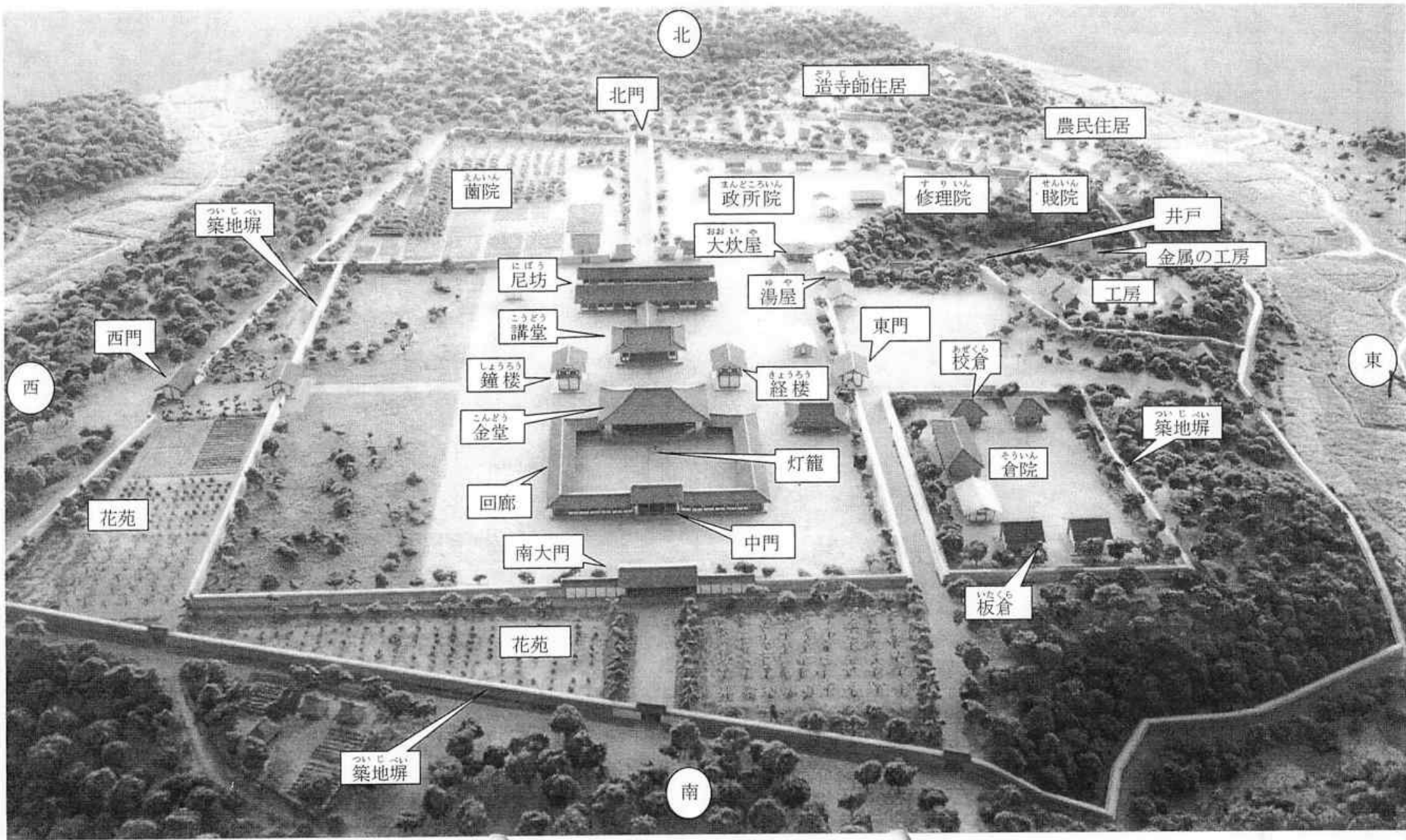
本日の見学コース

为今回配布資料と
あわせて資料を
読んでください



上総国分尼寺内配置

(南から)





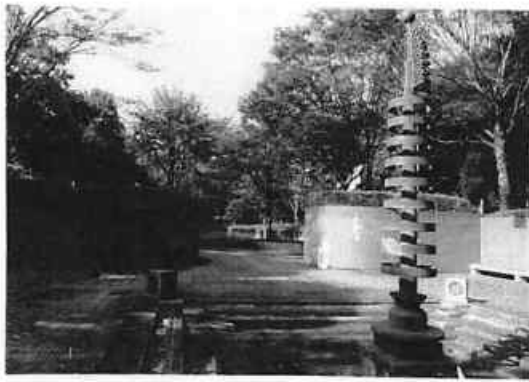
上総園分尼寺跡之歴史館



展示室の尼寺跡



菊花展の肉位中



昼食の
中尺公園



市庁、市役所↑↑と一大パノラマが広がる屋上からの眺望と堪能





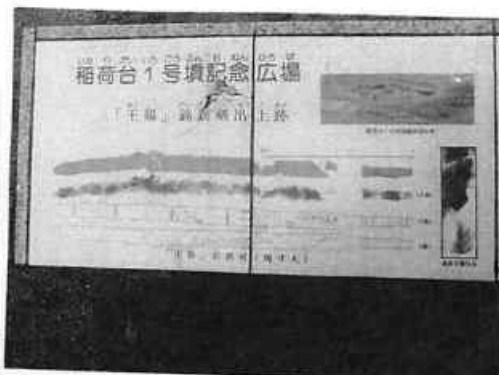
第7図 稲荷台遺跡全体図 (S=1/1,000)

王賜銘鉄剣 概報

千葉県市原市稲荷台1号墳出土



千葉県教育委員会



この広場は、稲荷台1号墳の所在地で、昭和51年12月から翌年の3月にかけて発掘調査されました。実際の古墳はすでに消滅しましたが、正面に3分の1で墳丘を復元しました。

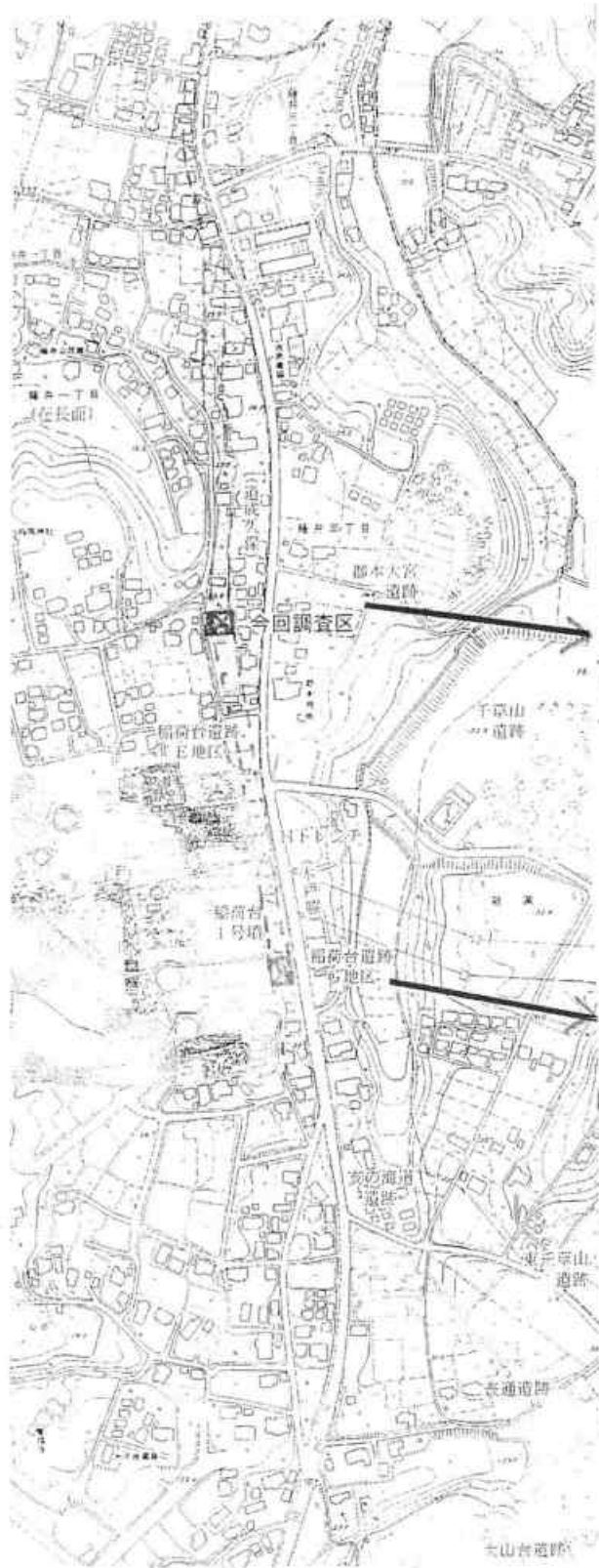
稲荷台1号墳から出土した鉄剣より、王賜で始まる京東派の剣文が、X線撮影によって発見され「王賜」銘鉄剣と名付けられました。

銘文 (表) 王賜□□敬□
(裏) 此延□□□□

「王賜」銘鉄剣は、5世紀中頃、古代国家成立期における畿内と東国との結びつきを知る上で貴重な史料と言えます。

平成元年3月
市原市教育委員会





千原山(平)

新向台(サ)一回河(平)



調査前



調査後



市原市埋蔵文化財調査センターの役割、調査の目的、調査の進め方、調査の結果、調査の今後の展望について、詳しく説明しています。

市原市埋蔵文化財調査センターは、市原市の埋蔵文化財の調査・発掘・保存・展示・研究・普及に努めています。調査の目的は、埋蔵文化財の調査・発掘・保存・展示・研究・普及に努めることです。

調査の進め方は、調査の計画、調査の実施、調査の結果の整理・分析、調査の結果の発表・普及に努めます。

調査の結果は、調査の結果の整理・分析、調査の結果の発表・普及に努めます。

調査の今後の展望は、調査の計画、調査の実施、調査の結果の整理・分析、調査の結果の発表・普及に努めます。

市原市埋蔵文化財調査センターの役割、調査の目的、調査の進め方、調査の結果、調査の今後の展望について、詳しく説明しています。

市原市埋蔵文化財調査センターは、市原市の埋蔵文化財の調査・発掘・保存・展示・研究・普及に努めています。調査の目的は、埋蔵文化財の調査・発掘・保存・展示・研究・普及に努めることです。

調査の進め方は、調査の計画、調査の実施、調査の結果の整理・分析、調査の結果の発表・普及に努めます。

調査の結果は、調査の結果の整理・分析、調査の結果の発表・普及に努めます。

調査の今後の展望は、調査の計画、調査の実施、調査の結果の整理・分析、調査の結果の発表・普及に努めます。



市原市埋蔵文化財調査センター

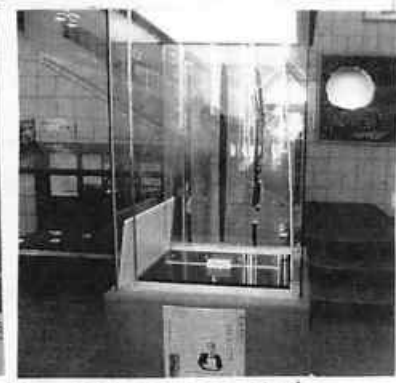
市原市埋蔵文化財調査センターの役割、調査の目的、調査の進め方、調査の結果、調査の今後の展望について、詳しく説明しています。

市原市埋蔵文化財調査センターは、市原市の埋蔵文化財の調査・発掘・保存・展示・研究・普及に努めています。調査の目的は、埋蔵文化財の調査・発掘・保存・展示・研究・普及に努めることです。

調査の進め方は、調査の計画、調査の実施、調査の結果の整理・分析、調査の結果の発表・普及に努めます。

調査の結果は、調査の結果の整理・分析、調査の結果の発表・普及に努めます。

調査の今後の展望は、調査の計画、調査の実施、調査の結果の整理・分析、調査の結果の発表・普及に努めます。



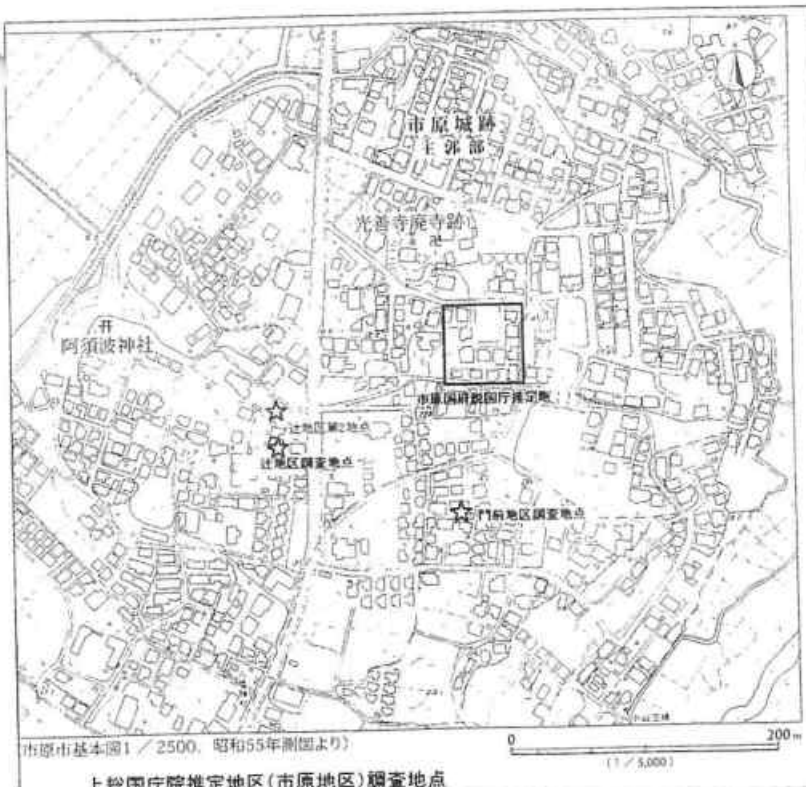
↑ 埋蔵文化財調査センター ↑ 展示室 ↓ 玉賜塔鉄剣

市原市市制施行50周年記念事業
八幡公民館創立65周年

11/23(祭)
市原市埋蔵文化財調査センター
所長 田所 真 氏

申し込み受付中
お友達も誘ってください

上総国府について — 市原説を中心に — **八幡史学館内国講座**



市原説を中心とした上総国府研究の最新情報を



北地区の発掘調査





市原市市制施行50周年 八幡公民館創立65周年

平成 25 年 11 月 23 日

● 記念講演会 14:00~16:00

上総国府について ~市原説を中心に~

講師 = 田所 真 市原市埋蔵文化財調査センター所長

● 市原地区の歩み展 第2シリーズ 12:00~13:45

いちほら地区の歩み

お茶のおもてなし

むかし映写会=戦前の八幡



● 市原地区の歩み展 第1シリーズ

10月5・6日 = 実施済み（八幡公民館文化祭と同時開催、上の写真）

● 市原地区の歩み展 第3シリーズ

12月21日~明年1月10日 JR八幡宿駅ギャラリー

八幡港・五大力船大絵馬、菊間藩五井村年貢割付、八幡村皆済目録、菊間藩資料、五大力船資料、写真などを予定

主催 八幡公民館運営委員会

主管 八幡史学館名所100選チーム



八幡建設のうた、座右の銘=浅見喜舟書

一水野家

3代藩主水野忠義書



明新館心得=手島精一書



水野家紋三方



八幡村々鑑

明細帳



木更津泉

五大力船台帳



五大力船セビ

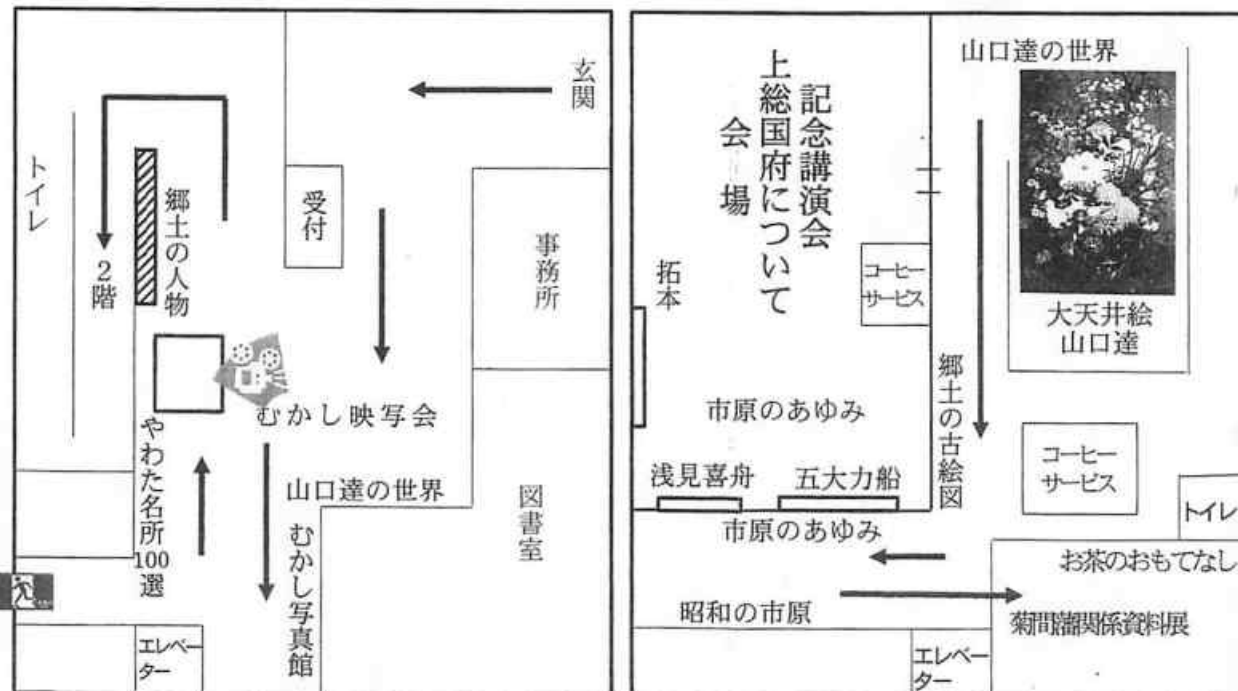


菊間藩主掛軸

水野忠敬書



山口達画



【1階会場】

【2階会場】



市原市市制施行50周年記念事業

八幡公民館創立65周年

平成25年度

【記念講演会】

11
23 (祝)

講演テーマ

上総国府について

—— 市原説を中心に ——

講師

市原市埋蔵文化財調査センター

所長 田所 真 氏

時間

12:30~13:45 ・むかし映写会「戦前の八幡」

・お茶のおもてなし

・「市原の歩み」展示

14:00~16:00 ・記念講演会

会場

八幡公民館 講堂

募集人数

150名

会費

無料

受付

10月5日(土)より先着順に受け付け

主催：八幡公民館運営委員会

☎41-1984

主管：八幡史学館名所100選チーム

上総国府について
—市原説を中心として—



2013.11.23
主催：八幡公民館運営委員会
武蔵国衙跡パンフレットより

役人の執務風景

上総国府は幻か？

「知りたい」から「みつける」へ

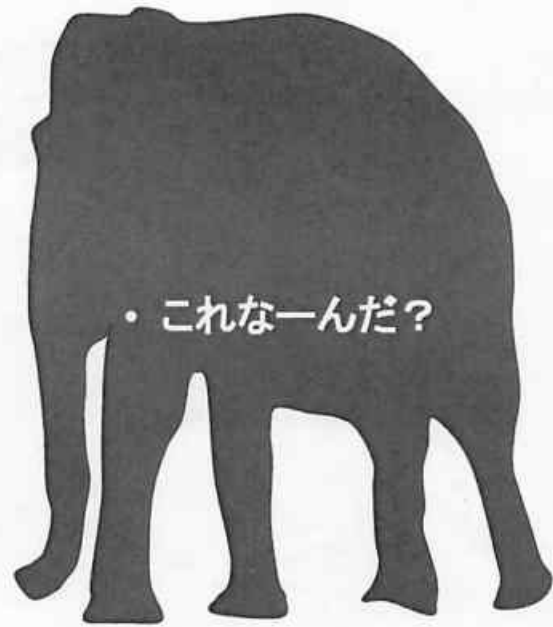
上総国府は、幻でしょうか？

右の影絵は、
何の絵でしょうか？

なぜわかるのですか？

特徴を知っているから？
仲間をみたことがあるから？
この絵をよく観察したから？

見方がわかれば見えてくる！
よそ見をしないで、
じっくり見つめよう！
きっと、みつかると！！



• これな—んだ？

はじめに

国府研究の意義

倭国→日本
 律令の導入・・・国家の成立
 (司法・立法・行政・徴税・軍事)

個別人身支配

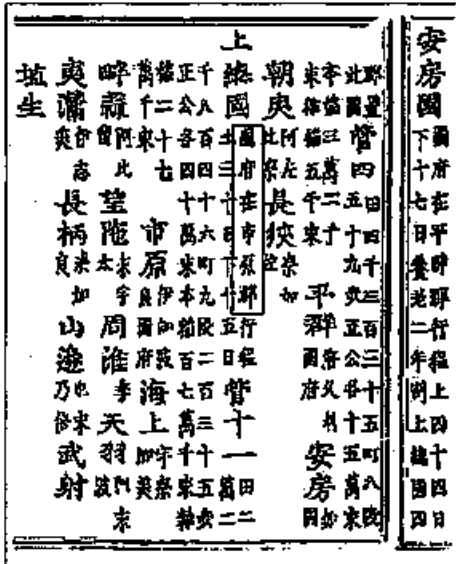
日本は、どのようにして国家を築いて
 いったのか。

↓
 律令制度に基づく地方支配体制の
 確立によって

国府が置かれたということ

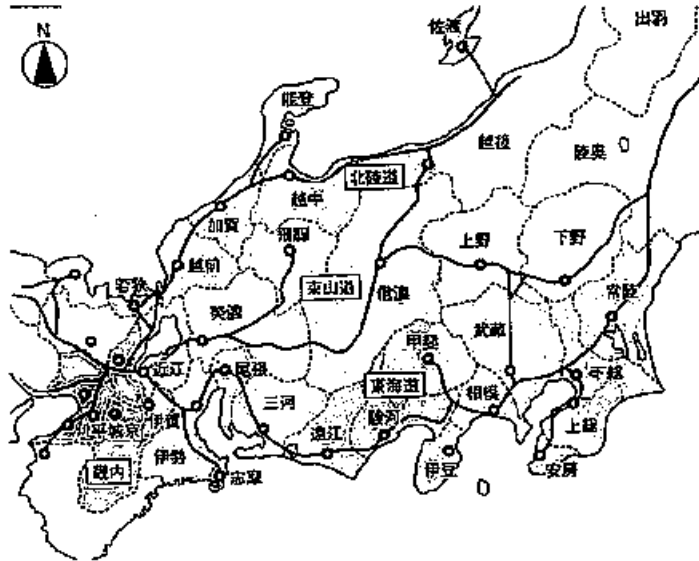
↓
 市原の遺跡から、国家形成期の実
 態を知ることができる=重要!!

⇨ここに国府解明の意義がある



古代の国々

『古代東国仏教の中心寺院下野熊野寺』(須田勉・2012・新泉社)より



東国国府の概要と総社

エリア	位置	国名	等級	郡の数	和名抄	総社	総社所在地
東山道	遠国	上野国	大国	14郡	群馬郡	総社神社	桐横市総社
		武蔵国	大国	21郡	多摩郡	大國魂神社	府中市
		下野国	上国	9郡	都賀郡	大神神社	栃本市惣社町
東海道	遠国	相模国	上国	8郡	大住郡	六所神社	平塚市
		安房国	中国	4郡	平群郡	鶴ヶ谷八幡宮	山崎山市
		上総国	大国	11郡	市原郡	飯巻岡八幡宮	※市原市八幡
		下総国	大国	11郡	葛飾郡	六所神社跡	市川市国府台
		常陸国	大国	11郡	茨城郡	常陸国総社宮	石岡市総社

従来の上総国府推定地諸説

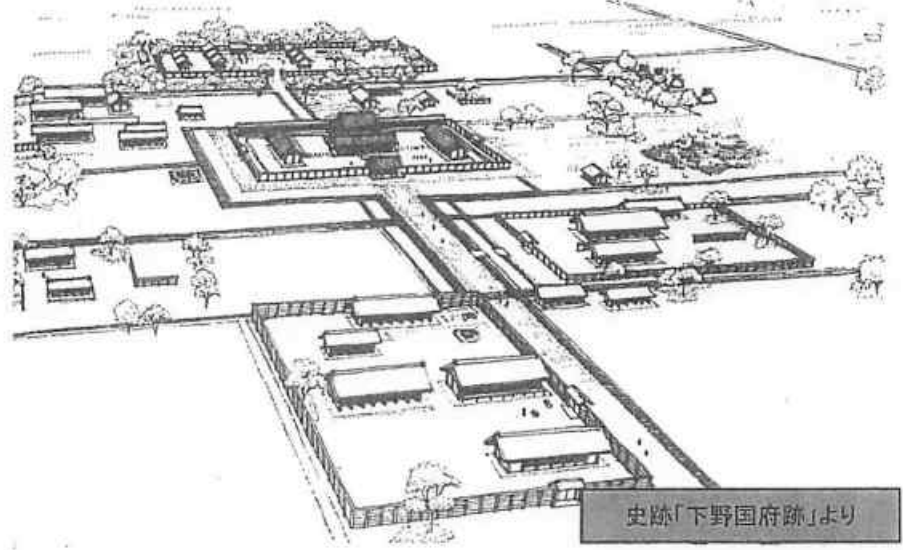


これまでの諸説(基本的には大字単位の推定)

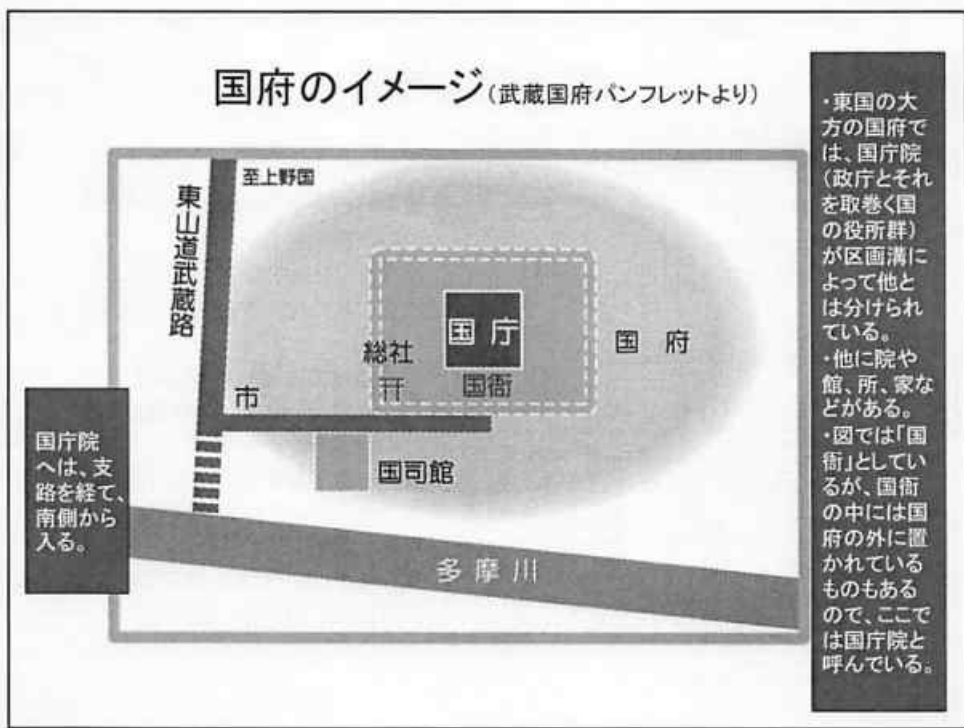
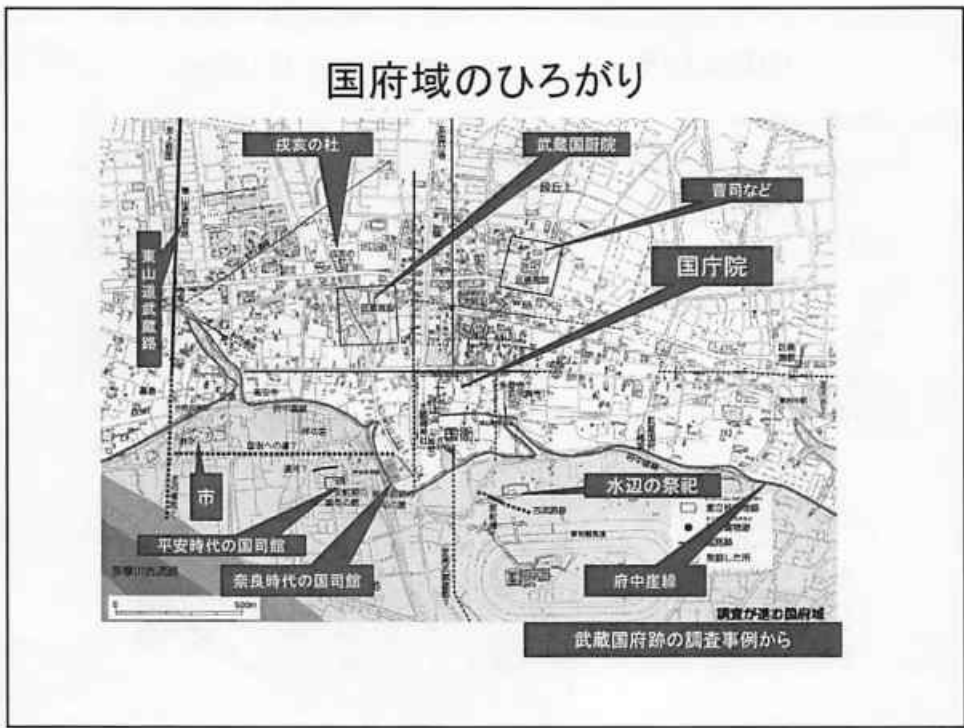
- ・郡本国府説 中村国香『房総志料』(一七六三年)
「郡本は国府より出たる名なり」
滝口宏・平野元三郎→郡本八幡神社周辺発掘
「平安時代から中世の遺跡」
市原市教育委員会による古甲遺跡などの調査
宮本敬一 郡本～藤井→守公神等の配置研究
- ・館瀨国府説 小沢治郎三衛門『上総町郷誌』(一八八九年)
「モト府中ト称ス」
立石泰三『上総と国府』(一九八九年)
府中日吉神社周辺(中世的都市景観)
- ・惣社国府説
大森金五郎『上総国府所在の研究』(一九三〇年)
「諸国の事例として、国分寺、国府、総社は近隣」
→殿屋敷あたりを国府とした。
藤岡謙二郎『房総の三国府と常陸国府』
『国府』(一九六九年)
※岡山県総社市(備前国)・群馬県前橋市(上野国)
- ・村上国府説
石井剛孝『上総国の国府について』『史蹟』(一九七六年)
須田 勉『上総国府の諸問題』『古代』(一九七六年)
→惣社の台地に隣接する微高地(惣社国府説の延長)
- ・市原国府説 稲田恵吉『上総国府の研究』(一九六三年)



従来からの国府のイメージ



史跡「下野国府跡」より

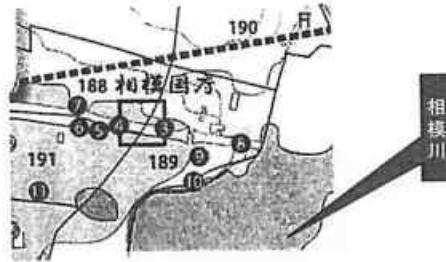


東国における国庁院の立地(台地上縁辺近く)

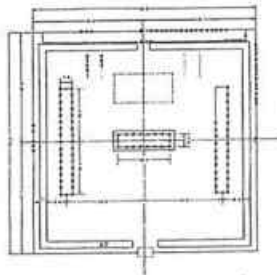


【湖南新道開運遺跡群】

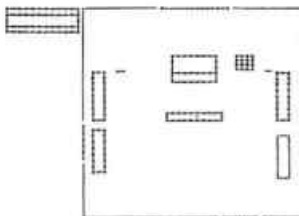
- 3 国庁東船殿 (3 x 9間以上の大型獨立柱建物)
- 「国所」壘壘土器
- 4 運舟式鍛冶工所
- 国庁西船殿 (大型獨立柱建物)
- 5 運舟式鍛冶工所
- 6 金銅製小仏像
- 7 軒丸瓦



国庁院の構成



Ⅱ期



第Ⅱ期 (2=中園)
国庁院の瓦葺化と曹吏正殿の出現

- 正殿・前殿・東西脇殿が整っている
- 前庭が存在する
- 国庁院を取囲む柵列などがある
- 左右対称に施設が配置される
- 他の地域の国庁も基本は同じ
- 同じところで、何度かの建替がある
- 儀式的場であるから、同じような構成が必要→上総国も同様のはず
- 規模は、国によってばらつきがある。
- 東西40m程度～130m強まで
- 付属施設に楼閣など違いあり。

国庁院・国衙域の変遷

東国国府(国庁院・国衙域)の変遷

年代	武蔵国	下野国	下総国	常陸国
7世紀中葉	郡家の成立と東山道武蔵路建設開始			
7世紀後半			国衙建設のムラ生まれる	
8世紀初葉	初期国府城郭出現		塹穴建物無くなる	0期(1)河内国式部
8世紀前半	国衙施設成立	国庁成立	大型掘立柱建物出現	第1a期(1)定型化国庁成立
8世紀中葉	礎石建物による大規模整備			第1b期(1)国庁内以改作
758年天平宝字二年	新羅郡成立			第2期(1)国庁瓦葺きと曹司出現
8世紀後半		国庁跡(掘立→礎石瓦葺)		
751年延暦10年		この頃に政庁損失		
8世紀末			幅員4mの区画溝	
9世紀前半		瓦作瓦葺(石葺瓦葺)区画築地		第3a期(1)国庁と曹司の一体化
9世紀中葉	国衙施設整備			
845年	国分寺再建			
9世紀後半				第3b期(1)曹司正殿の消滅
10世紀前半		前庭無くなる→石敷遺構		第4期(1)国庁院の消滅
10世紀		国衙施設	国衙曹司跡	
10世紀末	国衙直造→塹壕(塹穴建物へ)			
11世紀			九州村社境内築造成立	第5期(1)終末期国庁院の消滅

※ 国庁院(国衙域)の変遷は、1期(7世紀後半～8世紀初葉)、2期(8世紀前半)、3期(8世紀中葉～10世紀前半)、4期(10世紀後半～11世紀)に分かれる。
※ 註: 上記国府の国庁院(国衙域)の変遷も、同様の変遷をたどるものと推定することができる。

国府の構成

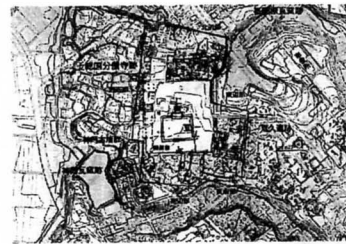
東国国府の構成要素一覧

要素	位置	特徴	出土品	調査状況
国庁院	国府跡	掘立・礎石瓦葺	瓦、瓦葺	調査済
国司館	国府跡	大量の緑釉陶器	銅椀、白磁	調査済
官道	国府跡	駅路と国府支路	南からのアクセス	調査済
祭祀跡	国府跡	水の祭祀	ヒトガタの出土	調査済
国厨院	国府跡	氷室	掘立(院を構成)	調査済
国神社	国府跡	総社	戌亥の杜	調査済

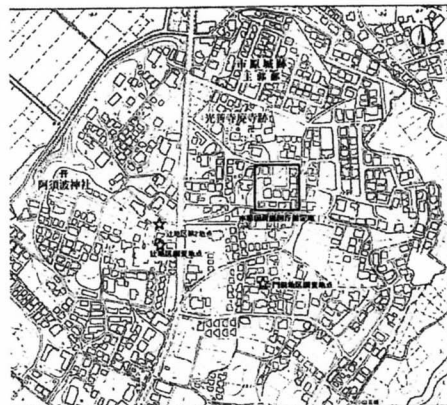
- 国庁院→大きな掘立
瓦や磚の出土
大規模な区画溝
台地の縁辺部
- 国司館→大量の緑釉陶器
銅椀や白磁
- 官道→駅路と国府支路
南からのアクセス
- 祭祀跡→水の祭祀
ヒトガタの出土
- 国厨院→氷室
掘立(院を構成)
- 国神社→総社
戌亥の杜

村上国府説について(低地国府説と惣社地名)

- ・ 惣社初見 平時範『時範記』1099年
- ・ 十一世紀前半の平安文学には、初任神拝記事が認められる。
- ・ 『今昔物語』陸奥国守
- ・ 『更級日記』常陸国介菅原孝標
- ・ 十一世紀後半～十二世紀前半 国庁院変質消滅時期と一致
- ・ 上総国分寺の古代伽藍消滅と一致
- ・ 古代伽藍後割は、戦後まで温存していた。⇒古代以後に大規模な開発が行われなかったことを意味する。
- ・ 地割を見ると、惣社の低地に条里 ⇒国分寺料存在⇒村上地区×
- ・ 村上の開発は14世紀には見られる。14世紀には惣社現存⇒覚園寺文書



鴫田惠吉の国庁院推定地と近年の発掘事例



上総国庁院推定地区(市原地区)調査地点

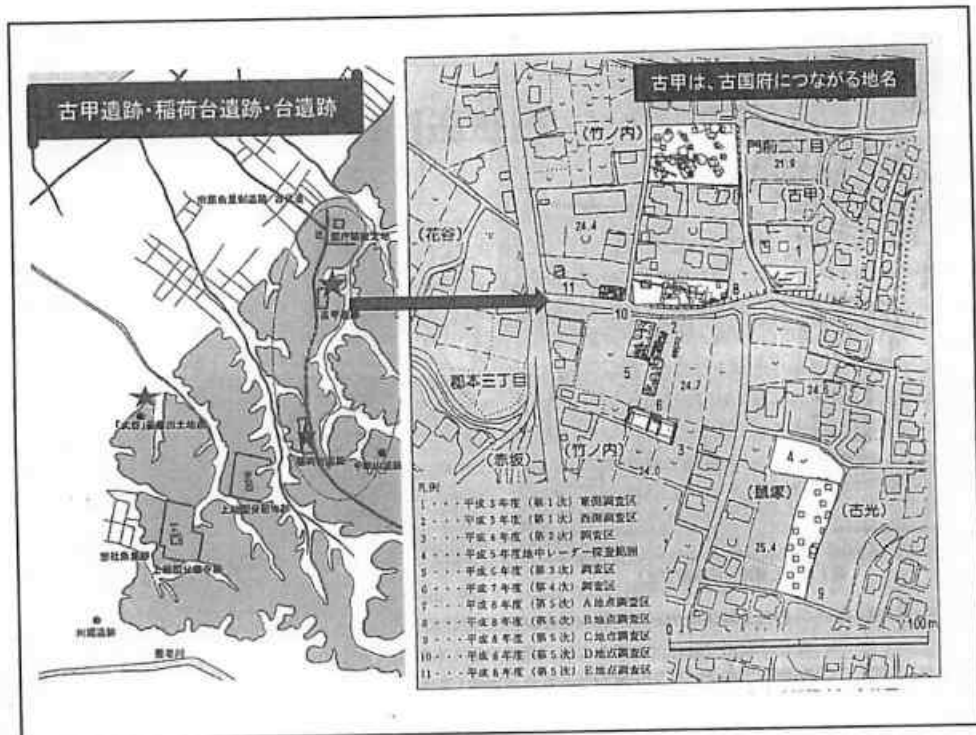
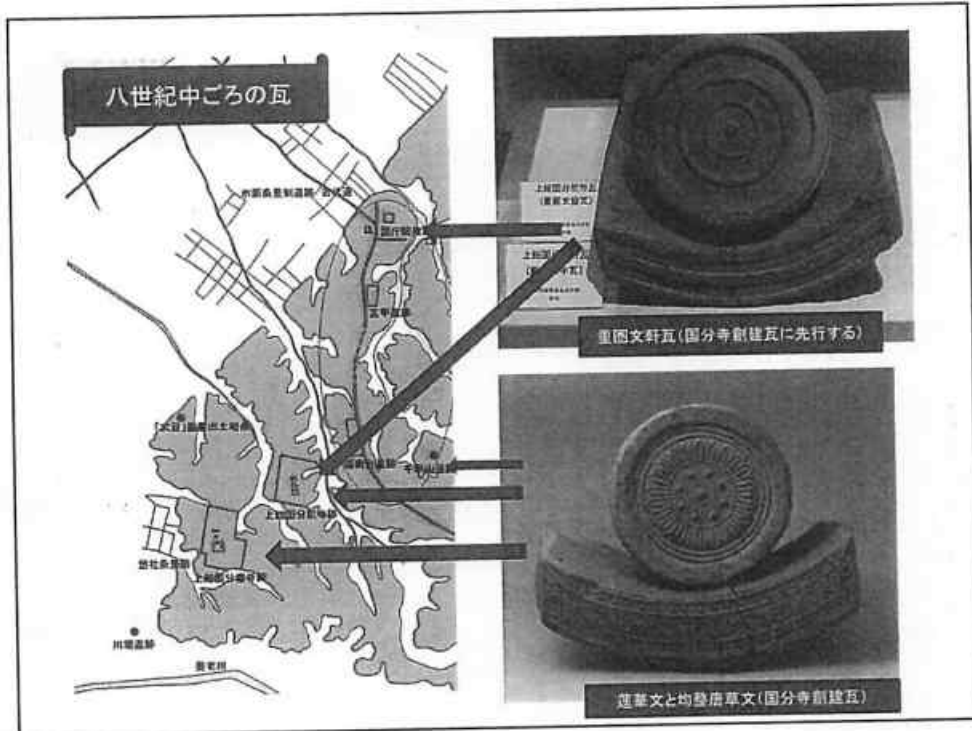
- ・ 光善寺跡・・・七世紀後半からの寺院
- ・ 辻地区地点・・・平成22年度調査
- ・ 市内で最も大型の掘立柱跡を発見
- ・ 辻地区第2地点・・・阿須波神社北側の切通し延長線上の古代道跡
- ・ 中世に溝状の改作を受けている。
- ・ 門前地区・・・平成24年度に調査
- ・ 数度にわたる掘立柱建物と、廃絶後の墓穴などが発見されている。
- ・ □で囲われた範囲が、鴫田惠吉が上総国庁院に推定した場所
- ・ 近隣から、重圏紋軒先瓦が発見されている。

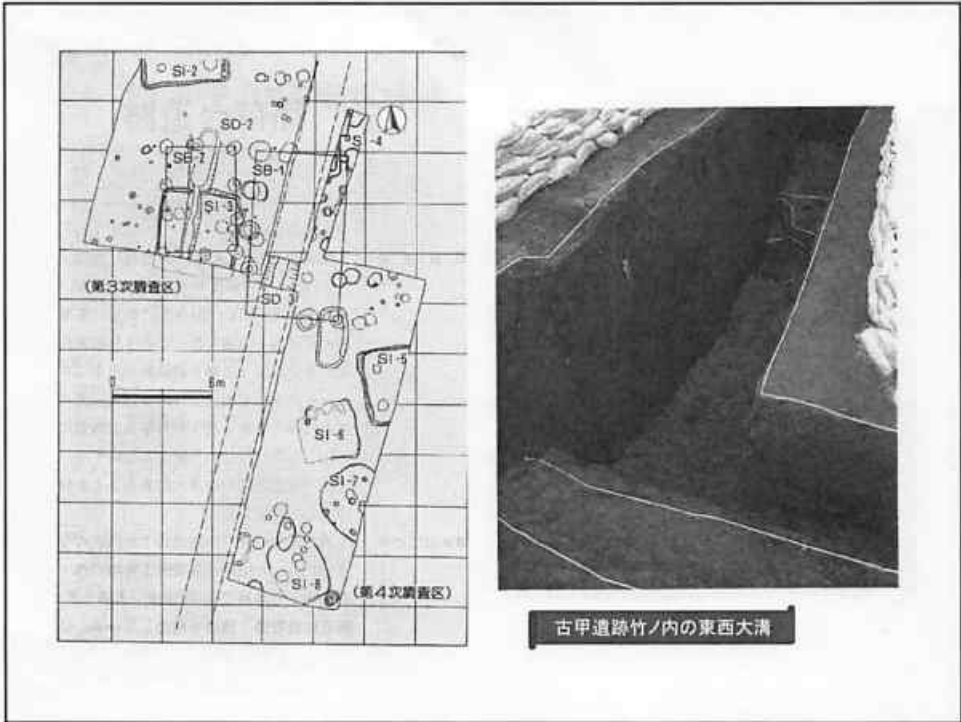


辻地区の発掘風景
(大きな掘立柱の跡が発見された)



門前地区の発掘調査風景 (建替えられた掘立柱跡などが発見された)

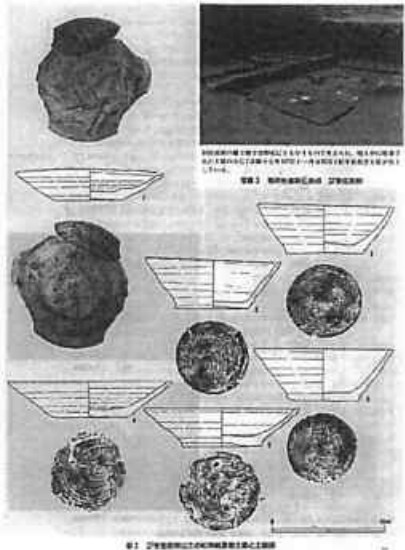




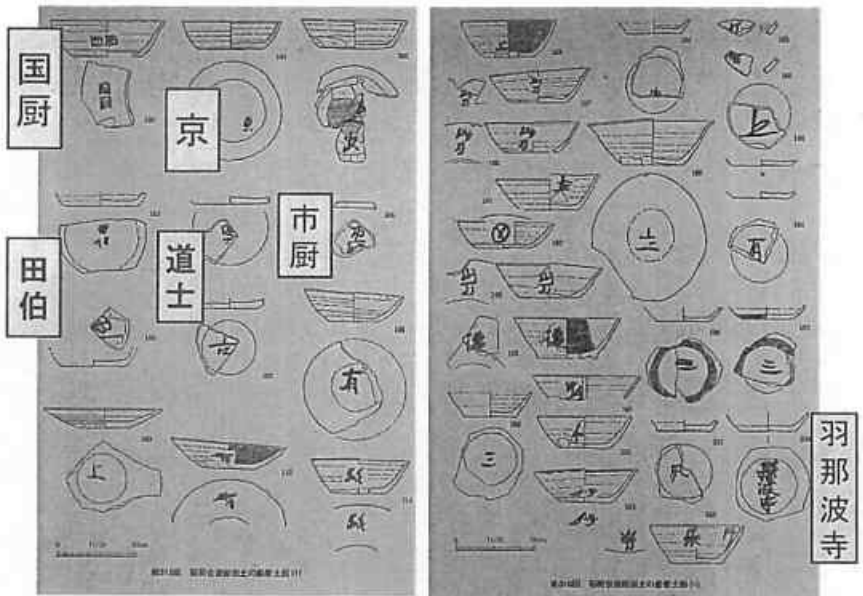
古甲遺跡竹ノ内の東西大溝

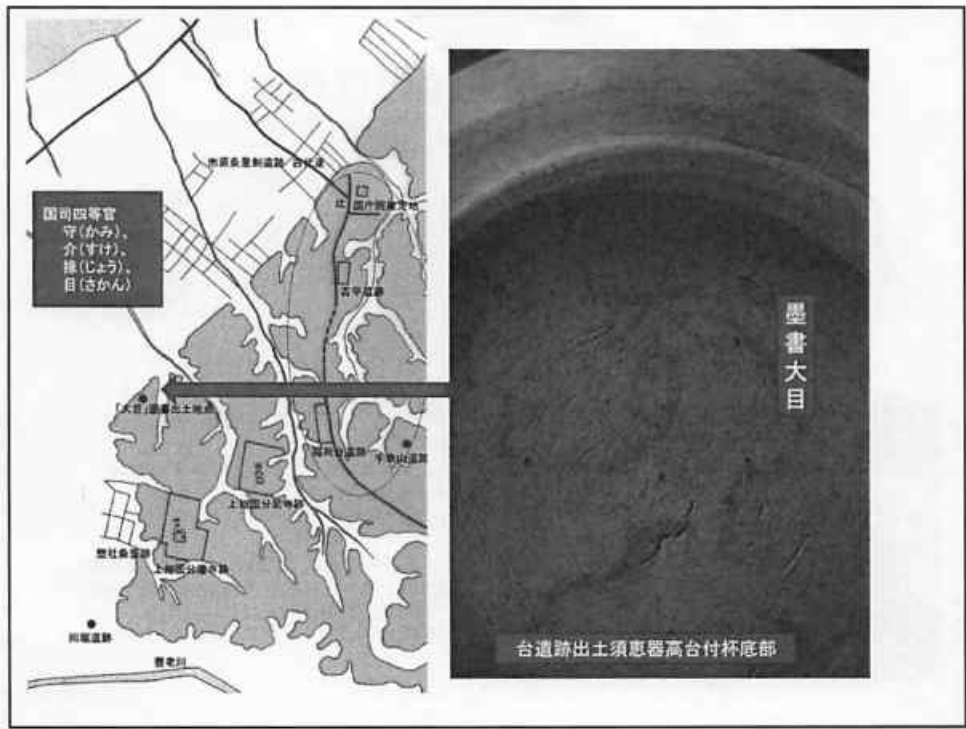


稻荷台遺跡
 緑釉薬陶器と紀年銘墨書土器



稻荷台遺跡から出土した墨書土器





市原台地の古代道



台地上の道
辻地区第2
派出所裏
稲荷台北
(切通し)
稲荷台G地点
亥の街道
山田橋表道

※直線道は
稲荷台まで



『更級日記』
車に乗るとで・

市原条里制遺跡の古代道



市原区文書 (旧白井家所蔵文書) 明治9年
右下が北方向
阿須波神社から台地を下る地形が見られる。
条里畦畔の字名などが読める
台地側から一の坪、二の坪となっている。

←古代道は、幅員7.5mの両側溝を有する本格的な道路。台地へは、正面阿須波神社北側の切通しから上がる。距離55m
→「宇辻」へと続く。



稲荷台遺跡の古代道路跡



辻第2地点の調査





国府の祭祀

- 阿須波神社





戦乱の上総国府を偲める

信濃の乱 頼朝の乱
高野の乱 そして頼朝

日 程 平成25年12月1日(日曜日)
9:30-16:30(9:00開演)

講演会場 作原伸太郎直続 (YOU)ホール
多摩多目的ホール
〒206-8575 東京都目黒区 1-1-1 1F
〒100-8302 東京都千代田区 千代田 1-1-1
(1F) 江戸博物館 4階 作原伸太郎直続 6階センターホール

観覧人数 300名 (当日先着順)
料 金 無 料

〒100-8302 東京都千代田区千代田1-1-1
03-3542-1111
03-3542-1125



2013年度 東大寺特別展 特別展

天平の華

東大寺と国分寺

2013年10月19日(土)-12月12日(木)
前掲大学博物館特別展示室 階上特別展示室

〒662-0801 奈良県奈良市大仏町1-1
TEL: 0742-222111 FAX: 0742-222112
http://www.todaiji.or.jp

Mn

古代末から中世ならこちらもお勧め

国分寺も知りたい方はこちらもお勧め

**まずは本でという方には、
コチラがお勧め！**



『まぼろしの上総国府を探して』
『まぼろしの上総国府を探して』
『まぼろしの上総国府を探して』

とにかく現地を歩くならこちらがお勧め！



かずさのくに国府探検会

観光ボランティア
FAX 0435-21-8088 (前田)
f-maeda@mx1.ttcn.ne.jp
ホームページ
<http://www.maroon.dti.ne.jp/sc190b/>

【連絡先】

「かずさのくに国府探検会」
観光ボランティア
FAX 0435-21-8088 (前田)
f-maeda@mx1.ttcn.ne.jp
ホームページ
<http://www.maroon.dti.ne.jp/sc190b/>



こたえ：ソウ



「こたえはゾウにきていますよ
ね。でも、アナタの「ソウ」は想像
していた方向に歩いていましたか？」

平成 25 年 3 月 7 日

山 岸 弘 明 様

市原市立辰巳公民館
館 長 澤 田 雅 之

平成 25 年度辰巳公民館主催事業の講師について (依頼)

早春の候、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

平成 24 年度本公民館主催事業では、熱心かつ丁寧なご指導を賜り、誠にありがとうございました。

さて、平成 25 年度の主催事業を下記の通りに計画いたしました。

つきましては、公私ご多用の折り、誠に恐縮に存じますが、主催事業の講師としてご指導くださいますようお願い申し上げます。

記

- 1. 事業名 歴史散策
- 2. 日 時 ・平成 25 年 8 月 30 (金) 講義
午前 9 時 30 分～11 時 30 分

・平成 25 年 9 月 27 日 (金) バス研修
午前 8 時 30 分～16 時 30 分 予定
- 3. 場 所 市原市立辰巳公民館 会議室、研修室
- 4. 内 容 ペリー来航から開国、開港、そして東洋最大の貿易港となった横浜に日本の幕末、明治維新、文明開化史とその背景を学ぶ。
- 5. 対 象 一般成人 30 名
- 6. その他 ・公民館で用意するものにつきましては、事前にご連絡いただきましたら幸いです。
・講座の当日ご印鑑をお借りいたしますので、ご用意をお願いいたします。

担当 白川ますみ 宮澤洋子
TEL 0436 (74) 8521
FAX 0436 (74) 8543

辰巳公民館主催事業「歴史散歩」 横浜に開国と文明開化を訪ねる

平成25-8-30

泰平のねむりをさます上喜撰（蒸気船） たった四はいで夜もねむれず！

第1回

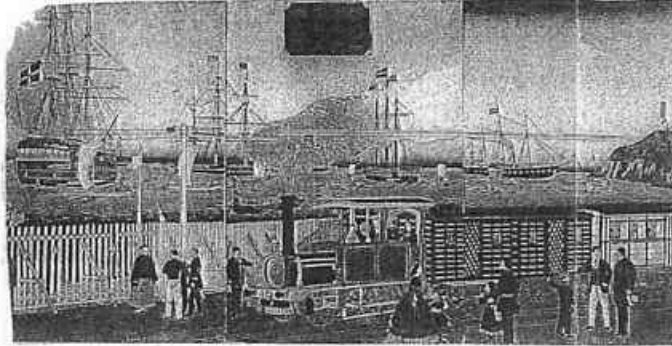
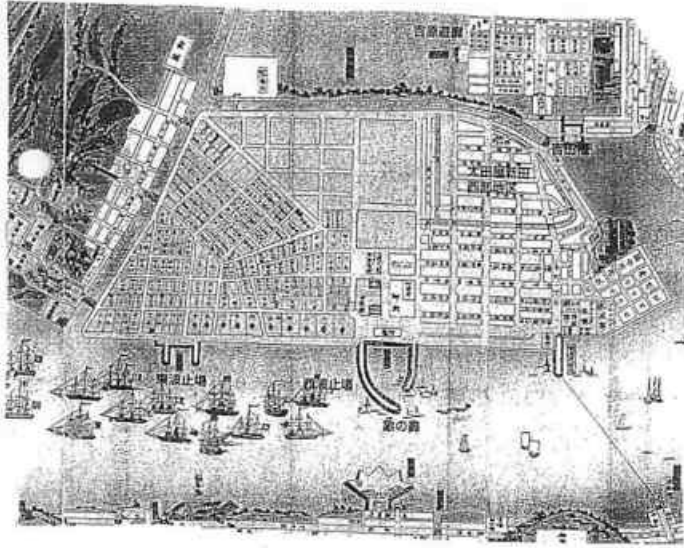
山岸弘明

横浜開港ものがたり—それは「ペリー来航」からはじまった

上喜撰はカフェインの高いお茶で多く飲むと夜眠れなくなったという。

幕府がわずかに4隻のアメリカ船に狼狽している様子を皮肉っている。

ペリーが浦賀に現われたのは嘉永6年のことだが、幕府はこのことを30年以上前から予測し、海防の必要性を議論していたが、永年におよぶ泰平ボケと財政難、ことなかれ主義が国力アップと軍制改革を阻んで、結果大醜態をさらすことになった。幕府は自国の貧弱な武力では攘夷などおぼつかないことを思い知らされ、翌安政元年ペリーの艦隊が横浜沖に再航すると開国を決意する。決断後の日本側の対応は早かった。2月10日横浜村にペリー以下500名の将兵を上陸させて日米会議を開催、長く門戸を閉ざした鎖国=日本がいよいよ開国の日を迎えた。



第2回=9月27日(金曜日) バス研修=横浜に開国と文明開化を訪ねる

「横浜開港ものがたり」年表

嘉永6年(1853) 6月3日	ペリーが江戸湾浦賀に来航
安政元年(1854) 1月16日	ペリー再来航、28日横浜村沖合いに停泊
〃 3月3日	横浜で「日米和親条約」を締結
〃 5年(1858) 6月19日	「日米通商条約」締結、横浜、函館、長崎を開港
〃 6年(1859) 7月	横浜に外国人居留地を作る
文久2年(1862) 8月21日	生麦事件起る
〃 3年(1863) 5月18日	イギリス、フランスに軍艦駐屯を許可
元治元年(1864) 11月21日	「横浜居留地覚書」を調印
慶応2年(1866) 10月20日	居留地大火、大半を焼失
〃 3年(1867) 7月25日	外国人居留地を山手地区に拡大
明治元年(1868)	明治維新の戦い、徳川幕府崩壊
〃 3年(1870) 5月6日	山手公園開園
〃 12月8日	「横浜毎日新聞」創刊
〃 5年(1872) 9月12日	横浜、新橋間で鉄道開業
〃 9月29日	ガス灯はじめて点灯



テーマ1 さがみの古代に生きた人びと

遠くから渡来した人びとが自然に育まれた神奈川地域には、縄文時代、弥生時代、古墳時代、鎌倉時代、室町時代、江戸時代、明治時代、戦後時代、現代時代など多くの文化が重なりあっています。なかでも縄文時代の文化が、現代の文化に大きな影響を与えています。この展示では、縄文時代の生活の様子や、当時の人びとの生活の様子を、最新の発掘調査の結果を基に紹介しています。



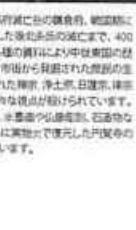
テーマ3 近世の街道と庶民文化

近世の神奈川地域は、大都會江戸に隣接し、江戸と甲州、奥州をつなぐ甲州街道が中心となり、江戸と上方を結ぶ東海道が重要になっていきました。なかでも東海道沿いの重要な町は、町奉行、御用、御用など、また街道の沿道には、茶屋、酒場、旅籠屋、土蔵、土蔵など、多様な町並みが見られます。この展示では、近世の街道の様子や、庶民の生活の様子を、当時の絵巻や浮世草子などを基に紹介しています。



テーマ2 都市鎌倉と中世びと

鎌倉時代による鎌倉幕府の治まりから、幕府滅亡後の鎌倉、戦国時代に小田原を拠点に開国の一役を担った徳川氏による中世末期の歴史と文化を展示しています。そこには鎌倉時代から戦国時代までの生活、はるか昔の文化の交流、あつた様々な文化が紹介されています。また、各コーナーには、当時の生活の様子や、当時の人びとの生活の様子を、最新の発掘調査の結果を基に紹介しています。



テーマ4 横浜開港と近代化

神奈川の近代化のなかで、特筆的なことである「開港」下における海外との交流、ペリー来航、世界に開かれた横浜港、神奈川開港にまつる文化の交流、自由経済の発展、様々な近代産業の発展などの資料を紹介しています。そして当時の横浜の文化や生活について、最新の発掘調査の結果を基に紹介しています。また、当時の生活の様子や、当時の人びとの生活の様子を、最新の発掘調査の結果を基に紹介しています。



- ⑥ 4名は馬上のまま行列が通り過ぎるのを待とうとしたが藩士の奈良原喜左衛門にとがめた。ことばが通じずまごまごしている内に切り付け、久木村治休が二の太刀、落馬したところを有村俊吉がとどめをさした。残る3名は命からがら居留地に逃げこみ国際問題に発展する。
- ⑦ イギリス公使は幕府と薩摩藩に犯人の引渡しと賠償金を要求したが久光は拒否、翌文久3年6月イギリス艦隊7隻が鹿児島湾に迫り7月2日激しい砲撃戦となった。戦いはイギリス軍が勝利、薩摩軍は砲台を占拠され鹿児島島の町を多くを焼失した。
- ⑧ 薩摩藩は自らの力不足をさと、外国から諸技術を学んで力を付けるという積極開国策へと方向転換する。また賠償金を支払い以後英国と蜜月関係に入る。
- ⑨ 事件を契機に薩摩は幕府から離反し、のち「薩長同盟」の成立で倒幕運動の柱となった。

7) 開国で弱体化した徳川幕府が崩壊——明治維新の戦い始まる

- ① 開国の決断者・井伊直弼は幕府威信の復活をめざした強権政治を進めるがすべてが裏目にでる。万延元年テロリストの襲撃で桜田門前に倒れ、幕府はこの後急坂を駆け落ちるように崩壊への道を歩む。
- ② 幕府の弱腰外交への不満は天皇への期待となり、変革を求める世論が高まる。政治思想＝国家的世論の流れは尊王攘夷→公武合体→倒幕運動へと変遷していく。
* 尊王＝天皇を貴ぶ、攘夷＝外国人を追い払う、本来別の思想が一体となった
- ③ 慶応3年10月、15代將軍慶喜は朝廷に「大政奉還」を上奏、この日薩長に向けて「倒幕の密勅」が下った。ここに徳川幕府260余年の歴史が幕を閉じた。
- ④ 慶応4年1月鳥羽伏見の戦い始まり幕府軍は敗走、4月江戸城は無血開城された。旧幕軍、東北諸藩の抵抗も明治2年5月の函館「五稜郭の戦い」をもってすべてが平定された。

196 開港とその影響

第9章 p.230 - 231

1 開港と貿易

- 1860年以降、幕末の貿易額は急増、66年まで輸出超過。66年の改定税関による税率引き下げにより、67年は輸入額が輸出額を上まわった
- 輸出品の8割以上が生糸と絹織物
- 輸入品の8割が織物
- 横浜港の集積が70%以上
- イギリスが圧倒的に支配



開港地の横浜 横浜の町は、幕上層と幕下層を挟んで奥(西側)が日本人居住区、手前(東側)が外国人居住区として形成された。高止場は当初、東西二つに分けられ、外国貿易と内国貿易は区別された。波止場前の白い大きな扉(シャドーン・マゼソン商会)をはじめ、居留地の建物は大きかった。横浜の開港により、生糸をはじめ輸出品の多くは生産地から横浜に運送されるようになったので、幕府は1860年3月5品に生糸と絹織物を加えて規制したが、列国の反対で効果は上がらなかった。

2 貿易の開始

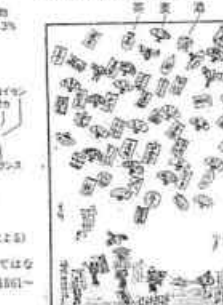
貿易額・貿易品



輸出入商と番附紙



物価の高騰



輸出商 外国人への輸出商品を扱う先込商らが、横浜で生糸を売りにこんだ。また、外国人から輸入品を買ひ、売りをこぼく商人が効果をとんだ。

幕府紙(番附紙)と銀紙 一般的には一つの紙巻いくつかに区切り、その上に積層をおき、それぞれ重箱のなかに紙を入れ、封を産みつけさせた。当然、伊で幕の例が流行して生糸の値が高騰しており、生糸とともに番附紙は重要な輸出品となった。

物価の高騰 1866年、輸出の急増により、生糸の生産が追いつかなくなったため、生糸価格は暴騰し、米麦などの物価高騰にもつながった。翌年、当時流行した「例世のぼり具」と名づけられた貨幣、生活必需品の値段は高くなり、奉公人の賃金などは下落している。

3 金銀比価の違い



1 幕府滅亡までの流れ

- 1867 1. パリ万国博覧会に遠征使節派遣(正使は徳川親王、3月万博開会)
- 2. 長州開港動議、ヘボン、【和英辞林】を刊行
- 3. 坂本龍馬、【船中六策】を薩長藩士部に提示、幕府に外交方針を提言
- 4. 「見えじゃないか」の発生
- 5. 坂、長、薩3藩、倒幕を約束
- 6. 山内豊徳、幕府に外交方針を提言
- 7. 薩長に討幕の密勅
- 8. 坂本龍馬・中岡慎太郎暗殺される
- 9. 坂本龍馬の密勅
- 10. 王政復古の大号令、小治政の開始(慶喜に「御新詔」を命ず)
- 11. 江戸幕府の滅亡

2 大政奉還(1867年)

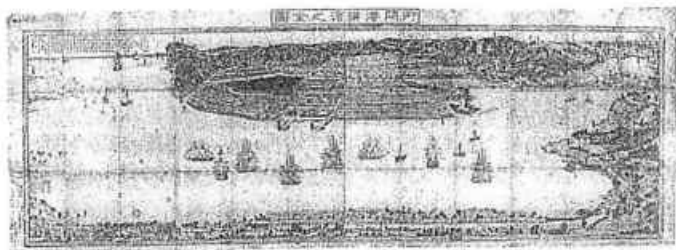


桜田門外の戦い 1860年、安政の大獄に憤慨した幕府士(薩長藩士17名、長州藩士1名)が、大急ぎで急襲する井伊直弼を桜田門前で襲った。

世界と横浜の開港

横浜の波止場

横浜市歴史博物館



開港当初の波止場

開港初期の全図 横浜開港資料館蔵

開港当初の波止場

開港当初の横浜の様子を知る「開港初期の横浜全図」には、画面のほぼ中央に波止場が描かれています。のちにイギリス波止場と呼ばれるこの波止場には、荷役のために2つの突堤が設けられました。当時の史料には「長さ60間、幅10間の石垣にて水上1丈3尺、この上芝土手高さ5尺」とあり、大きさは幅約18メートル、長

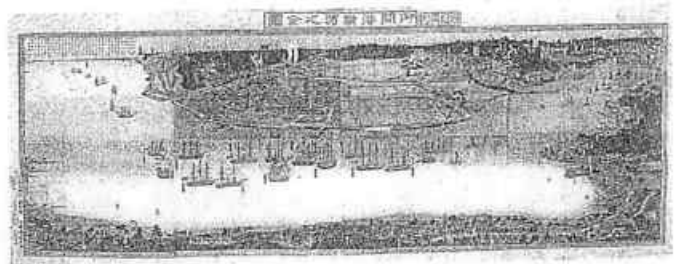
さ約108メートルであったことがわかります。この突堤は外洋を航行する大型船が直接接岸できない造りであったため、船は沖合に停泊しました。貨物は荷足船や瀬取船と呼ばれる小船に積み替えて運んでいたのです。

また貿易の事務を取り扱う運上所が、現在神奈川県庁のある場所に置かれました。

フランス波止場の新設

横浜で行われる貿易は年毎に発展し、当初の波止場では荷役が追いつかなくなりました。そこで元治元年(1864)、現在のマリニタワーより少し大棧橋寄りに新たな波止場が設けられました。「増補再刻開港初期の横浜全図」を見ると、当

初の波止場の左方に新たに2つの突堤が描かれています。この波止場は、フランス人居住区の前に造られたことから、フランス波止場と呼ばれました。



フランス波止場ができたころ

増補再刻開港初期の全図 当館蔵

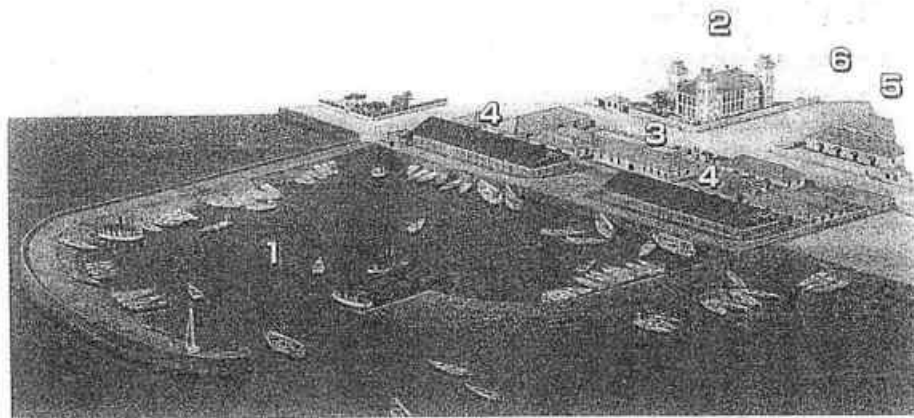
慶応3年(1867)以降の波止場

慶応2年(1866)に関内地区で大火があり、日本人町の約3分の2、外国人居留地の3分の1近くが焼失しました。開港当初の波止場も運上所を焼失するなど、大きな被害を受けました。この復興の際、波止場の様子は大きく変わりました。

波止場の設備が拡充され、2つの突堤は波の影響を受けることなく荷役ができるように延伸されました。先端が食い込むようにカーブを描いた独特な形の突堤は、のちに「象の鼻」と呼ばれるようになります。運上所は、2つの突堤に挟まれた海面の一部を埋め立て、そこに再建されました。新しい運上所は火災防止のため石

積みの外壁を持ち、建物中央に通り抜け、ホールを設けるなど、これまでの日本建築にはない西洋の型式が取り入れられました。運上所の海側には、貨物の一時的な置き場所である上屋が2棟建てられました。また、石積みの保税倉庫が、新しい運上所の両側や焼失した運上所跡に何棟も造られました。

けれども、大型船が接岸できず効率的な荷役ができな、本格的な防波堤がないといった港湾設備の不備は解消されませんでした。近代港湾として設備が整うのは、大棧橋が完成する明治27年(1894)のことです。



イギリス波止場復元模型 1870年代

① イギリス波止場

場所は、現在の神奈川県庁や横浜開港資料館の海側、大棧橋の入口と横浜税関のあいだです。大型船が直接接岸できなかったため、荷役は小船を介して行われました。向かって左の突堤は、その形から「象の鼻」というニックネームがつけました。突堤先端にある灯竿は、英国人技師プラントンが設計しました。

② イギリス領事館

要衝的な3本の塔が特徴の建物です。現在横浜開港資料館があるところです。

③ 運上所

運上所は、貿易の事務を取り扱う役所で、現在の税関にあたります。建物は火災防止のため、外壁が石積みで造られました。また、アーチ形の入口や建物中央

部に設けられた通り抜けのホールなど、西洋の建築デザインが取り入れられています。

④ 上屋

船積み前の貨物や陸揚げした貨物を、一時的に置いておく建物です。側面に、広い大きな屋根を支えるための木組みが見えています。

⑤ 保税倉庫

当時の史料には石庫と記されています。輸入手続き中の貨物を保管する倉庫で、火災防止のため石積みで造られました。この場所は現在神奈川県庁の敷地です。

⑥ 日本大通り

英国人技師プラントンが、防火帯を兼ねて設計した街路です。砕石をローラーで固めたマカダム舗装がなされていました。

7

56

次回バス研修のみどころ

1) 主要行程

8時 分	辰巳公民館発、アクアライン経由
10時15分	横浜市営馬車道地下駐車場着
10時30分～11時30分	神奈川県立歴史博物館（旧横浜正金銀行）45分間
11時30分	馬車道、日本大通り、開港記念館、運上所、神奈川県庁
12時15分～13時00分	開港広場（昼食）
13時00分～13時30分	横浜開港資料館（日米和親条約締結の地）30分間
13時45分	横浜波止場
14時15分	大棧橋（横浜港と巨大客船、山下公園遠望）
15時15分	大棧橋国際乗客ターミナル駐車場発、往路逆送
16時30分	往路逆送、辰巳公民館着、解散

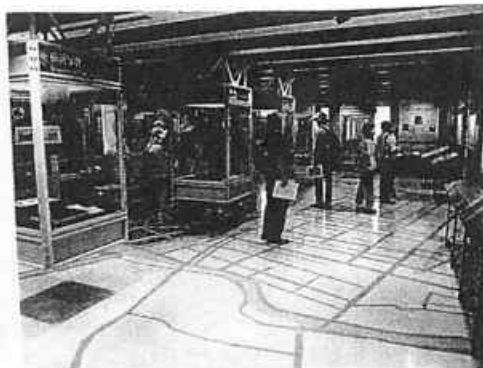
2) 「関内」は外国人居留地だった

- ①桜木町駅＝初代横浜駅の後身。明治5年開業、汽笛一声新橋をめざした。桜木町駅近く、馬車道地下駐車場で降車。
- ②関内＝幕府は長崎出島のように外国人居住者を1か所に集め、治安のため川堀を回し出入りに警備門を築いた。居留地である吉田橋の関門の内側を関内、外側を関外と呼んだ。
- ③現在、関内は横浜市の副中心街で行楽地、神奈川県庁など官庁、銀行、オフィス街のほか横浜港、大棧橋、横浜スタジアム、中華街などがある。
- ④横浜正金銀行本店ビル（県立歴史博物館）＝明治13年大隈重信らが設立、松方正義により外国貿易金融銀行となり、戦後GHQにより縮小され東京銀行となった。国の重要文化財で指定史蹟、明治37年建造のネオ・ブロック建築だが、グリーンがめだつ中心のドームは関東大震災で焼失、昭和42年に復元された。現在県立歴史博物館で最初の見学地となる。
- ⑤専任学芸員に2階「文明開化と近代化」を中心に案内していただく。ペリー来航と世界に開かれた横浜の町の文明開化資料などが紹介される。
- ⑥馬車道＝外国人が馬車で往来した道。当時の日本人には珍しく馬車を「異人馬車」、ひんばんに通行したこの道を「馬車道」と呼んだ。
- ⑦日本大通り周辺の開港記念館、運上所跡、神奈川県庁などの歴史的建造物に触れながら進む。
- ⑧昼食の開港広場は日米和親条約締結の地。一面にある横浜開港資料館は元英国総領事館で記念ホールはその待合室だった。中庭のタブノキはペリーの日米和親条約図にもある。資料館を見学、生麦事件関係資料などを展示している。
- ⑨横浜波止場＝5か国条約で開港された横浜港。荷役作業に使用された鉄軌道と転車台がガラス床下に展示されている。
- ⑩大棧橋＝明治27年象の鼻部分を構築。関東大震災後の改修工事のらせん杭を展示。大棧橋埠頭は平成14年の竣工、巨大埠頭から東京湾を一望し、停泊する豪華客船、山下公園、氷川丸、赤レンガ倉庫などを遠望する。感動的空間を十分楽しんでください。

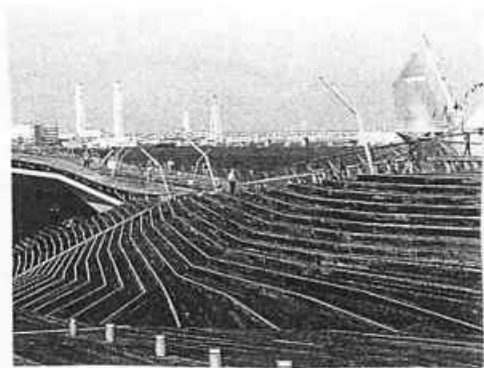
以上



県立歴史博物館



横浜開港資料館



大棧橋

辰巳公民館主催事業「歴史散歩」

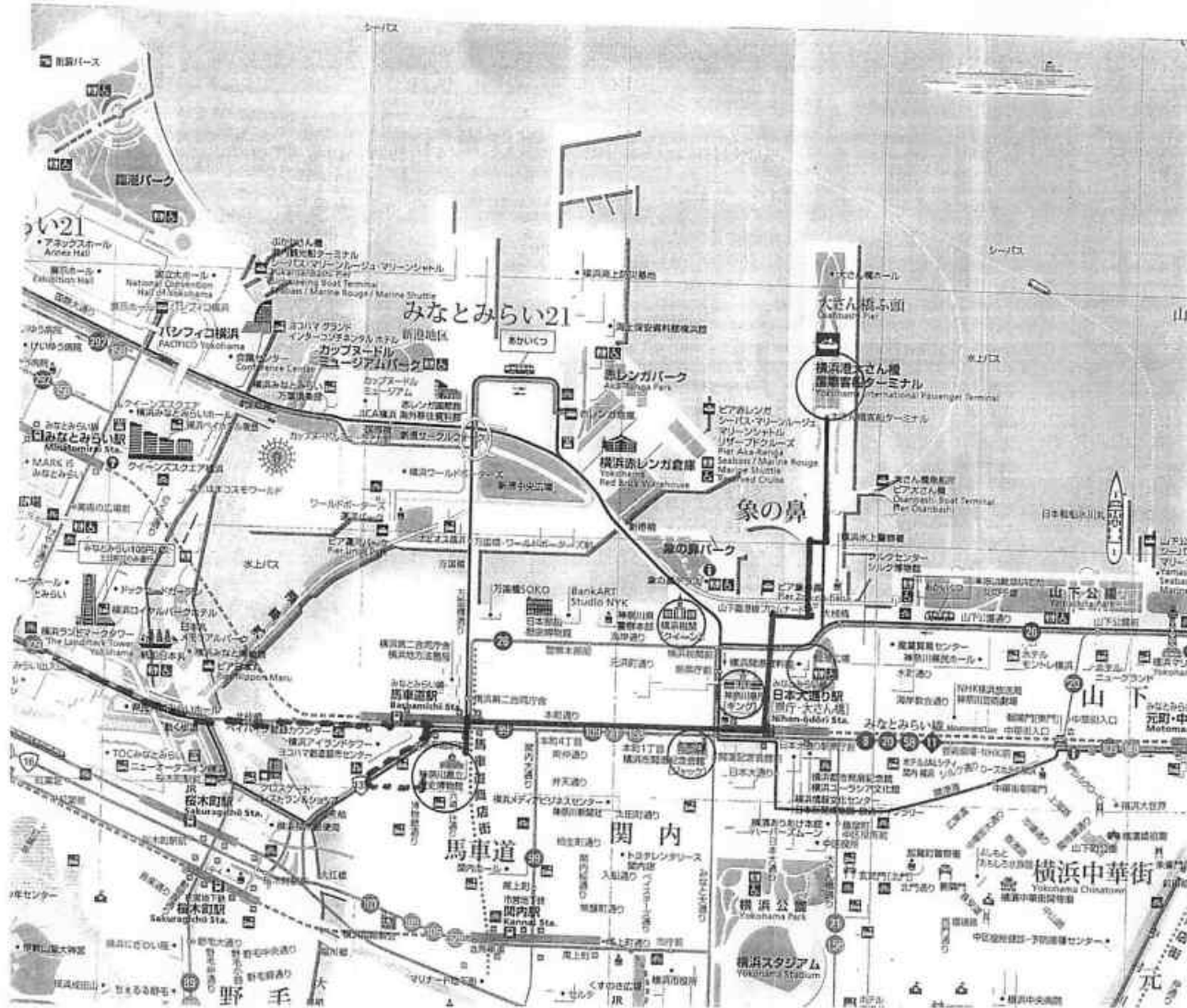
平成25-9-27 山岸弘明

横浜に開国と文明開化を訪ねる

第2回 バス研修=現地巡見



県立歴史博物館



本日のご案内コース

横浜開港資料館入場券

主要行程 (天候や進行状況により変更することがあります)

- 8時50分 辰巳公民館発、アクアライン、海ほたる
- 10時30分~11時30分 神奈川県立歴史博物館 (旧横浜正金銀行) 馬車道、本町通りの歴史的建造物、神奈川県庁開港広場 (昼食)
- 12時15分~13時00分 横浜開港資料館 (日米和親条約締結の地) 横浜波止場跡、大棧橋乗船場前
- 13時00分~13時30分 大棧橋 (横浜港と巨大客船、山下公園遠望)
- 14時15分~15時00分 大棧橋国際乗客ターミナル発
- 15時00分 往路逆送、辰巳公民館着解散
- 16時30分

100戸の寒村が15年後に6万人の国際貿易港に

安政元年幕府はペリーの2度目の来航により横浜で「日米和親条約」を締結、条約に基づき安政5年「日米修好通商条約」が結ばれ、翌6年横浜が開港された。開港当時神奈川は東海道の宿場町として栄え、5千人ほどの人口であったのに対し横浜村は100戸程度の半農半漁の小村であった。しかし安政6年7月幕府が居留地を作る布告を出すと海岸の埋め立てが始まり、日本人町も造られて慶応2年人口2万人、明治5年には6万4千人を数える国際貿易港になっていた。この港を経由して西欧や欧米から人や物資や分物=学問、芸術、宗教、教育制度などが流入し、日本社会の旧習打破、文明開化、実利合理性などの風潮をもたらした。

一方、開港直後から海外への輸出が本格化し、日本人貿易商が外国人商人に主として生糸を販売した。慶応3年には横浜の全輸出価格の半分以上を占めた。横浜は日本を代表する生糸貿易港となり埼玉出身の原三溪、群馬の茂木惣兵衛、吉田幸兵衛ら大商人を輩出した。

開港後の日本は西欧列強の「外圧」に抗しながら、独立をまっとうできる経済力を作り出す必要に迫られていた。生糸商は外国人と対峙して外国資本の日本への侵入を防いでいた。彼らは生糸貿易を通じて多額の外貨を獲得し、日本はその外貨で近代化を成し遂げていくことになる。

「関内」は居留地関門の内側をいった

横浜開港にともない「居留地」は横浜村先端の宗岡島 (しょうかんじま) とよれた半島に作られた。町は鎖国時代の長崎出島を意識した造りで周囲を掘割して日本人町と分離、境の吉田橋に「関門」を築いた。居留地の外国人居住者の治安を守るため、居留地と東海道神奈川宿を結ぶ「横浜道」も開港に間に合わせるために突貫工事で作られた。

関門を境に海側が関内、陸側は関外と呼ばれた。開港したとはいえ明治維新まで8年、幕末の混乱はいよいよ急を告げていた。



横浜開港資料館

バス研修＝横浜に開国と文明開化を訪ねる

1) 楽しい「アクアライン」の旅——1時間強で横浜へ

- ① 7時50分辰巳公民館出発、館山自動車道からアクアライン、バスは東京湾を越えて対岸の神奈川県に入る。わずか1時間強、「横浜」は意外と近い。
- ② 首都高速みなとみらい出口を降りると息突く暇もなく「開港場、居留地」の境川、大岡川を渡る。
- ③ 県立歴史博物館正面玄関に横付け、バスとは帰りまでお別れ、忘れ物のないようすべての持ち物をもって降車します。

2) 横浜開港と文明開化——神奈川県立歴史博物館

- ① 昭和42年神奈川県歴史と文化総合博物館として開館、平成7年に歴史博物館としてリニューアルオープンした。編成は
 テーマ1＝古代。さがみの古代に生きた人々
 テーマ2＝中世。都市鎌倉の中世人
 テーマ3＝近世。中世の街道と庶民文化
 テーマ4＝近代。横浜開港と近代化
 テーマ5＝現代。現代の神奈川と伝統文化 からなる。
- ② 地元ボランティアにより2階の「横浜開港と近代化」を案内していただく。ペリー来航によって世界に開かれた開港場・横浜のジオラマ、文明開化、近代産業の発達などが紹介される。
- ③ ほかは自由見学。中世ゾーンでは房総里見氏や小弓公方との歴史ロマンを秘めた国宝、鎌倉円覚寺舍利殿などが見逃せない。
- ④ 建物の大部分は国の重要文化財指定の旧横浜正金銀行本店、廊下を迂回して正面玄関へ。



県立歴史博物館



正金銀行右写真↑



3) あたかも鳥かごのごとし——旧横浜正金銀行本店

- ①明治13年、日本の貿易振興と正貨（金銀、金貨、銀貨）収集を目的に大隈重信らが創設、その後松方正義により外国貿易金融専門銀行として確立された。戦後GHQにより解体縮小され東京銀行となった。
- ②旧正金銀行本店ビル＝国の重要文化財・史蹟指定。日本を代表する近代建築。明治37年赤レンガ倉庫を担当した明治建築界の巨匠・妻木頼黄が設計、グリーン色のドームがめだつネオ・バロック様式。
- ③建物の象徴でもあったドームは関東大震災で焼失したが昭和42年に復元され県立歴史博物館が開館された。
- ④旧銀行正面から見上げる
外壁に神奈川産安山岩を使用したれんが造り、地上2階地下1階
ドイツ・ルネッサンス（ネオ・バロック）様式
コリント式重厚な石造彫刻の柱頭飾りのある大オーダー
変形八角形、緑の巨大ドーム。横浜3塔別格（復元のため）エースのドーム

4) 「文明開化」を伝える——開港場の正面通り馬車道

- ①居留地関内と関外を結ぶメイン道路、前方500mに関門の吉田橋がある。
外国人はこの道を馬車に乗って往来した。日本人には珍しく「異人馬車」とよんだことから「馬車道」と呼ばれるようになった。
- ②馬車道には文明開化を伝える「近代街路樹の碑」「アイスクリーム発祥の碑」「日本最初のガスタ（復元）」、旧川崎銀行横浜支店、旧藤銀行横浜支店、旧三菱銀行横浜支店、馬車道大津ビルなどの歴史的建造物がある。

5) 昭和はじめの歴史的建造物博覧会——本町通り

- ①旧安田銀行横浜支店（旧富士銀行横浜支店＝東京芸術大学大学院）
*昭和4年建造、鉄筋コンクリート造り2階建て、石壁仕上げ
*大オーダーのドリス式円柱。2階は半円窓、細部意匠も精巧
南半分は昭和29年の同じスタイルでの増築
*内部はギャラリーをめぐらせ大円柱で支えられた吹き抜け空間を持つなどクラシックな意匠をとどめるが立ち入らない
- ②旧横浜銀行集会所（旧米軍将校クラブ＝横浜銀行協会）
*昭和11年建造、鉄筋コンクリート造り地上4階、地下1階、外壁擬石仕上げ
*ほぼ正方形のフランス風。派手さはないが石材をふんだんに使って力強い
3階まで太い角型柱。柱礎はなく柱上にテラコッタの飾り。車寄せはコロニアル風柱



← 肉内の
土留橋

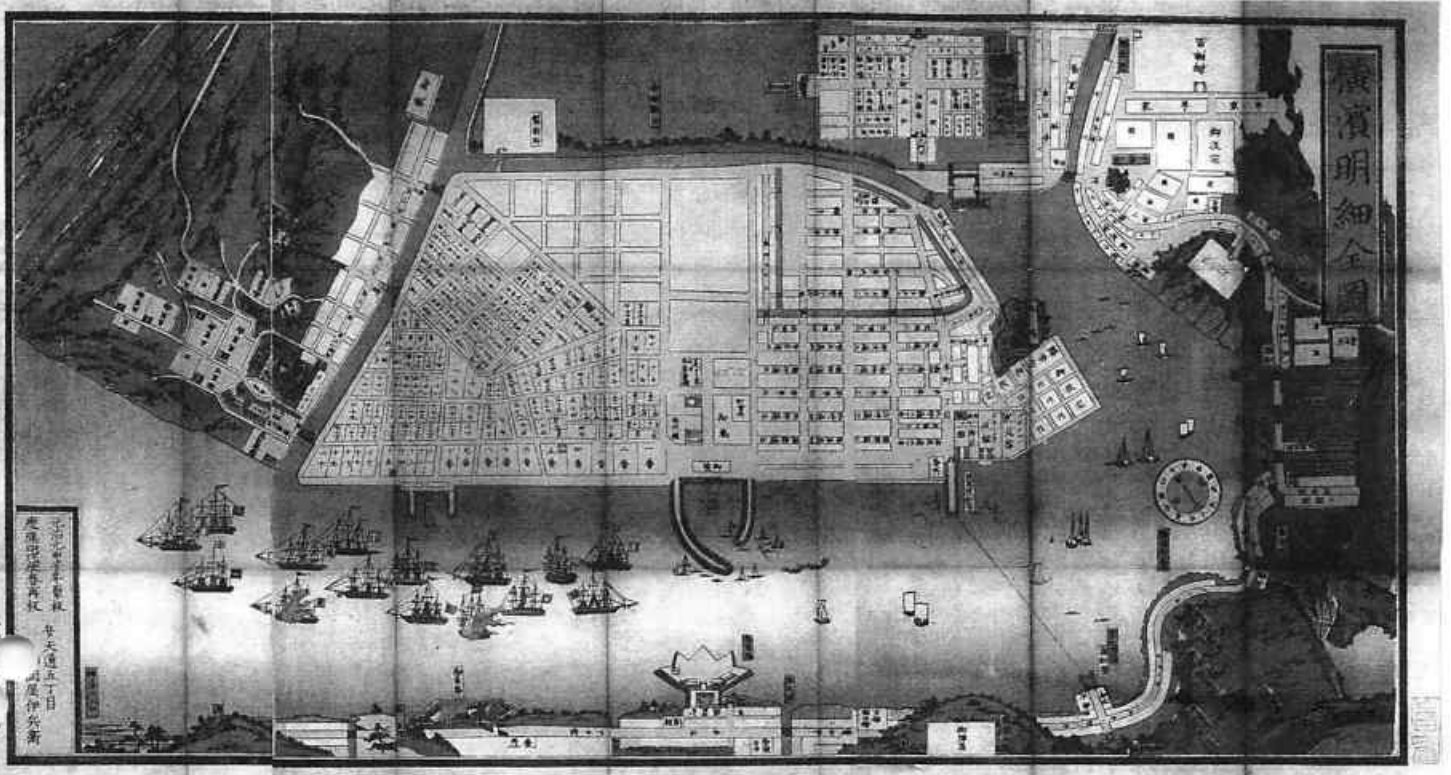


旧安田銀行

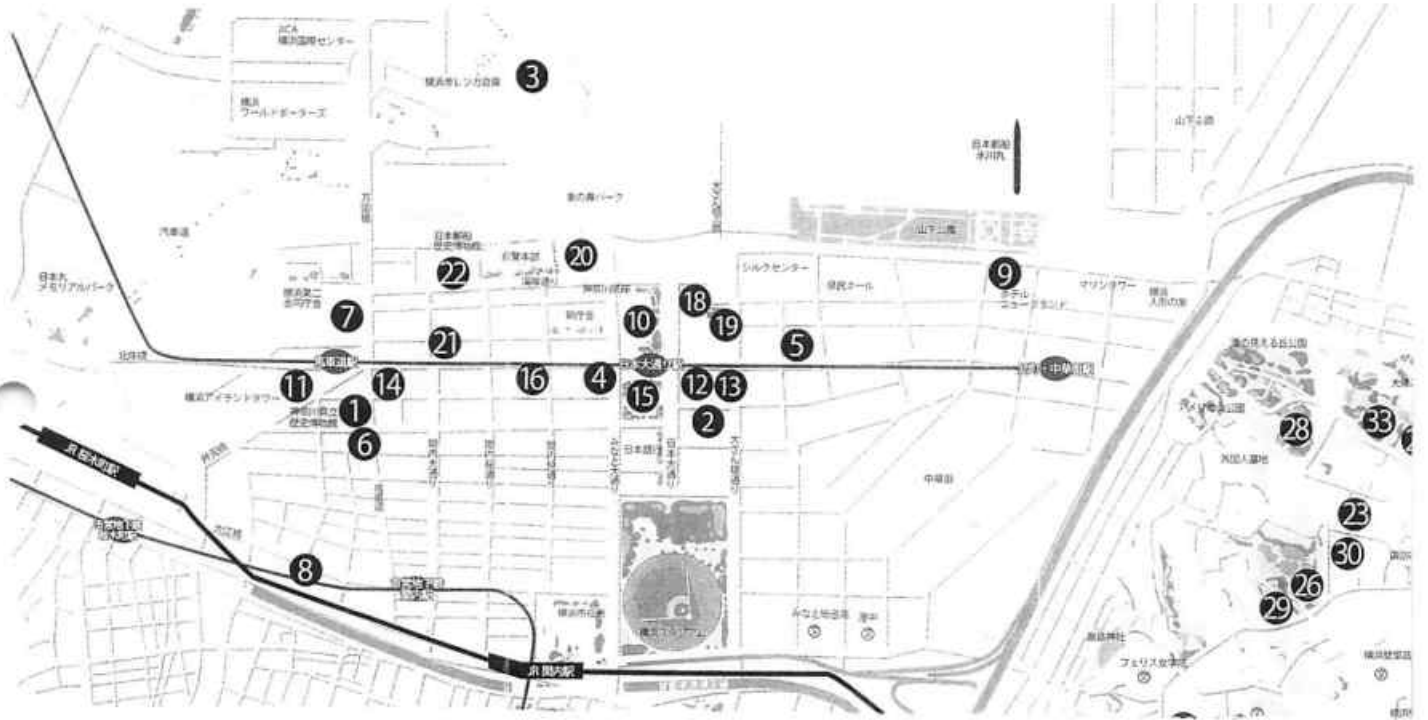


初代 杖渡駅

横浜港にぎわい



元治元年、横浜明細全圖



14. 旧安田銀行横浜支店
(旧富士銀行横浜支店、
東京藝術大学大学院)



21. 旧横浜銀行集会所
(横浜銀行協会)



16. 旧三井銀行横浜支店
(三井住友銀行横浜支店)



4. 旧開港記念横浜会館
(横浜市開港記念会館)

横浜中区の近代建築マニア

*初代は明治27年建築、れんが造り、以降変遷をへて4代め

③旧三井銀行横浜支店（三井住友銀行）

*昭和6年建造。鉄筋コンクリート2階建て、外観石壁造り

*6本のイオニア式オーダーが重厚な印象

*戦前派銀行店舗だが現在も現役使用されている

④このほか周辺に旧第一銀行横浜支店（ヨコハマ創造都市センター）、旧生糸検査所（市第2庁舎）、横浜郵船ビル（郵船歴史博物館）、旧三井物産横浜支店（物産横浜ビル）、旧横浜商工奨励館（横浜情報文化センター）、旧横浜市外電話局（横浜都市発展記念館）など多数の歴史的建造物が現存している。町全体が近代建築、歴史的建造物の博物館でもある。ご興味の方にはぜひ再応してください。

6)「横浜3塔」ジャックの塔を見上げる——旧横浜開港記念館

①旧開港記念横浜会館（横浜市開港記念館）＝ジャックのドーム

横浜開港50周年記念会館として大正6年竣工開館、関東大震災で大半を倒壊した。昭和2年震災復旧工事、平成元年開港130年を記念してドーム屋根や尖塔が復元され、国の重要文化財に指定された。

②れんが造り一部鉄筋コンクリート、地上2階、塔屋5階、地下1階立て。現在は内部工事のため閉館中。

③町会所跡＝明治7年日本の貿易商たちが共同で事務所や集会所として建立、明治39年火災焼失、原三溪が中心となって開港記念館を作った。時計塔は町会所にもあった

7)「横浜3塔」のキング——神奈川県庁と運上所跡

①神奈川県本庁舎＝昭和3年竣工。鉄筋コンクリート5階、地下1階、塔屋9階建て。

装飾は当時世界的に流行したアール・デコ様式を色濃く受けている。

*外壁は表面に溝を刻んだスクラッチタイルとテラコッタや石材による幾何学模様の装飾

*史蹟看板＝神奈川県庁本庁舎

外観の全体構成はクラシックではあるが細部は幾何学的な独自の意匠が用いられ、後の帝冠様式の先駆けでもある。スクラッチタイル貼りの外壁と中央の高塔が特徴的で、その塔は「キング」の愛称で親しまれている

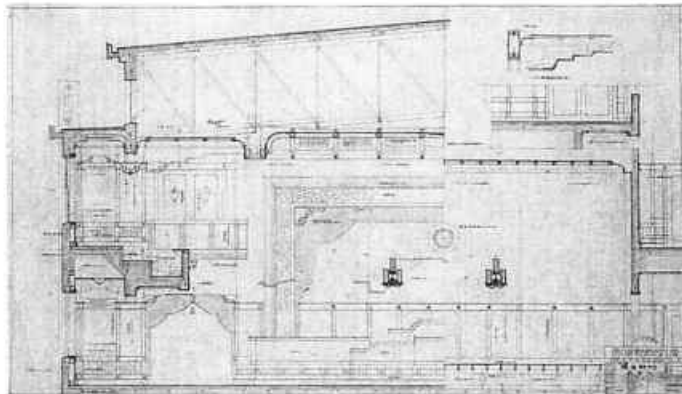
②塔屋は四角で上にピラミット状の屋根が載る。高さ49m、てっぺんに九輪状の飾り。

③神奈川運上所跡

安政6年横浜開港にともない神奈川運上所が設けられた。現在神奈川県庁敷地内。現在の税関業務や外交業務など 神奈川奉行所でもっとも重要な仕事を受け持った。



ジャック塔



← クイーンズ塔



神奈川県庁

8) ペリーが上陸した開港広場で昼食——持参のお弁当を楽しむ

- ①集合時間厳守 時 分 (現地で徹底)
悪天候の場合、行程一部を変更、昼食場所を後出大榎橋国際乗客ターミナルとします
- ②日米和親条約締結の碑

9) 「日米和親条約締結の地」と英国領事館跡——横浜開港資料館

- ①日米和親条約締結の地=中庭のタブノキはペリーが日米和親条約締結のため横浜に上陸したときの絵画にも描かれている。関東大震災による被災後3度も芽吹き、同じ場所で横浜開港以来の歴史を今に伝えている。
- ②英国領事館跡
旧館は昭和6年建造の元英国領事館の建屋。同館の記念ホールはその待合室だった。
*説明看板=旧英国総領事館
英国工務省の設計で昭和6年に建てられました。鉄筋コンクリート造3階建て一分地階付き銅板葺き屋根を持つ邸館風建築で古典主義建築の秀作です。(以下省略)
- ③横浜開港資料館=昭和56年、江戸時代から明治、大正期の国内外の歴史資料を集め、公開普及を目的として日米和親条約が締結された由緒ある地に建てられた開港資料館。
- ④館内は自由見学
常設展の見どころ=当時を物語る大地球儀、黒船模型、ペリー遠征航路図、開化期の古地図や錦絵などが興味をひく。特別展は「横浜の関東大震災」を開催している。



←英国領事館 ↑ 開港資料館



← 昼食の
開港広場の
タブノキ

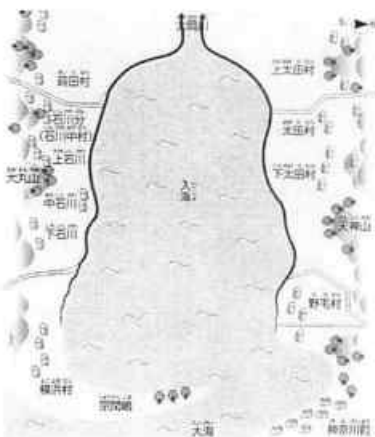


→ 現在
タブノキ



ペリーの上陸

ペリー



横浜古図
吉田新田
埋立2ヶ所
9巻9



10) 「象の鼻」と「クイーン」の塔」「横浜れんが街」を遠望——横浜はとば跡

- ①開港時の横浜はとばと中央荷揚げ場跡。「象の鼻」で暴風雨をさける港を作った。
- ②鉄軌道と転車台＝港の荷役のための鉄軌道。再開発工事で発見され、ガラス床の下に保存展示されている。
- *説明看板＝横浜税関遺構 鉄軌道と転車台 (図面、写真付き)
 明治33年に発行された「横浜税関一覽」の付図には横浜税関の上屋や倉庫の背後に縦横に走る鉄軌道やその交差部に設置された転車台が描かれています。(中略) これらの鉄軌道や転車台はおおむね明治20年代に後半に整備されました。明治40年代の写真には鉄棧橋方面に向かって敷かれた鉄軌道、転車台、鉄軌道の上を走る台車状の車両が写っています。
- ③横浜3塔、クイーン」のドーム＝横浜税関、横浜れんが倉庫を遠望

11) 横浜港をみながら大棧橋めぐす

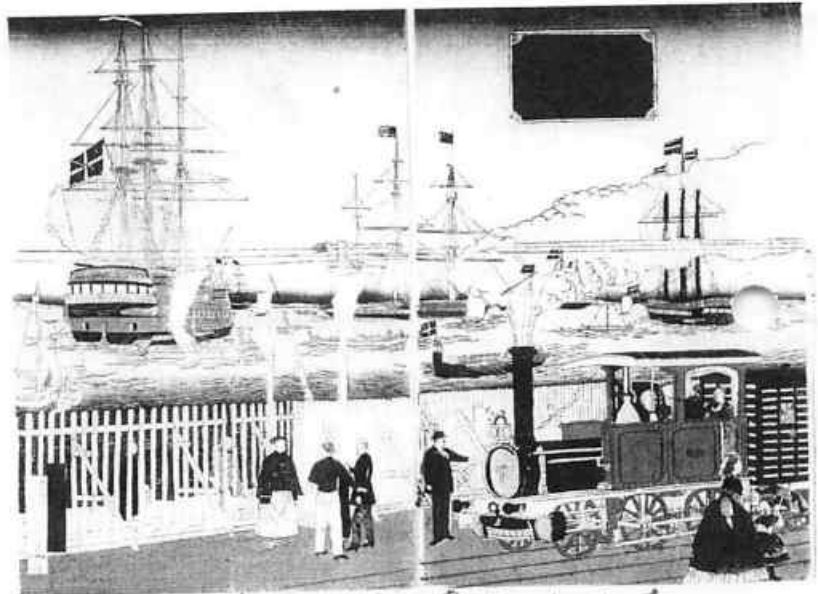
- ①大棧橋とらせん杭＝大棧橋には棧橋を支えるため多くのらせん杭が埋め込まれた。
- *説明看板＝さん橋支えた螺旋杭、明治27年～平成7年
 螺旋杭は棧橋を支えるために下端に螺旋状の円盤がついたくいでありその形状を利用し人力で海底にねじ込まれたものです
- ②水上バス大棧橋乗船場
- ③山下公園と氷川丸遠望

12) 豪華客船と横浜港——大棧橋埠頭と国際客船ターミナル

- ①潮風に吹かれながらターミナル屋上から開放感たっぷりの景観を楽しむ。
 内外から豪華客船や大型貨物船が出入りする。
 - ②時間厳守、国際ターミナルからバス乗車、一路辰巳公民館めぐす。
 きょうのバス研修お楽しみいただけただでしょうか。次回またお会いしましょう。
- 以上



大棧橋はとば



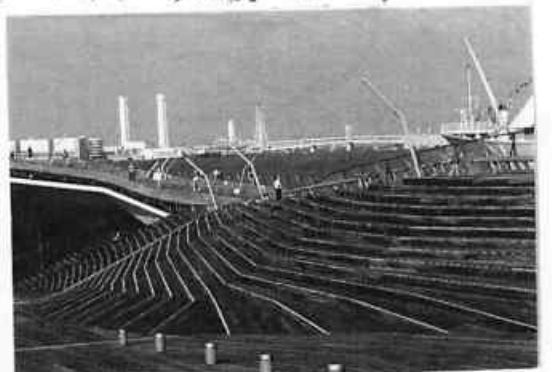
横浜伊とばと蒸気機関車



氷川丸



豪華客船も出入す



大棧橋

短歌 俳句

旅にうたう

正岡子規の房総の旅、

房総にゆかりのある文人の

詩歌と足跡を学ぶ

講師

宮本敬一 氏

日時

1 月 2 7 日 (日)

2 月 2 4 日 (日)

9 : 3 0 ~ 1 1 : 3 0

場所

八幡公民館 視聴覚室

募集人数

4 0 名

費用

無料

* 欠席される場合は、八幡公民館までご連絡を
 お願いします。

4 1 - 1 9 8 4

担当 清水・徳政



平成25年1月27日(日)
八幡公民館文学講座

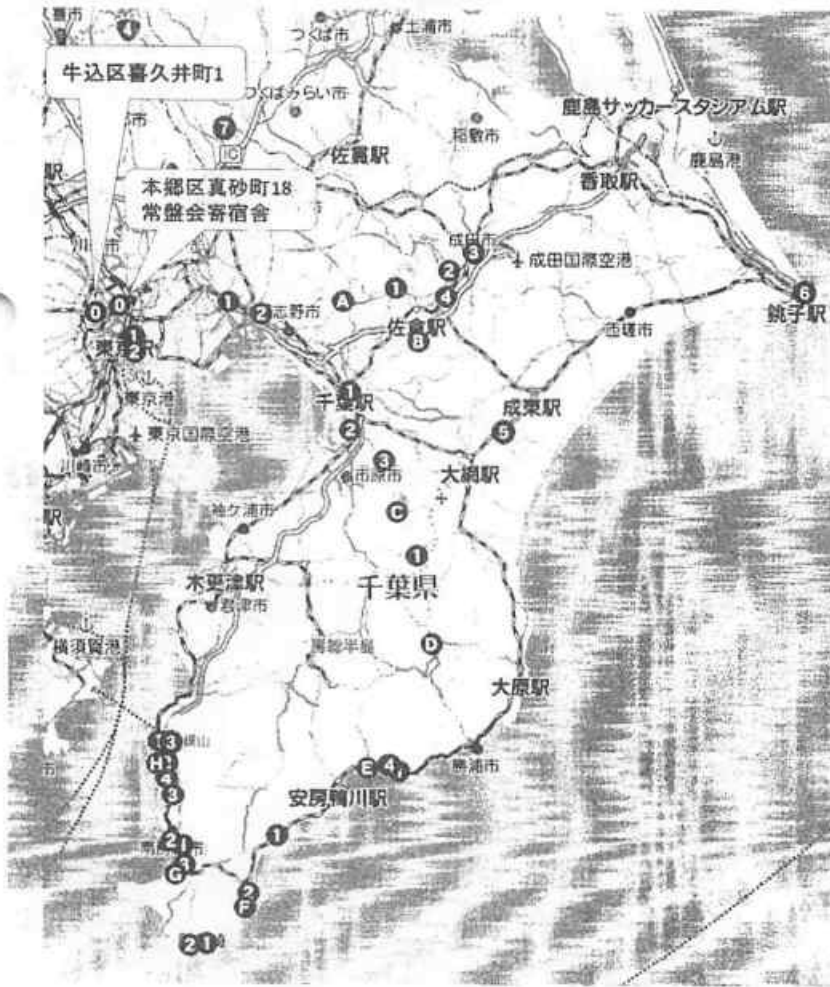
“旅にうたう”

子規と漱石の 房総旅行

(1) 明治の青春 (その出会いまで)

宮本 敬一

明治22年3月27日千葉町豊田写真館にて



- 夏目漱石 (同行五人)
 明治22年8月7日~30日
 0 牛込区喜久井町1番地
 ① (霊岸島)
 ② 保田
 ③ 鋸山
 ④ 小湊
 ⑤ 東金
 ⑥ 銚子
 ⑦ 三ツ堀 (野田)

- 正岡子規 (一人旅)
 明治24年3月25日~4月2日
 0 本郷区真砂町18番地
 常盤会寄宿舍
 A 3.25 大和田「榎屋」
 B 3.26 馬の渡「上総屋」
 C 3.27 長柄山「大黒屋」
 D 3.28 大多喜「酒井屋」
 E 3.29 天津「野村」
 F 3.30 平磯「山口屋」
 G 3.31 館山
 H 4.1 保田

正岡子規と夏目漱石の対照年譜

和暦	西暦	歳	月	日	正岡子規	月	日	夏目漱石
慶応3	1867	0	9	17	午前9時頃伊予国温泉郡藤原新町に生れる。父は松山藩御馬廻加番(御馬廻格番頭支配)本太常尚36歳。母は藩側大原親山長女八重23歳。処之助常規、のち昇と改名	7	5	江戸半込馬場下横町(現新宿区喜久井町1)に生まれる。父は町方名主小兵衛51歳、母千枝42歳。上に5男3女の末子。金之助と命名される。生後間もなく息子に出される。四谷の名主塩原昌之助・やす夫婦の養子となる
明治元	1868	1				11		
明治5	1872	5	3	7	父常尚逝去(40歳)。子規は前年に家督相続し、家長となる			
			8	3	法順寺内の小学校(第三校)に通う			
明治6	1873	6	この年		祖父親山に墓誌を習う。末広学校に入学か			
明治7	1874	7	8	6	智理学校(末広学校改名)に通う	12		浅草戸田小学校入学。10年市ヶ谷小学校に転校
明治8	1875	8	1	6	勝山学校に通う。初めて留を切る			
			4	11	親山没し、土屋久明に漢学を学ぶ			
明治10	1877	10			三並良と景浦政儀の夜学に通う			市ヶ谷小学校卒業
明治11	1878	11	7		初めての漢詩を作る(「関子規」)	2		「正成館」を友人との回覧雑誌に掲載
						10	24	鶴華学校小学尋常科二級後期卒業
明治12	1879	12			回覧雑誌「桜亭雑誌」等を作る	3		東京府立第一中学校正副科乙に入学
			12	27	勝山学校を卒業する			
明治13	1880	13	3	1	松山中学校入学。五友と同級会を興し、漢詩を作る			
明治14	1881	14				春		中学校を中退。二松学舎に転校して漢学を学ぶ
明治15	1882	15				春		二松学舎を中退
			8		政談演説に興味をもち、政治家を志す			
			8	9	上京と決し、松山中学校退学。9日に講堂で留別演説			
			10		三津浜を出航、11日に多度津を経て神戸着			
			12		神戸出航、13日深夜または14日未明に横浜港着			
			14		朝、汽車で新橋駅着			
明治16	1883	16	7	下旬	藤野吉白の監督役として須田学舎に寄宿			
			10		東京大学予備門を自さし共立学校へ入学。高橋是清に英語を習う(パーレー万国史)	秋頃		予備門受験のため、英学塾成立学舎に入学。好きな漢籍も売り払い英語の勉強に専念
明治17	1884	17	3		田浦主久松家の常盤会給費生となる			
			8		本郷の道文学会で坪内逍遙に英語を習う			
			9	11	東京大学予備門入学(予科・英語課第四級一組)	9	11	東京大学予備門入学
明治18	1885	18	6		哲学志望。学年試験に落第			
明治19	1886	19	4	29	第一高等中学校予科に編入	4	29	第一高等中学校予科に編入
			9	11	第一高等中学校予科第二級に進級	7		腹膜炎のために学年末試験を放棄、落第
明治20	1887	20			前年頃からベースボールに熱中する	3		長兄死去。6月に次兄も死去。共に肺病。後に三兄も咯血
			4	下旬	一ツ橋の第一高等中学校寄宿舎に入る	9		第一高等中学校予科第一級に進級
			7		向島長命寺の桜餅屋に仮寓して「七草集」を執筆	1		塩原姓より夏目姓へ復籍する
明治21	1888	21	9	1	第一高等中学校本科一部(文科)に進学	9		第一高等中学校本科一部(文科)に進学
			24		本郷真砂町18常盤会寄宿舎に入る			
			7		漱石との交友が始まる(21歳4ヶ月)	1		(子規との交友が始まる(22歳))
			4	3	寄宿舎の友人皆田匡と水戸旅行(〜7日「水戸紀行」)			
明治22	1889	22	5	1	「七草集」を脱稿、漱石等に回覧批評を乞う	5	13	子規の病床を見舞い、掃宅後子規宛の最初の手紙を書き、俳句を2句感える
			9		夜、寄宿舎の自室で突然咯血。翌日結核と診断される			
			10		再び咯血、夜半「詩鳥」の題で、60句を作り「子規」と号す	7	23	兄と青岡屋興津に遊ぶ(〜8月2日)
			7	3	勝田主計に付き添われて帰省、静養	8		「房総旅行」(〜30日)。帰京後「木蘭鏡」を脱稿(〜9月9日)
			9	11	第一高等中学校本科一部(文科)2年3組に進級	9	11	第一高等中学校本科一部(文科)2年3組に進級
			10	13	漱石の「木蘭鏡」の巻末に評を記す。			末「木蘭鏡」を子規に示して評を乞う
明治23	1890	23	7		第一高等中学校卒業	7	8	第一高等中学校卒業式、子規の証書を預る
			9	11	帝国大学文科大学哲学科入学	9	11	帝国大学文科大学英文学科入学。文部省貸費生となる
			2	7	哲学科から国文科へ転科			
明治24	1891	24	3	25	房総旅行。4月2日帰京後「かくれみの」を草し、漱石に示す	4	18	子規の「かくれみの」に短評を書きこむ
			6	25	帰省途中に木曾旅行(〜7月4日「かけはしの記」)	8		中村是公・小川悟次郎らと富士登山
			10		進級試験を断念	9		帝国大学文科大学英文学科2学年に進級
明治25	1892	25	2	29	下谷区上根岸町88番地に転居	5		東京専門学校講師に就任
			7		学年末試験に落第、退学を決意	7		子規と京都へ
			12		日本新聞社入社、月給15円	8		松山で子規と再会して共に帰京
			2	3	「日本」文苑欄に俳句欄を設ける			
明治26	1893	26	3	末	帝国大学文科大学を中退			
			5	21	「癡癡書屋俳諧」刊行	7	10	帝国大学文科大学英文学科卒業。大学院へ
			7	19	奥羽旅行(〜8月20日「はて知らずの記」)	10	19	東京高等師範学校英語講師になる。年俸450円
明治27	1894	27	2	1	上根岸町81番地に転居(子規屋・陸奥南宅の東隣)	12	23	鎌倉円覚寺に参禅、越年
明治28	1895	28	4	10	従軍記者として遼東半島へ渡る(〜5月22日)	4	7	松山中学校英語教師赴任するため東京を発つ
明治29	1896	29	3	27	カリエスの手術を受ける	4	8	松山中学校を辞し、第五高等学校講師に転ずる
						6	9	貴族院書記官長中根重一長女鏡子と結婚
明治31	1898	31	2	12	「歌よみに与ふる書」を「日本」に連載(10回)	11		五高生の俳句結社紫雲吟社を指導
明治32	1899	32	1	20	「俳句大鑑」を刊行する	8	21	五高大学予科英語科主任となる
明治33	1900	33	1	29	「叙事文」を「日本」に連載、写生文を提唱	8	26	寺田貞彦と根岸庵を訪ねる。最後の会見となる
			11		子規庵での俳句和歌の例金を中止する	9	8	イギリス留学のため横浜港より出航する
明治34	1901	34	1	16	「墨汁一盞」を「日本」連載(〜7月2日)	4	9	「倫敦消息」が「ホトギス」に載る
			9	8	「仰臥遺稿」を書き始める。病勢進む	11		漱石の下宿で句会「本良坊運座」開催
			11	6	漱石に宛てた最後の手紙を書く	12	18	子規に宛てた最後の手紙を書く
明治35	1902	35	5	5	「病床六尺」を「日本」連載(〜9月17日)	11	下旬	高浜虚土の手紙で子規の死を知る
			9	19	午後1時永眠(35歳)	12	5	倫敦を発ち、帰国の途へ(1月22日神戸港着)
明治36	1903	36				4		第一高等学校・東京帝国大学文科大学講師となる

明治22 奇跡の一年

木屑録

夏目漱石

1 『木屑録』序原文

余儿时誦唐宋数言喜作爲文章或極意彫琢經旬而始成或叫嗟衝口而発自覺澹然有模氣窃謂古作者豈難臻哉遂有意于以文立身自是遊覽登臨必有記焉其後二三年開鑿出所作文若干篇統之先以爲極意彫琢者則類鑿鑿先以爲澹然有模氣者則類傲瀟瀟之人一如妓女奄奄無氣力一如頑兒倖倖傲凌長者皆不堪親焚稿址紙面発亦自失者久之窃自嘆曰古人謔方卷書又爲万里遊故其文雄健博大卓然有奇氣今余遠更越超徒守父母之鄉足不出都門而求其文之臻古人之域豈不大過哉因慨然欲曳屣遠遊未能果志而時勢一變余挾蟹行書上于鄉校校課役不復暇講鳥迹之文詞賦簡牘之類空束之高閣先之所謂纖飢飢者亦將不得爲又安望古作家哉明治丁亥遂担笈登富岳越函嶺行白雲蓬勃之間脚底積雪數尺臆凍指靴通蹶八洲之山如培塿豪氣稜稜欲凌雲然不能一篇以叙壯遊今茲七月又与季兄遊于興津地爲東海名区滯留十余日蕭散無聊而遂不得一詩文嗟乎余先者有意於爲文章而無名山大川播瀉其氣者今則覽名山大川焉而無一字報風光豈非天哉八月復航海遊於房洲登錫山經二總瀨刀川而滯經日三十日行程九十余里既歸會秋兩運日閑居一室懷旅中快樂辛酸之事有不堪其情者乃執筆書之積至數葉窃謂先之有記而無遊者与有遊而無記者庶幾于相償焉然余既絕意於文章矣且此篇成于閑適之余則其纖飢飢勿論耳命木屑云者特示其塵陋也

2 『木屑録』序読み下し文

余、児たりし時、唐宋の數千言を誦し、文章をつくるを喜ぶ。あるいは意を極めて彫琢し、句を繕て始めて成り、あるいは叫嗟に口を衝いて発し、みずから澹然として模氣あるを覺ゆ。ひそかに謂らく、古の作者も、あに矜り難からんや、と。ついに文をもつて身を立つるに意あり。これより遊覽登臨すれば、かならず記あり。その後二、三年にして、鑿を聞き、作るところの文若干篇を出だしてこれを讀めば、先にもつて意を極めて彫琢すとなすものは、すなわち鑿鑿然たり、先にもつて澹然として模氣ありとなすものは、すなわち飢飢然たり。これを人に對うれば、一は妓女の奄奄として氣力なきごとく、一は頑兒の倖倖にして長者を凌ぐがごとく、みな觀るに堪えず。稿を焚き、紙を扯き、面は赤を発して、自失すること、これを久しゅうす。

ひそかにみずから嘆じて曰く、「古人は万巻の書を読み、また万里の遊をなす。故にその文は雄峻博大にして、卓然として奇氣あり。今、余、遠更して越超し、いたすらに父母の郷を守りて、足は都門を出でず。しこうしてその文の古人の域に臻らんことを求むるは、あに大いなる過ちならずや」と。よつて慨然として屣を曳きて遠遊せんとするも、いまだ志を果たすあたわず。しこうして時勢一變し、余は蟹行の書を挾んで郷校に上る。校課役として、また鳥迹の文を讀するに暇あらず。詞賦簡牘の類は、むなしくこれを高閣に束ね、先のいわゆる纖飢飢たるものも、またまきにつくるを得ざらんとす。またいづくんぞ古の作家を望まんや。

大岡信編『子規と漱石』(子規選集9・二〇〇二)より

3 『木屑録』序訳文

我輩ガキの時分より、唐宋二朝の傑作名篇、よみならつたる数千言、文章つくるをもつともこのんだ。精魂かたむけねりにねり、十日もかけたる苦心の作あり。時にまた、心にうかびし名文句、そのままほれば瀟瀟のきばえ。むかしの大家もおそるるにたらんや、お茶の子さいさいあさめしまへ、これはいつちよう文章で、身を立てるべしと心にきめた。

さあそれからは、どこかに行つてもものぼつても、かならず文章つくつたものさ。ところがだ、數年たつて箱からとり出し、讀んでみましてあきれました。心かたむけねりにねり、と思つたやつは、ガラダラ腰抜け淺薄の愚作。あつさりとして素朴のあぢはひ、と思つたやつは、ぐぐぐゴチャゴチャさつぱりわからん。これたとふれば一方は、寝起き女郎の息もたえだえ、あとなる一方は、親や教師につつばる悪ガキ、どつちも見られたものぢやない。これはと焼き捨て破り捨て、はづかしや顔はまつつか、なまけなきに茫然自失。

これはいつたいたうしたことか。古人は万巻の書をよみ万里に旅した。ゆゑにその文たるや高く大きく、スツクと立つて凡俗を見おろす。しかるに我輩はだ、せまいところでもゾゾと、うまれた土地にしがみついて、都のそとへ出たこともない。しかるをひとり文章のみ、古人の域にせまりたいとは、こりやとんでもない大まぢがひであつたわい。ここはひとつ奮起一番、どこか遠くへ旅に出るべしと、思つたは思つたがまだ出かけぬうち、突如世のなかガラリと一變、我輩横文字の本たづまへて、近所の学校へかよふこととはあひなつた。授業こなすに精いつばい、漢字漢文どころぢやない。胸臆簡牘のあれこれは、ヒモでくくつてホコリをかぶり、ガラダラゴチャゴチャの文さへつくるによしなし。ましてやいはんやいにしへの、作家どころのさわぎぢやない。

高島俊男『漱石の夏やすみ』(ちくま文庫・二〇〇七)より

かくれみの

子規

1 『かくれ葦』(和文)

かくれ葦

葦の落ちた天人殿の墮落か人を救うた畜生奴の生れ変わりか、とにかく、天人と畜生の相の子に浮世女之助といういたずらものありけり。浮世はもとより地獄の旅、心やすきは東京もたびなり。旅よりたびとさまよき姿は道心の邪魔ぞかし、せめてもの女難だけはのがれんと菅笠胸半に身をやつの時計とともに并州を領になして天下りぬ。氣のはらぬひとり旅は、三界に家なしとの笠印に行きつく処を草枕と定め佐保姫をそそのかしての道行、羨む人もなければ胡蝶の追手も恐ろしからず。車と女は大禁物との誓文たて、から尻馬にむかしの日本堤おかしく、茶屋の婆様に国はおかツべいと問わる。宿をこいては心とむるなど追い出されたが何の果報か、この月をながめずには寝るたわけもあるよと独り言、影法師にきかせ、まさか間違つたら野をなつかしき一夜ねんと覚悟やさし。行く手定めぬ旅は足にまかせて六道の辻に地蔵とちかづきになり、時計なき中食は腹加減をあてにして残んの菓子に餓鬼道の乞食をすくう。雨には蓑をきて画の中をあるき、日和には笠を枕にして並に腰をやすむ。長閑なたびに若返りて宿帳には生年十九、どこへいっても色男の心苦しきよ。数日の難行に姿やつれてか、道行く人に尋ねらるる面売。これも英雄殿のなれのはてかな。不動の利剣を渉り鎧山の齒をつたいて病身の危きことを知らず。菜畑の香に蓑をたれ、七浦の波に手を洗うて独り風雅の骨髄と誇る。ああ風雅か風雅か。顔は真黒と知らぬが仏の有がたきよ。さても風雅は黒いものなり。都に帰ればどなたさまぞという。これはお見それ申した、女之助様のお帰りか、しかも前向きかうしろむきかと問うももつとも。まずたびずきのたれかれ集つて「房総には何事かござる」「山はいがいが海はどんどん。菜の花は黄に、麦青し。すみれ、たんぼぼ、つくづくし。

2 『隠蓑日記』読み下し文(原漢文)

日若我が病勢を極うるに、頭痛悶悶と曰う。文思安からず、魂は四表に馳せて、房総に惰る。明治二十四年卯春、王の三月二十五日、舎を出づ。市川にて笠笠を獲。天子に告げて、郊に迎う。袂、櫻等たり。船橋神社に詣る。潮、華表を浸す。渡馬に騎る。山茶、紅桃、しばしば顔を犯す。伝舎に就く。拒みて納れず。櫛屋に投ず。この日、始めて菜公、麦伯を見る。

二十六日、婢子、夢を驚かす。金衣公子来り候う。佐倉に至る。人あり、我を見て曰く、「西郷隊

盛にあらざるか」と。宗哲社に獲す。けだし西人の白濁に廟食すること、まれに獲るところなり。浪士三百、まさに愧死せんとす。歌いて曰く、

笠や葦や

我 古人を思うに

実に我が心を獲たり

成田に往く。山腹の峽に在り。堂塔、輝煌して、利剣、天を突く。爺公婆子、来り其福を備む。錢の隅つること雨のごとし。蓑、釋に入ら。途に一商を見る。これを以て我を相しむ。商曰く「工にあらず、商にあらず、まさに農家の子弟なるべし」と。我爾う、小庵とならん、と。可かずして、曰く、「よろしく去りて吏となるべし。しからずんばすなわち郷に帰れ」と。日は酒糟井の野に没す。路は山林に入る。天狗、来り襲う。婦人、これを救う。馬道に宿す。鹿に以多し。

二十七日

馬渡駅を發す。笠に入る。竹を伐ちて杖となすは、礼にあらざるなり。千葉街に宿す。影を枯桐の匣中に納む。鶴子を殺し、鰻公を炙る。病すなわち瘵ゆ。團扇を拾う。潮井戸を過ぐ。路は岡の上には在り。海の水は糸のごとし。木枕、頭を撃つ。華背に如くを果さず。

二十八日

吳柄山を發す。菜畑の阿に屎す。冷露、尻を浸す。女子、薪を負う。洞穴に憩う。嵐の制やや異なり。仏舎と似たり。梁榿の端は背粉を塗る。雨師、来り投ず。蓑子、これを防ぐ。歌い

緑や葦や

緑葦 黄笠

心の楽しむ

大多喜に宿す。雨軍、狙撃す。風伯、大いにこれを撥く。鮮胎一孟、濁膠一盞もて待つ。睡魔ついに到らず。詩を賦して曰く、

耿耿として寐ねられず

我に酒 無くんば微す

憂心悄悄として

閑に綴ること既に多く

静かに言に之を思ひ

雨師、豊隆なりを以て退く。半夜、月子、天頂に陣す。

二十九月

大悟、徹底す。下臂、腫脹す。前日、笠の紐、口に穿る。故にしかり。崖、筆頭、龍公英郊に会す。菜公、麦伯、来り盟を締む。山茶、火を燗籠に放つ。これを伐つ。首級を獲ること算なし。婦あり、その子を問う。謂う、まさに京より至らんとす、と。すなわち詩を作りて曰く、

我が子に帰る

遠く南に返る

願望すれども及ばず 突に我が心を勞す 房洲に入る。海、脚底に開く。小湊に出づ。封嶺と海若と、岩上に戦う。また菜公、麦伯の押るべ

「かぐとくにあらず。心、やや燃る。誕生は險山を負い大海に臨む。天の英雄を生ずる、あに偶然ならんや。天津にて客命を問う。少女あり。我に教うるに安泊なるをもちてす。ふたたびこれを老妾に問う。答うるところ、合符す。すなわち嘆じて曰く、「ああ、安泊なるかな、安泊なるかな」と。まさに門に入らんとす。一婦、我を要めて曰く、「君は何処の人ぞ」と。曰く、「下總なり」と。曰く、「下總の何方に在るかを知らず、しかれどもまた可なり。妾に女あり。年南、十三なり。請う、君がために傳傳となさんと」と。曰く、「我、いまだ子あらず」と。すてに安泊に入る。敬待すること、はなはだ厚し。ひそかに笑つて曰く、「我もまた安泊國神の王なるかな」と。食つて湯堂に如く。湯はわずかに一槽。男女相混す。肩摩り腰触る。詩に曰く、

緑髪 依依たり

彼の湯奥を隠れば

肥えたる娘子有り

切すが如く礎するが如く

婿たり婿たり

肥えたる娘子有り

彼の湯奥を隠れば

痴れたる娘子有り

銅の如く鉄の如く

暗たり暗たり

善く戯謔すれども

湯堂より帰る。我中に在り。笛声、静夜を破る。すなわち按摩師を聘す。我、人をして氣を行らしむるは、これより始まる。

三十日。肯帝、人を避く。ついに路岐に迷う。葉畦にて矢す。行程八里。右は蕪菜、左は白浪。路に老賈に遇う。婆子、魚酢を傳む。平磯の山口屋に投ず。よく三銭を出だして、もつて湯堂に行か

しむ。沐浴、すでに了る。朝か野味を説く。百姓昭明にして、濁客を優待す。黎民、於に安り時雍

々。

三十一日。七浦を過ぎて、野嶋崎に馳う。一望、漣なし。いわゆる太平洋なり。「八大伝」に云う、「里見義実、航してここに到る」と。義経記に云う、「源頼朝、石橋山に戦う。軍敗れて安房の洲崎に航す」と。洲崎、野嶋崎と相對し、香風の間に模糊たり。ああ、古より英雄骨に災禍に遇う。しかも塚敷ついに煙霧雨笠の味を知らざるなり。「易」に曰く、「群童を見るに首たることなくば、吉なり」と。治道の村家夢夢たり。午飯すべきなし。しこつして深母もまた出でず。路、内海の岸に出づ。青山白帆、真に掌上の盆山なり。外海は葦葦のごとく、内海は君子のごとし。芙蓉、雪

に入る。鏡浦、影なし。館山に宿す。

四月二日。那青の風音敷に在る。浪門、脚底に踏く。船形観音に詣る。堂を巖に依む。楹に凭りて

海を望む。川鏡やや広く。婦あり、子を負うて到り、魚を諏訪神社の楹に懸けて去る。保多に宿る。

始めて鏡を瘰うに、面、紫黒なり。古色、銅仏に近し。やや人意を強うす。昨來、英氣沮喪して、

喪家の狗のごとし。

二日。羅漢寺より鍾山に攀づ。石仏總目、あるいは群居し、あるいは孤栖す。坐に安んじて怒る者

あり、喧ちんとして笑う者あり。仙氣、人を撲つ。仏側に睡すること少時にして、山頂に上る。武

相、房殿、みな拍面の間に在り。俗座のいすくに在るかを知らず。山を伐つて石材となす。百年の

後、地岡に鍾山をからん。舟にて京に帰る。舟中、俗氣紛紛たり。ついに数日の抽遊を俗了す。古

人曰く、「克く終有ること鮮し」と。

舎に宿る。友曰く、「來れ、風、汝、笑せよ」と。予笑つて曰く、「ああ、嗚、予、なにをか言

074

075

3 『かくれみの句集』

三月二十五日

眼鏡橋にて友に別る

ふりかへる 顔もかすむや柳原

市川

落ちゆけば 隣の國や揚登雀

音笠に題す

道づれば 胡蝶たのむやひとり旅

一むねは 花にうもるや山楳

わらじの 緒結ぶや笠にとぶ胡蝶

すげ笠の 著工合わるし揚登雀

はしよつたる 纏のゆるむや春の旅

馬の背に 音笠広し揚登雀

馬の背に 手を出して見る楳

馬の背に 雀は高く表低し

陽炎や 草の中なる馬のくそ

馬ほくほく吹くともなしの春の風
菅笠の影の細きよ原三里
(一作、笠の影の細
うなりけり原三里)

二十六日

鶯や恋をひらけば竹の露
揚登雀下に葉はたけ麦鳥

宗哲のやしろにやうでて源頼とどめあえず、思えばむかしの人になつかしきよ、今
の代國士は何する者ぞ、感慨のあまりに 二首

梅散りて何をささげん神の前
我なりもむかしに似るか昔の笠
電信をはなれた道やとぶこてふ

成田不動

筆にせよ我ものみたき御つるま

あるあきうどの発句せよといひければかきで与えける

珍宝、王位はついに隠んで隠れおすときは宰相の榮、陶朱の富も何にかはせん、
笠をぬぎて賤の女に道をとうも斗米のために腰を折るにましてんや

世の人にふまれながらや花重

山路に日くれて

月寒し宿とり外す独り旅

ある人にこよいのやどりを問われて

世の中にすみかなければ天が下いつこかおのがやどりならざる

二十七日

桃さくや脚半すげ笠竹の杖
我がほに發雀落つるや草枕
ちご一人羊なぶるや桃の花
知らぬ名の草花つむや足の豆

おのが写真に題す

我影や広直流の道中西

寒川にて

遠浅や髪までつづく沙千狩

(右の句、鳥居の「天の露にちらばふ人や沙千狩」と融合す)

草刈の籠をもれけり花重

つむもをしつまぬもをしや春の草

二十八日

おさなき時の思ひいだされて

これつみて誰に送らん春の草
はれきつた空や雲雀の声背し
かげろふや南無とかいたる效の上
陽炎はなびかぬものか春の風
たんぼほや是も名のある花の内
にくらしきものの愛らし木瓜の花
恋猫の留守あづかるや桃の花
よく見ればたつた一羽の雲雀哉
佐保姫のもてなしぶりやひとり旅
我身までういたやうなる籠哉
樺太をさかひかけふの朝がすみ
春風や願礼でなく用でなく

白桃の花やこぼるる朝の露
花程の竿こぼすや重草

野翼二首

葉の花のかをりめでたき野蕨哉
葉の花の露ひいやりと尻をうつ

白き山吹の一枝をかざして

山路きて山吹白く顔黒し
ほうけたるままなりつくし露の重
親子らしならぶつくしの長短
つみもせずわつて見るやつくつくし
手のとどくだけは短しつくつくし
花ぞとも見えぬ哀れや露の蓋
ききなれぬ鳥やまこりのなまりこ
葉の花の中に路あり一軒家
馬の鈴近くて遠き山路かな
佐保姫に笑はれてこそたびの顔
肩の荷をかへるや花の折り勝手
八丈伝の古蹟を尋ぬる道に雨にあって
菅笠や馬琴もしらぬ山の景

(一作、馬の鈴近
く聞えて九折)

三十日

海と山十七字にはあまりけり

はじめ蓮華草を見る

南無日蓮安房は妙法蓮華草

蓮華草に道を迷いて

極楽の道へ迷ふや蓮華草

アメリカもロシアも一つや春籠

七浦や安房を動かす波の音

二見にも似たる岩あり朝日の出

若くなる人の心や春の旅

一日の路や菜の花浪の花

三十一日

落ちさうながけの雫や蘆草

腹べこぺこ発句吐き尽して路遠し

鏡浦

心あるや鏡が浦に波たちて我やつれにし影もうつらず

四月一日

春風や海に花さく真帆片帆

霞む日や見ゆる限りは同じ国

字にかいて蒲公英の名ぞなつかしき

牛は野に雲雀は空やまほ片帆

このあたりの女は老少共に薪を負うて行くに

風うける力柳はやなぎかな

4 漢詩

到大和田

回看城市杳。 莞爾步春光。 拾翠人迷路。 折花蝶恋香。

月従馬頭湧。 風向笠檐狂。 驛舍不容我。 草鞋輕旅裝。

大和田に到る

回看すれば城市杳かなり 莞爾として春光を歩む

翠を拾いて人は路に迷い 花を折りて蝶は香を恋う

月は馬頭より湧き
巒舎 我を容れず

風は笠櫓に向つて狂う
草鞋 旅装 軽し

鋸山

独踞岩窟望塵寰。

浩浩胸懷身覺閑。

撩乱桜花粘仏頂。

氤氳雲氣撲人顔。

山中寒燠関心外。

世上陰晴反掌間。

下瞰海門風浪惡。

捲烟蕃船入京灣。

来上房州第一峰。

岡巒環拱碧千重。

長空連海看孤鶴。

金石成山無老松。

雨蝕仏衣苔迹密。

花藏仙洞露痕濃。

倏然雲起腥風氣。

何処陰崖有臥竜。

鋸山

独り岩窟に踞して塵寰を望めば

浩浩たる胸懷 身は閑を覚ゆ

撩乱たる桜花 仏頂に粘き

氤氳たる雲氣 人顔を撲つ

山中の寒燠 関心の外

世上の陰晴 反掌の間

下 海門を瞰れば風浪悪し

烟を捲いて 蕃船 京灣に入る

来り上る 房州第一峰

岡巒 環拱す 碧千重

長空 海に連なりて孤鶴を看

金石 山を成して老松無し

雨は仏衣を蝕んで苔迹密なり

花は仙洞を蔵して露痕濃し

倏然として雲起ちて風氣腥し

何処の陰崖か 臥竜有る

5 英詩

The Violet

To kiss the violet's lips
In bed of grass I've lain
And cover'd her with sleeves,
A night's shelter from rain.

6 漱石の「かくれみの」評

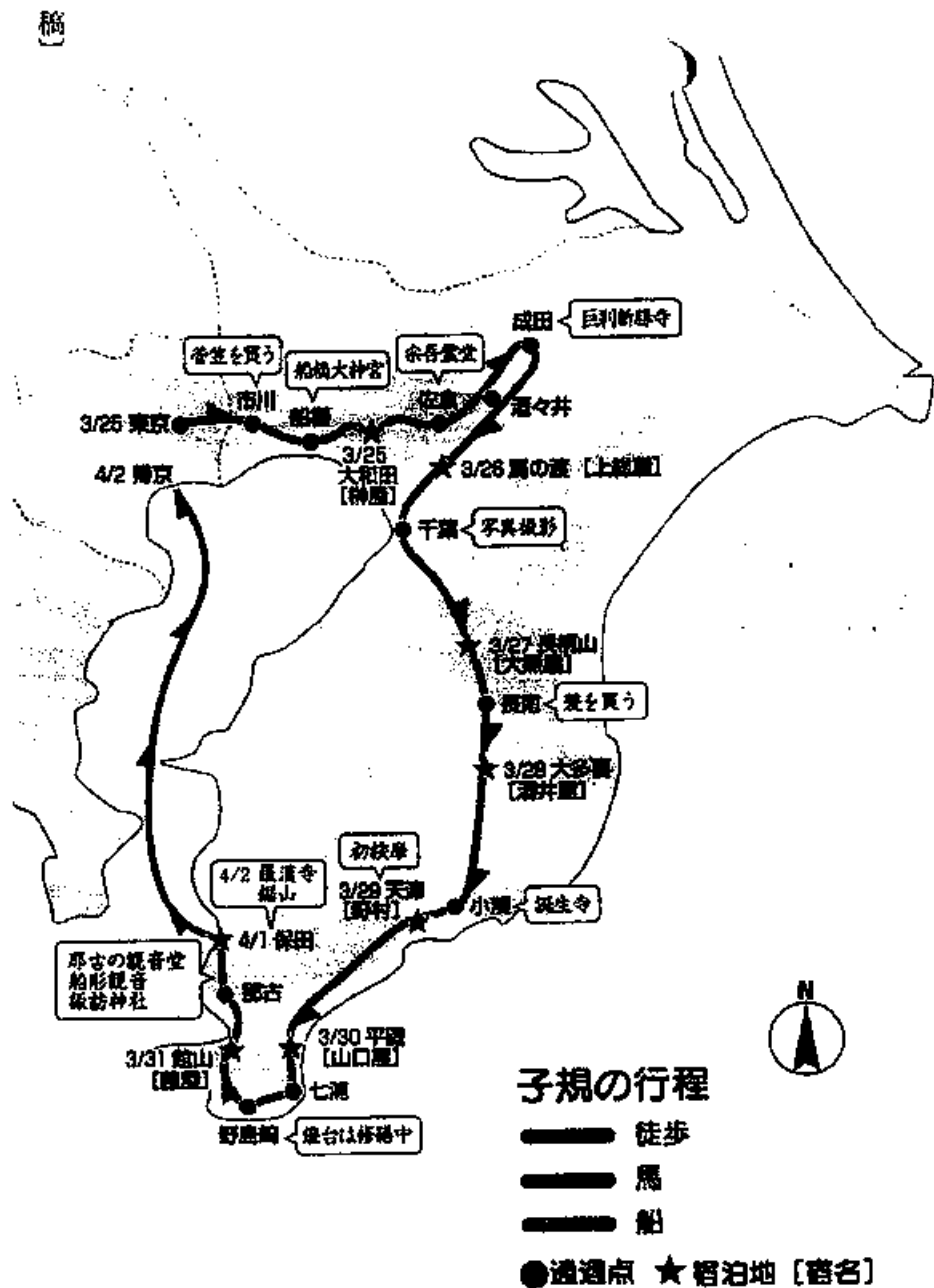
漱石

冒頭の自序先年拝見したる文章とはまるでちがひ、句々力ありて大によろし。しかしあまり念を入れ、ああでもない、こうでもないとい氣を揉みすぎたるため、かえって蝦洪の非難を免れざるこゝろあり。西鶴の文は当時の俗文にもせよ、明治の世には一種変ちきりんな文体なり。西鶴は読むべく摸すべからず、誦すべく学ぶべからず（但しその長所をとつて他の短を補うはこの限にあらず）僕君が明治の西鶴たらずして冥土の西鶴の再生たらんとするを惜む。勿論かかる小品文の遊戯の余にいづるものはどうでもよけれど、他日君が真面目に筆を擧げて紙に對するときは何卒僕の忠告を容れたまわんことを願う。漢文日記まことに面白し。君が才にあらずんば誰かこの思いつきあらん（ひやかすにあらず、ほんとうだよ）俳諧は分らないなりに点をつけたり、まちがったところが御慰みなり。

四月十八日

平凸凹 妄批

大岡信編『子規と漱石』（子規選集9・二〇〇二）より



松山市立子規記念博物館『はて知らず—子規と旅』
(第48回特別企画展図録・2003)より

25/4